

國債元利拂に要する貨幣交換差金 六〇、三三、三〇〇
 在勤俸其他臨時増給及物件費等の増加 一八、四七、一七三
 計 八八、〇七、九七三
 右の外特別會計においては國債元利拂に要する貨幣交換差金百五十萬三千三百四十九圓あり

八年度追加豫算

昭和八年度追加豫算は三月議會を通過した
 がその概数は左の如し(單位圓)

臨時部	六、八五	六、八五
經常部	五、一五九	五、一五九
計	六、八五	六、八五
追加豫算額各省別		
所管別	經常部	臨時部
外務省	五	三、〇三八
内務省	三〇	一七、五九三
大藏省	六、三三五	一、〇三三
陸軍省	一	一、九〇
海軍省	一	三、〇三五
司法省	六	七
文部省	一	二、三六
農林省	一	二、三六
工務省	九	五
逓信省	五八	二四

拓務省 一、五〇〇
 各省經費のうち主なる項目は外務省の救恤金、内務省の北海道災害復興費、一般災害復舊費、陸軍省の火災復舊費、海軍省の海軍工廠資金の増加、司法省の刑務所職員を増加費、文部省の食糧児童救済費、農林省の乾補助成金、商工省の製鐵會社關係の經費、逓信省の滿洲行郵便取扱費、拓務省の東拓外債利子補給金、大藏省の公債利子、爲替管理施行に伴ふ經費、勳章製作費などである

右のうち海軍工廠資金三千萬圓の増といふのは現在海軍工廠資金特別會計に規定されてゐる二千萬圓の資金限度を臨時的に擴張するもので一般會計が借入金をして右特別會計に繰入れるものであるがその資金限度擴張の法律は臨時的のものであるから單行法を制定するはず

なほ歳入中の普通歳入は通信收入、滿鐵の英貨債肩代りに伴ふ爲替差損金の納金、大和川改修費地方分擔金などである

高橋藏相財政演説

昭和八年衆議院における高橋藏相の財政演説内容左の如し
 昭和八年度歳入歳出總豫算の金額は歳入歳出共に廿二億三千九百九十九萬圓であります

歳入豫算は經常部十二億八千九百九十九萬圓、臨時部九億五千九百九十九萬圓でありまして歳出豫算は經常部十三億五千七百九十九萬圓、臨時部八億八千九百九十九萬圓であります、これを前年度實行豫算額と比較致しますと、歳入經常部において七百九十九萬圓、同臨時部において二億八千九百九十九萬圓、歳入合計において二億九千九百九十九萬圓を増加し、歳出經常部において一億四千九百九十九萬圓、同臨時部において一億四千九百九十九萬圓を増加致してをります、昭和八年度歳入に關しその大要を前年度實行豫算額に比較して歳入經常部において七百九十九萬圓の増加となつてをります、歳入臨時部中普通歳入においては主として雑收入の増加により九百九十九萬圓を増加し、經常部臨時部を合計して普通歳入において千六百廿九萬圓を増加致してをります

昭和八年度における歳入の状況右の如くでありますから各種の新規事業に關する經費は滿洲事件費、陸海軍の兵備改善に關する經費、時局匡救に關する經費及爲替相場の變動に基く經費の外は極力これが計上を見合せること、致したのであります

滿洲事件費は豫算編成當時の状況に鑑み共昭和八年度全年度分を計上致しましたが金額は一般會計において外務省所管四百七

十萬圓、陸軍省所管一億四千五百九十九萬圓、海軍省所管千五百五十萬圓、逓信省所管五萬圓、大藏省所管において豫備費として二千萬圓、計一億八千六百廿九萬圓でありまして、その他特別會計において朝鮮總督府百廿九萬圓、關東廳三百廿九萬圓、計四百五十萬圓がでありますから一般及び特別會計を通ずるときは、總額一億九千八百九十九萬圓となり、陸海軍の兵備改善に關する經費は緊急やむを得ざるものとして之を計上致しましたがその金額は陸軍省所管經常部千八百九十九萬圓、臨時部九千六百廿九萬圓、計一億四千六百廿九萬圓、海軍省所管經常部千六百廿九萬圓、臨時部七千九百九十九萬圓、計九千九百九十九萬圓、陸海軍兩省所管合計二億九百九十九萬圓であります、つぎにはゆる時局匡救に關する經費は、一般會計において前年度においてすでに本年度分を豫定したる額四千七百七十萬圓、新規増加額一億五千九百九十九萬圓、計二億七千九百九十九萬圓、その他特別會計に屬する分は朝鮮總督府四百五十萬圓、臺灣總督府八十餘萬圓、樺太廳六十餘萬圓、帝國鐵道八百萬圓、計千六百九十餘萬圓であります、一般及各特別會計を通じて總額二億二千三百九十餘萬圓に上ります

海外拂の増加、最後に外國爲替相場の變動に基いて要する經費は一般會計において國債元利拂に關する貨幣交換差金六千二百餘萬圓その他の貨幣交換差金九百二十餘萬圓在勤俸その他の臨時増給及物件費等の増加千八百四十餘萬圓計千八百餘萬圓であります、なほ從來貨幣交換差金は一般及各特別會計を通じ、一般會計の負擔において支辨したのであります、爲替相場の變動の程度が増加したる現狀に鑑み會計の區分を明かにするため各會計毎にそれ、これを負擔することに改めました

以上申述べました經費はいづれも必要缺くべからざるものであります、結局歳出總額は前年度實行豫算額に比較し二億九千九百九十九萬圓を増加し、總額廿二億三千九百九十九萬圓に達し、到底歳出の全部を普通歳入を以て賄ふことは不可能の狀態であります、しかし歳出増加の主因たる如上の經費はその性質上大部分臨時的のものであります、その金額も巨額に上る關係上到底増税その他の増收計畫によりてその全部を支辨することと不可能なるのみならず、假令その一部を補填する目的を以てしても増税その他増收計畫を樹つことは經濟界が漸く回復の緒に就きたる今日、折角伸びんとするその萌芽を剪除する結果となり大局より見て未だ

その時期でないかと考へますから歳入の不足する額は總て公債財源に依ること、致したのであります

公債發行十億、昭和八年度において一般行計歳出の財源なるべき公債は震災善後公債千八百七十餘萬圓、道路公債千六百六十餘萬圓、電話事業公債千三百二十餘萬圓、電信事業公債七十餘萬圓、滿洲事件公債一億八千六百三十餘萬圓、歳入補填公債六億五千九百四十餘萬圓、合計八億九千九百九十九萬圓、同じく特別會計の分は事業公債に屬するもの朝鮮總督府三千七百七十餘萬圓、臺灣總督府五百萬圓、樺太廳三百五十萬圓、計四千二百餘萬圓、滿洲事件公債に屬するもの朝鮮總督府百廿九萬圓、關東廳三百廿九萬圓、計四百五十萬圓、帝國鐵道に屬するもの四千八百萬圓、合計九千九百九十九萬圓であります、一般及特別會計の合計額は九億八千七百九十餘萬圓であります

歳入出の均衡、なほこれ等の公債の發行方法は大體において七年度通り一應日本銀行をして引受けしめ金融市場の状況に從ひ適宜處理せしむる方針であります、昭和八年度における歳入の不足を公債を以て補填するものが巨額に上つてをりますため、世上財政の前途に對して種々の議論が行はれてゐる様であります、政府においては

財 政——岩手縣財政

物品販賣業稅	三、一五五	三、六三三	一、八四三	四六
金錢貨付業稅	二、七三七	八九五	一、八四三	二
物品貸付業稅	六三	七四	二六	二
製造業稅	一三、五五三	一三、二七七	二六	二
運送業稅	六〇九	六一五	一	六
倉庫業稅	一、四九五	一、四	一	六
請頁業稅	一、四九	一、三〇	一	六
印刷業稅	一、六九	一、三	一	六
出版業稅	一、五九	一、四〇	一	六
寫真業稅	一、七	一、五〇	一	六
席貸業稅	一、二四	一、三〇	一	六
旅人宿業稅	二、八二四	二、五八	二八	六
料理店業稅	三、五九	四〇	一	六
周旋仲立業稅	一、六六	二二	一	六
代理業稅	三、四一	三、六九〇	一	六
問屋業稅	一、五	三三	一	六
湯屋業稅	四、九二	四四七	一	六
理髮業稅	三、四一	三、六九〇	一	六
寄席業稅	三〇八	一、七	一	六
遊技場業稅	一	一	一	六
遊覽所業稅	三、六七	三、九二	一	六
藝妓置屋業稅	五〇八、六九三	五三、九三五	一	六
雜種稅	四、五五	四〇	一	六
代書人稅	八、二六二	八、二五五	一	六
船稅	一七三、七七八	一七三、三〇七	一、〇七一	六
車稅	三、八、五八	三、九、二〇	一	六

一六四

自動車稅	三〇、五八	三〇、〇〇〇	五〇八	一
自轉車稅	一〇四、二八二	一〇三、〇九七	一、一八五	一
水柱稅	五、五四八	五、五四〇	八	一
電車稅	三、三三二	三、四、三三	一、一八五	一
牛馬稅	五、〇〇〇	四、二七一	七九	一
牛頭稅	五、二五〇	五、三、四五	一、一七五	一
馬頭稅	六、二五〇	七、四三五	一、一七五	一
畜犬稅	六、九二〇	四、〇〇〇	一、二七〇	一
狩獵稅	一、六二七	八、〇五〇	一、二七〇	一
屠畜稅	六、〇二九	六、八〇一	一、二七〇	一
不動產取得稅	六、〇二五	一〇八、〇〇〇	一、二九五	一
不動產取得稅	八〇、五七七	九七、二〇〇	一、六六三	一
建物建築稅	一、五、四三八	一〇、八〇〇	四、六六	一
漁業稅	五、九四六	六、八、五〇〇	九、五五四	一
藝妓稅	一〇、六三四	一九、二〇〇	八、五五六	一
興行稅	一、五、〇〇九	一九、一三	三、四〇四	一
遊興稅	二、五、〇〇〇	二〇、〇〇〇	五、〇〇〇	一
鑛泉稅	六、六五	六、四〇〇	二、五	一
旋風器稅	一、七五	四〇〇	一、四五六	一
立木伐採稅	一、三九八	二、八六四	一、四五六	一
備婦稅	一九、四五〇	一、九、四五〇	一、四五六	一
土地及家屋稅	二四、六三九	三三、七二六	九三	一
貸付料	五、六三九	四、七二六	九三	一
株式利益	一九、〇〇〇	一九、〇〇〇	九三	一
當金	一九、〇〇〇	一九、〇〇〇	九三	一

財 政——岩手縣財政

使用料及手數料	二八、六五〇	一九、七六七	八、八八三	一
使 用 料	九、三三三	八、九四七	三、六	一
道路堤塘及並	六、二八二	六、七三三	一	一
木敷地占用料	一、六九四	一、六六七	一	一
河川流水敷	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一	一
地及附屬地	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一	一
占用陳列所	二〇〇	三、五〇	一	一
物產陳列所	一、七	一、七	一	一
土地使用料	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一	一
蕭檢定所使用料	一九、三七	一〇、八〇	八、四九七	一
手 數 料	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一	一
裝 鐵 料	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一	一
手術料及藥價	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一	一
督促手數料	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一	一
放牧寄托料	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一	一
建築設計料	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一	一
販賣料	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一	一
手數料	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一	一
牛馬飼養料	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一	一
手數料	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一	一
手數料	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一	一
國庫下渡金	九、〇三三	八、七、七六二	四、二四〇	一
警察費下渡金	九、〇三三	八、七、七六二	四、二四〇	一
警察費連帶	八、七、七五	八、七、七六二	四、二四〇	一
支辨金	一、三、三八	一、二、五三	一、二、六	一
警察廳舍修繕	一、三、三八	一、二、五三	一、二、六	一
費連帶支辨金	一、三、三八	一、二、五三	一、二、六	一
特別巡查費	一、八、九	一、八、九	一、八、九	一
補給金	一、八、九	一、八、九	一、八、九	一

一六五

警部補增員	一、一〇〇	一、一〇〇	一、一〇〇	一
恩給分擔金收入	三、八八八	二、六七一	一、一八七	一
雜 收 入	六、九、二四五	六、五、九六二	五、一八三	一
納 收 入	八、二二〇	四、九二〇	三、二九〇	一
請願巡査費	六、三〇六	四、九二〇	一、三六六	一
納 收 入	一、九〇四	一、九〇四	一、九〇四	一
放送協會	一、九〇四	一、九〇四	一、九〇四	一
懲罰及沒收金	一、九〇四	一、九〇四	一、九〇四	一
懲 罰 金	一、九〇四	一、九〇四	一、九〇四	一
沒收金	一、九〇四	一、九〇四	一、九〇四	一
賠償金	一、九〇四	一、九〇四	一、九〇四	一
違約金	一、九〇四	一、九〇四	一、九〇四	一
過 料 金	一、九〇四	一、九〇四	一、九〇四	一
學資辨償金	一、七、三三	一、八、七三	一、八、七三	一
裁判所出頭	六、八五	一、一、七二	一、一、七二	一
拘禁及留置	六〇	九二	九二	一
費用執行費	六二五	六〇七	六〇七	一
行政執行費	一、一	一、一	一、一	一
滯納處分費	一、一	一、一	一、一	一
收 入	一、一	一、一	一、一	一
訴訟費用	一、一	一、一	一、一	一
辨償收入	二、七、七六三	二、九、四、八〇二	七、〇三九	一
附屬小學校	一、六五	一、六五	一、六五	一
收 入	一、六五	一、六五	一、六五	一
保育料收入	五、五〇	五、五〇	五、五〇	一

湯屋業稅	404	△	八
理髮業稅	283	△	六八
雜種稅	445,491	△	六三,二〇三
船稅	301	△	七,九六一
車庫稅	173,130	△	二四八
金庫稅	4,918	△	二二
牛馬稅	51,778	△	七三
漁業稅	4,037	△	五四,九〇九
經常收入	721,616	△	一五,三九〇
臨時部	3,280,633	△	二四,六二〇
國庫補助金	3,444,175	△	二,六八三,五〇九
勸業費補助金	1,521,350	△	八六八,八四三
耕地整理費補助	6,755	△	三六〇
船溜船場施設費補助	331,000	△	五〇,〇〇〇
備費補助	311,000	△	五,〇〇〇
築港費補助	311,000	△	五,〇〇〇
荒廢地復舊事業補助	311,000	△	五,〇〇〇
海岸砂防造林獎勵費補助	1,764	△	七,九五三
漁港修築費補助	93,750	△	一,二〇〇
小開墾事業費補助	339,162	△	一七〇,六九〇
小用排水事業補助	215,564	△	五,五〇〇
暗渠排水事業補助	31,564	△	二,三六〇
小設備事業補助	76,676	△	六二,八九〇

耕地擴張改良	44,610	七,一〇〇
事務費補助	1,540	一,五〇〇
船溜船場施設費補助	1,035	一,〇三三
築港費補助	64,695	六四,六九五
監督費補助	1,150	一,一五〇
漁業組合指導費補助	41,150	四一,一五〇
桑園整理補助	150,560	一五〇,五六〇
畜產土木事業補助	41,150	四一,一五〇
炭窯構築費補助	193,101	一九三,一〇一
林道開鑿獎勵	1,844,666	一,八四四,六六六
土木費補助金	300,000	三〇〇,〇〇〇
道路改良費補助	360,000	三六〇,〇〇〇
河川改良費補助	66,666	六六,六六六
砂防工事費補助	100,000	一〇〇,〇〇〇
港灣修築費補助	952,000	九五二,〇〇〇
町村土木事業補助	36,000	三六,〇〇〇
町村土木事業補助	153,813	一五三,八一三
國庫補助金	391,046	三九一,〇四六
縣債利子補給金	284,738	二八四,七三八
寄附金	40,000	四〇,〇〇〇
土木費寄附金	3,665	三,六六五
港灣修築費	4,000	四,〇〇〇
道路修築費	4,000	四,〇〇〇
寄附金	3,665	三,六六五

河川改良費	73,000	七三,〇〇〇
寄附金	63,400	六三,四〇〇
町村土木事業補助	73,419	七三,四一九
勸業費寄附金	15,466	一五,四六六
船溜船場施設費補助	18,750	一八,七五〇
設港費寄附金	4,363	四,三六三
寄附金	86,500	八六,五〇〇
縣債	182,000	一八二,〇〇〇
縣債	182,000	一八二,〇〇〇
臨時部	5,384,149	五,三八四,一四九
歲入合計	8,664,772	八,六六四,七七二
歲出經常部	3,904,830	三,九〇四,八三〇
豫算高	3,790,300	三,七九〇,三〇〇
比較	1,501	一,五〇一
勸業費	58,733	五八,七三三
耕地整理費	41,046	四一,〇四六
勸業諸費	101,253	一〇一,二五三
經常部	2,551,263	二,五五一,二六三
勸業費	98,009	九八,〇〇九
海岸砂防造林獎勵	2,361	二,三六一
特別會計編入金	422,741	四二二,七四一
特別會計編入金	6,366	六,三六六
震災費編入金	73,788	七三,七八八
縣債	6,366	六,三六六
本年度利子	400,183	四〇〇,一八三

時局救護費	1,033,788	一〇三三,七八八
荒廢地復舊事業費	26,553	二六,五五三
耕地擴張改良事業費	499,996	四九九,九九六
年度支出額	355,976	三五五,九七六
農業土木事業補助費	270,006	二七〇,〇〇六
支助費	187,500	一八七,五〇〇
漁港修築費	27,795	二七,七九五
時局救護事業補助金	27,795	二七,七九五
時局救護費	1,795,659	一,七九五,六五九
國庫改良費	83,334	八三,三三四
庫納付金	600,000	六〇〇,〇〇〇
府縣道改良費	710,000	七一〇,〇〇〇
河川改良費	100,000	一〇〇,〇〇〇
砂防工事費	240,335	二四〇,三三五
港灣修築費	48,000	四八,〇〇〇
町村土木事業補助費	1,077,614	一,〇七七,六一四
時局救護費	1,015,400	一,〇一五,四〇〇
町村土木事業補助費	95,214	九五,二一四
町村土木事業補助費	85,000	八五,〇〇〇
町村道改良補助費	85,000	八五,〇〇〇

河川改良費補助	75,000	七五,〇〇〇
港灣修築及防波設備補助	47,314	四七,三一四
町村土木事業補助	63,400	六三,四〇〇
時局救護費	459,880	四五九,八八〇
桑園整理補助	65,100	六五,一〇〇
桑園改良補助	5,860	五,八六〇
桑園整理獎勵費	6,195	六,一九五
指導檢查旅費	1,143	一,一四三
畜產土木事業補助	150,560	一五〇,五六〇
獎勵費	13,200	一三,二〇〇
牧野改良獎勵費	3,400	三,四〇〇
幼駒育成設備	4,960	四,九六〇
畜產土木事業補助	42,194	四二,一九四
指導檢查旅費	201,966	二〇一,九六六
炭窯構築獎勵費	53,000	五三,〇〇〇
林道開鑿獎勵費	3,777,662	三,七七七,六六二
前年度歳入繰上金	3,790,300	三,七九〇,三〇〇
臨時部	8,664,772	八,六六四,七七二
歲出合計	3,790,300	三,七九〇,三〇〇

時局救護農山漁村對策事業資金	47,800	四七,八〇〇
同勸業費轉貸資金	3,300	三,三〇〇
救護費補助支辨	5,000	五,〇〇〇
恩賜救護費支辨	4,600	四,六〇〇
恩賜慈善救濟資金支辨	1,800	一,八〇〇
震災復興費起債額	110,000	一一〇,〇〇〇
土木費復興に充つる爲め	2,911,000	二,九一一,〇〇〇
産業復興費轉貸資金に充つる爲め	110,000	一一〇,〇〇〇
内金三萬圓を蠶糸業復興資金に、金十一萬三千圓を農業復興資金に、金二萬三千圓を畜産復興資金に、金十四萬二千圓を耕地復興資金に、金二十二萬六千圓を商工復興資金に、二百三十七萬七千圓を水産復興資金として町村、漁業組合、産業組合、耕地整理組合、耕地整理共同施行者又は畜産組合に轉貸するものとす	1,050,000	一,〇五〇,〇〇〇
住宅復興費轉貸資金に充つる爲め	3,000	三,〇〇〇
水産試験場復興に充つる爲め	3,000	三,〇〇〇
住宅復興費轉貸資金に充つる爲め	1,050,000	一,〇五〇,〇〇〇
内金二萬七千圓を産業組合住宅資金に、金三十二萬七千圓を住宅組合又は公營住宅資金として町村に轉貸するものとす	300,000	三〇〇,〇〇〇
震災復興事業調査監督費に充つる爲め	4,000	四,〇〇〇
養老育兒院建設費同	183,000	一八三,〇〇〇
歳入欠陥補填金同	183,000	一八三,〇〇〇

減—岩手縣財政

財政—岩手縣財政

時局區救事業起債額

農山漁村對策國道改良納付金に充つる爲め 三、三〇〇
 同農山漁村振興土木費同 二、〇〇〇
 府縣道改良費 二、八〇〇
 河川改良費 三、〇〇〇
 破防工事費 三、〇〇〇
 港灣修築費 三、〇〇〇
 町村土木事業監督費 三、〇〇〇
 同農業土木事業資金に充つる爲め 三、〇〇〇
 漁港修築費 一、五〇〇
 荒廢地復舊費 一、五〇〇

而して右震災起債は大藏省預金部より借入れ利率は年三分二厘以内とし毎年度九月及三月に支拂ひ元金は昭和八年度より十二年度まで五ヶ年間据置き十三年度より二十七年まで十五ヶ年の間にあつて之を償還す但し財政の都合に依つては全部又は幾部を繰上げ償還し若は低利借替を爲す

市町村財政

盛岡市八年度豫算

本年度豫算額
 歳入 二五、三三三
 歳出 二七、五七〇

國庫下渡金 五三、三〇〇
 國庫補助金 三、六八二
 縣費補助金 五、二七〇
 繰越金 七、〇〇〇
 寄附金 二、五〇〇
 雜收 二、四二三
 財產賣却代 三、〇〇〇
 特別會計編入金 九、五〇〇
 市入合計 三、四六四
 歳入合計 五〇、八六九

經常部

職業紹介所費 三、四〇五
 住宅費 二、四九九
 救護費 六、三三九
 警備費 一五、五四六
 精神病者收容所費 一、七七八
 精神病者收容所費 一〇〇
 鐘樓費 一〇〇
 徵發費 一〇
 基本財産造成費 一、〇六一
 諸税及負擔 一、三三七
 公金取扱費 一、四〇〇
 聖蹟保存費 三三三
 統計費 三九五
 雜支費 一、七六一
 豫備費 三、〇〇〇
 經常部計費 三、六、七五五

臨時部

都市計畫費 一、七〇三
 土木費 六、二〇〇
 勸業費 九六八
 公用債費 一、五〇〇
 運入金積戻金 一、三〇一
 表彰費 九六八
 積立金 一、五〇〇
 寄附金 二〇七
 記錄編纂費 二、三三〇
 汚物掃除費 一、六〇五

傳染病院費 七〇〇
 臨時部計 一五二、一四四
 歳出合計 五〇、八六九

八年度町村豫算

町村附加税 三、四二、四八八
 地租附加税 四、一、五九九
 特別地租附加税 一〇七、〇〇〇
 營業收益税附加税 八〇、六三八
 礦業税附加税 九、二二三
 砂礦區税附加税 一〇
 家屋税附加税 二〇三、九七〇
 縣稅營業税附加税 六四、〇〇五
 縣稅雜種附加税 四三、三六六
 特別稅反別割 三、三三一
 特別稅戶數割 二、〇五九、六五三

財政—岩手縣財政

水道使用料 一〇、六五五
 屠場使用料 二、六一一
 用水路及溜池使用料 二〇七
 電氣使用料 一、三、七五五
 其の他 六、〇八五
 戶籍手数料 四、九三六
 督促手数料 一、四、五五六
 其の他 一、一〇三
 國庫下渡金 一、六、二七七
 義務教育費下渡金 一、五、四八四
 一年現役小學校教員俸給費下渡金 一、五、四二七
 國稅徵收交付金 五九九
 國稅徵收交付金 四、〇〇四
 縣稅徵收交付金 四、二〇九
 水利組合費徵收交付金 六八〇
 農會費徵收交付金 三三六
 耕地整理組合費徵收交付金 三三五
 健康保險料徵收交付金 四
 國有林野所在地町村交付金 三、九九九
 宮内省御下賜金 一〇、〇七〇
 納付金 一三三
 國庫補助金 七、六八二
 地稅名寄帳整理費補助 四、二六六
 職業紹介所費補助 三、九八八
 救護費補助 七、六〇〇

公益質屋費補助 一、一五五
 尋常小學校費臨時國庫補助 三、三三三
 傳染病豫防費補助 三、七四〇
 道路費補助 二、六二〇
 罹災救助資金補助 六、三三八
 實業補習學校補助 一、四、六六七
 青年訓練所費補助 一、四、七六六
 救護費補助 一、四、三三五
 產業統計費補助 八、七八四
 農業技術員設置補助 八三九
 商業專修學校補助 一四四
 傳染病院建設及設備費補助 八、六四三
 托兒所費補助 七
 電話架設費補助 一〇〇
 河川修築費補助 一、二、五七一
 荒廢地復舊費補助 二、七〇〇
 暗渠排水事業費補助 一
 港灣修築費補助 三、〇〇一
 船溜場設備費補助 二〇、九四八
 採種圃設置補助 二〇
 牧野整理補助 三、一三五
 造林費補助 九七五
 トラホーム豫防費補助 七〇%

寄附金	7,466	社會事業費寄附	10	時局匡救町債利	1,176
小學校建築費寄附	4,208	青年訓練所費寄附	55	時局匡救町債利	1,176
奉安庫建築費寄附	400	育英資金寄附	20	時局匡救町債利	1,176
役場營繕費寄附	1,000	町村治改善寄附	100	時局匡救町債利	1,176
役場費寄附	1,524	勸業費寄附	1,626	時局匡救町債利	1,176
小學校費寄附	1,439	牧野整理費寄附	1,626	時局匡救町債利	1,176
實業補習學校費	7,390	渡船場費寄附	25,326	時局匡救町債利	1,176
實科高等女學校	1	費途指定なき寄附	49,822	時局匡救町債利	1,176
高等女學校費寄附	1,577	基本財産繰入金	30,455	時局匡救町債利	1,176
基本財産寄附	1,071	學校基金財産繰入	8,800	時局匡救町債利	1,176
小學校基本財産	7,455	小學校建築費積立金繰入	200	時局匡救町債利	1,176
公會堂建築費寄附	2,000	役場營繕金繰入	3,070	時局匡救町債利	1,176
道路橋梁費寄附	3,647	警備資金繰入	400	時局匡救町債利	1,176
電話維持費寄附	1,600	火葬場設置費積立金繰入	3	時局匡救町債利	1,176
圖書館費寄附	1,600	罹災救助資金繰入金繰入	5,409	時局匡救町債利	1,176
教員住宅費寄附	7,970	道路改修費積立金繰入	900	時局匡救町債利	1,176
警備費寄附	7,970	町村一部積立金繰入	507	時局匡救町債利	1,176
造林費寄附	1,000	財産賣拂代	13,755	時局匡救町債利	1,176
火葬場設置費寄附	240	土地賣拂代	13,042	時局匡救町債利	1,176
財産管理費寄附	351	物件賣拂代	3,373	時局匡救町債利	1,176
用水路改良費寄附	1	前年度繰越金	43,033	時局匡救町債利	1,176
就學獎勵費寄附	4,355	町雜收	43,033	時局匡救町債利	1,176
耕地整理費寄附	4,355	債入	848,490	時局匡救町債利	1,176
電氣事業費寄附	333			時局匡救町債利	1,176
消防基金寄附	333			時局匡救町債利	1,176

溜池	9,926	史蹟名勝天然記念物保存費	840	縣土木費寄附	17,331
其の他	187,645	社會事業費	488,355	消防義會寄附	350
教育	3,258,033	救護費	12,208	電話架設費寄附	950
尋常小學校費	491,078	職業紹介所費	14,933	縣勸業費寄附	2,750
尋常高等小學校費	2,402,588	浴場費	92	縣教育費寄附	34,155
教育委託報酬金	6,735	託兒所費	70	青年訓練所費寄附	100
商業學校費	33,844	救護住宅費	47,999	補助費	89,933
中學校費	19,016	公營住宅費	10,258	神會補助	5,298
實業補習學校費	12,499	恩賜救療所費	84	教育會補助	4,454
高等女學校費	6,092	社會事業調查費	1,390	青年團補助	8,799
圖書館費	49,620	講演會費	20	私立女學校補助	1,061
其の他	19,922	方面委員費	20	幼稚園補助	1,100
衛生	38,588	授産事業費	17,338	日曜學校補助	35
傳染病預防費	38,588	警備費	1,694	教育後援會補助	30
傳染病院費	1,150	基本財産造成費	339,599	戶主會補助	95
隔離病舎費	8,922	徵收費	84,883	母の會補助	25
水道費	4,377	積立金	43,205	主婦會補助	150
下水道費	300	財產及負擔費	28,331	婦女會補助	107
汚物掃除費	1,685	税金	79,154	處女會補助	10
居場費	2,357	公債費	2,335	女子青年團補助	2,456
公園費	2,005	公債取扱費	79,154	少年赤十字團補助	190
墓地費	77	訴訟費	1,506	少年團補助	78
火葬の他	3,899	雜支費	1,617	學齡兒童保護會補助	245
其の他	3,669	豫備費	1,987	圖書館補助	20
勸業	90,788	寄附金	50,721	修養會補助	50
市場費	43	神社費寄附	1,755	育英會補助	1,090
電氣事業費	120,501			盲啞學校補助	180

財政—岩手縣財政

私立夜間中學校補助	三〇〇	在郷軍人分會補助	三、七七一	スキ1協會補助	三〇
圖書協會補助	一〇〇	自警團補助	一、九八五	馬匹評會補助	三〇
衛生組合補助	四、三七八	火防組合補助	一八五	稚鷺共同飼育所補助	三〇
上水道組合補助	三〇〇	火盜豫防組合補助	五〇	漆栽培組合補助	三〇
火葬場補助	三〇	道路保護組合補助	九七〇	渡船場補助	三〇
トラホーム豫防組合補助	九	街燈組合補助	四	公會堂建設組合補助	五〇〇
農會補助	二五、六九〇	史蹟保存會補助	一五〇	補	三〇
養蠶組合補助	四、〇三二	保勝會補助	三〇〇	海洋健兒團補助	三〇
農事改良組合補助	八〇	納稅組合補助	二五	家庭教育所補助	三〇〇
煙草耕作組合補助	一八五	軍人後援會補助	三〇	浴場補助	三〇〇
產業組合補助	三、〇九〇	佛教會補助	三〇	飲用井戸修繕費補助	二五
森林保護組合補助	八三三	寺院補助	三〇〇	町勢調査會補助	一、四四五
商工會補助	六五〇	隣保會補助	五〇	協賛會補助	五〇
畜産組合補助	一〇〇	水難救濟會補助	二〇〇	港灣改築期成同盟會補助	五〇
工業組合補助	一〇〇	窮民救濟會補助	三三三	輪誠會補助	七〇
養豚組合補助	一、四三三	釋放者保護組合補助	三〇〇	幼駒育成組合補助	五〇
養雞組合補助	一八〇	托兒所補助	二〇	公會堂	三、三六四
副業組合補助	三〇〇	統計協會補助	二〇	獵倉庫費	一、〇〇〇
副業組合補助	三〇	社會事業協會補助	二〇	船標入費	四、〇三
副業組合補助	三〇	經濟更生會補助	三〇	財源購費	三二五
副業組合補助	三〇	鑄造業組合補助	二〇〇	造林費	一、四〇八
副業組合補助	三〇	馬匹衛生組合補助	二〇〇	統計費	四、〇八
副業組合補助	三〇	馬匹傳染病豫防組合補助	二〇〇	町村改善費	五、八六七
副業組合補助	三〇	馬匹傳染病豫防組合補助	二〇〇	經濟更生費	一、三六
副業組合補助	三〇	杜氏組合補助	二〇〇	選舉費	一、三六
副業組合補助	三〇	武道會補助	二〇〇		

育英資金貸付金 一、八〇〇
 失業救済資金貸付金 三、七七八
 自作農創設維持資金 三、八八九
 金貸付金 三、五九七
 公益質屋資金貸付金 七、七九〇
 生業資金貸付金 一、四、三六一
 小口産業資金貸付金 六、三三三
 小額生業資金貸付金 六、三三三

租 稅

國稅徵收成績 (昭和七年度納期別收入歩合)

岩手縣 (全般)

種別	第一期	第二期	第三期	第四期	全年
第三種所得稅	八、五〇〇	八、七六六	八、七五〇	九、四一〇	八、七二七
田租	九、四八〇	九、五〇〇	九、五〇〇	九、五〇〇	九、五〇〇
畑地租	八、八〇〇	八、八〇〇	八、八〇〇	八、八〇〇	八、八〇〇
住宅地租	八、八〇〇	八、八〇〇	八、八〇〇	八、八〇〇	八、八〇〇
雜地租	八、八〇〇	八、八〇〇	八、八〇〇	八、八〇〇	八、八〇〇
營業地租	八、八〇〇	八、八〇〇	八、八〇〇	八、八〇〇	八、八〇〇
乙種資本利子稅	九、七〇〇	九、七〇〇	九、七〇〇	九、七〇〇	九、七〇〇
礦産稅	二、七〇〇	二、七〇〇	二、七〇〇	二、七〇〇	二、七〇〇
採掘礦區稅	三、六〇〇	三、六〇〇	三、六〇〇	三、六〇〇	三、六〇〇
試掘礦區稅	三、八〇〇	三、八〇〇	三、八〇〇	三、八〇〇	三、八〇〇

盛岡稅務署

種別	第一期	第二期	第三期	第四期	全年
第三種所得稅	八、三〇〇	八、四〇〇	八、七〇〇	八、七三〇	八、三三〇
田租	九、六〇〇	九、六〇〇	九、六〇〇	九、六〇〇	九、六〇〇
畑地租	九、三〇〇	九、三〇〇	九、三〇〇	九、三〇〇	九、三〇〇
住宅地租	九、三〇〇	九、三〇〇	九、三〇〇	九、三〇〇	九、三〇〇
雜地租	九、三〇〇	九、三〇〇	九、三〇〇	九、三〇〇	九、三〇〇
營業地租	九、三〇〇	九、三〇〇	九、三〇〇	九、三〇〇	九、三〇〇
乙種資本利子稅	八、五〇〇	八、五〇〇	八、五〇〇	八、五〇〇	八、五〇〇
礦産稅	二、七〇〇	二、七〇〇	二、七〇〇	二、七〇〇	二、七〇〇
採掘礦區稅	三、六〇〇	三、六〇〇	三、六〇〇	三、六〇〇	三、六〇〇
試掘礦區稅	三、八〇〇	三、八〇〇	三、八〇〇	三、八〇〇	三、八〇〇

花卷稅務署

種別	第一期	第二期	第三期	第四期	全年
第三種所得稅	九、〇〇〇	九、〇〇〇	九、〇〇〇	九、〇〇〇	九、〇〇〇
田租	九、五〇〇	九、五〇〇	九、五〇〇	九、五〇〇	九、五〇〇
畑地租	九、三〇〇	九、三〇〇	九、三〇〇	九、三〇〇	九、三〇〇
住宅地租	九、三〇〇	九、三〇〇	九、三〇〇	九、三〇〇	九、三〇〇
雜地租	九、三〇〇	九、三〇〇	九、三〇〇	九、三〇〇	九、三〇〇
營業地租	九、三〇〇	九、三〇〇	九、三〇〇	九、三〇〇	九、三〇〇
乙種資本利子稅	九、四〇〇	九、四〇〇	九、四〇〇	九、四〇〇	九、四〇〇
礦産稅	二、七〇〇	二、七〇〇	二、七〇〇	二、七〇〇	二、七〇〇
採掘礦區稅	三、六〇〇	三、六〇〇	三、六〇〇	三、六〇〇	三、六〇〇
試掘礦區稅	三、八〇〇	三、八〇〇	三、八〇〇	三、八〇〇	三、八〇〇

水澤稅務署

種別	第一期	第二期	第三期	第四期	全年
第三種所得稅	七、八〇〇	七、八〇〇	七、八〇〇	七、八〇〇	七、八〇〇
田租	九、三〇〇	九、三〇〇	九、三〇〇	九、三〇〇	九、三〇〇
畑地租	九、三〇〇	九、三〇〇	九、三〇〇	九、三〇〇	九、三〇〇
住宅地租	九、三〇〇	九、三〇〇	九、三〇〇	九、三〇〇	九、三〇〇
雜地租	九、三〇〇	九、三〇〇	九、三〇〇	九、三〇〇	九、三〇〇
營業地租	九、三〇〇	九、三〇〇	九、三〇〇	九、三〇〇	九、三〇〇
乙種資本利子稅	九、三〇〇	九、三〇〇	九、三〇〇	九、三〇〇	九、三〇〇
礦産稅	二、七〇〇	二、七〇〇	二、七〇〇	二、七〇〇	二、七〇〇
採掘礦區稅	三、六〇〇	三、六〇〇	三、六〇〇	三、六〇〇	三、六〇〇
試掘礦區稅	三、八〇〇	三、八〇〇	三、八〇〇	三、八〇〇	三、八〇〇

租—國稅徵收成績

税 一 國稅徵收成績

Table showing tax collection performance for various categories like 酒造, 砂鑛, 採掘鑛, etc., under the 一ノ關稅務署. Columns include tax type, period, and amount.

盛稅務署

Table showing tax collection performance for various categories under the 盛稅務署. Columns include tax type, period, and amount.

下閉伊稅務署

Table showing tax collection performance for various categories under the 下閉伊稅務署. Columns include tax type, period, and amount.

一八四

二戸稅務署

Table showing tax collection performance for various categories under the 二戸稅務署. Columns include tax type, period, and amount.

岩手縣稅課率

(昭和八年度)

地租附加稅 本稅一圓に付一圓五十六錢三厘
特別地稅 土地賃賃價格一圓に付五錢九厘
營業收益稅附加稅 本稅一圓に付七十八錢

第二十八條中「遊藝人」及「酌婦を含む」を削り「立木伐採」の次に「儲婦」を加ふ
第三十五條第一項中「消費金額」を「花代」に改む

租 稅 一 國稅徵收成績

Table showing tax collection performance for various categories like 別表中營業稅, 一物品販賣, etc., under the 國稅徵收成績. Columns include tax type, period, and amount.

Table showing tax collection performance for various categories like 寫眞業, 旅人宿業, etc., under the 國稅徵收成績. Columns include tax type, period, and amount.

Table showing tax collection performance for various categories like 收入金額, 圓以下なるとき, etc., under the 國稅徵收成績. Columns include tax type, period, and amount.

一八五

黒澤治助兩氏が第一線に立つて各地方を説き廻りその手を全縣的に擴めた本運動の趣旨とするところは

縣下の現状は其歴史的に地理的に或は産業分布に各々異なる事情をなし一新銀行のみにては到底満足すべきに非ず依つて舊銀調査の結果三行合同或は再起可能の何れかの銀行を甦生せしめ新銀の附隨補足の意味に於て經營せしめば獨り財界の期待に副ふのみならず新銀も爲に信用の程度を高め舊銀も之に追従と信用回復を爲し得るといふにある

全縣擧げて更生運動

かくて九月、二月、北岩手預金者五千名の調印を得て更に盛岡市會議員等の賛同を得て廿八日市街樓上で舊銀更生期成同盟會發會式を擧げ全縣的に更生運動の烽火を擧げた市部は石川嘉七石川金次郎川村松助氏等が主となつて全市から調印を纏めることに着手した、九月十一日期成同盟會は役員會を開いて委員を擧げ知事に更生援助方を陳情した

更生運動は全縣下に及び十月十二日花巻町において縣商工聯合會評議員會は本縣金融梗塞の爲め縣下休業銀行の整理合同更生を圖る事を決議し各郡樞要地に舊銀更生期成同盟會を組織することとした、一方盛岡商工會議所も更生運動に立つことに態度を決

定し十月十一日聲明書を發した

十一月八日更生同盟聯合會は盛銀の官選重役絶對反對を可決花巻側もこれに呼應し、十一月九日盛銀株主總會において絶對多數を制して豫定の重役選任を見たが更に間隙を置かず直ちに第二段の實行運動に移るとし先づ盛銀新重役に同會より希望意見を提出し次いで来るべき岩銀總會を控へて一層内部の結束統制を計ることとし、十一月十二日委員會において會長に宮澤直治氏副會長に石川嘉七、高瀬新太郎氏、幹事長に石川金次郎氏を決定し同時に會則の一部を變更し休業三行をして整理合同甦生に一路進むこととし、二十七日花巻温泉において聯合委員會を開催し休業三銀行に對して速かに更生整理案を發表の上合同更生を促すの決議を擧げた、然るに大藏省は上京陳情に對して當局は斷乎として反對を表示し又折角の陳情を受けた縣出身の代議士連も具体案がなければ更生援助は出来ぬと積極的に乗出さぬので茲に至つて更生運動は全く暗礁に逢着してしまつた依つて十二月一日又も委員會を開いて三行常務の同意を得て更に關係當局へ懇請することとし、石川委員長外多勢上京委員を決定した、五日一同打揃つて上京根強く更生運動の趣旨を説

明した結果大藏省側の感情も幾分緩和され三行合同による整理更生に對しては九十銀行の態度如何によりそれ／＼整理案を認可の上善處せしむる意向をもち併し九十銀行があくまで單獨整理更生へ進む場合は盛銀岩銀の兩行を整理解消せしめ九十のみを單獨更生せしむる方針に出づるものではないかと見られるに至つた

更生運動遂に失敗

茲に至つて休銀更生運動は遂に暗礁に乗り上げ打開の途さへつかざる結果に陥つたので盛岡休銀更生同盟會では十二月二十六日最後の實行委員會を開きいよいよこれが打ち切りを決議するに至り左の如き退陣聲明書を満場一致決議を爲し二十七日發表茲に盛岡休銀更生同盟會は解散するに至つたのである

退陣聲明

一、我等は郷土熱愛の至情より混亂岩手の金融秩序再整理のため「舊銀甦生期成同盟會」を組織して聊か奔走運動せるも、我に利なく茲に退陣の餘儀なきに至つた今茲に退陣の聲明を爲さんとするに當り眞情を吐露して縣下有識の士に訴へ罪過あらば衷心より謝せんとするものである一、縣下金融破綻解決の歸趨は之に二途ありと確信する、一は其必然的行程たる解消整理(強制和議、破産、解散命令)であり

一は甦生整理である、我等は所謂監督官廳案たる解消整理案に反對し甦生整理案を以て郷土金融混亂樹直しの最善の方途なりと主張し、之が實現に奔走したのである。解消整理に對して甦生整理の優れたるものあるは官邊と雖異論のなかつた所である。只其實現如何、即ち可能性の問題であつた。我々をして言はしむれば官民協力せんか、甦生の可能疑ふべき餘地なかつたのである。整理資金として岩手縣民の負擔による三百五十萬圓を擁し、又之を指導援助すべき目的を以て設立せられたる我等の殖産銀行あり、縣民之に協力せんか甦生整理何の難ぞ。我等が斯くして舊銀甦生整理——三行合同——縣下金融機關の統一なる案を樹て、之が實現を目的としたのである。而して我等の力の限界に於て、縣民輿論の指導の任を、眞ひ外界に立つて所謂外側運動としての運動を開いたのである。

二、然るに我等の成案は熱意をこめて陳情したりと雖も、不幸監督官廳の容るゝ所とならざると共に銀行當局の聲明は實質之に伴はず、我等の主張は次第に縣下に認められ運動に勢力を加へ今や縣民運動の觀を呈するに至りたりと雖も本體たる各休業銀行の狀態は之に逆行して振はず其間連絡統一を求め能はずして我等の支

昭和七年十二月

盛岡舊銀甦生期成同盟會 實行委員會

盛岡休銀更生同盟の退陣によりこれと同時に更生聯合會が自然解消するではないかと見られてゐたが三十日聯合會長宮澤直治氏は左の如き聲明書を發表し聯合會は從來の主義方針に變更なく休銀更生整理三行合同縣下金融機關の統一に邁進すべく態度を宣明した

盛岡更生同盟退陣と聯合會の態度

此度盛岡休銀甦生同盟會が退陣を聲明せられたに就て各地の同盟會より成る聯合會も同時に解散するのではあるまいかとの疑念又は誤解を抱かるゝ向無きを保し難いと思はれますので爲念此處に吾が聯合會の態度に就て一言致して置き度いと存じます

一、休銀甦生運動は盛岡を中心とし縣北から漸次縣南に及んで遂に縣下全般の輿論となつたのであります吾々が各地に同盟會を組織したのは過般町村長會の調査に依て各銀行の内容が發表せらるゝに及び之を基礎とするならば休銀の甦生は可能であり、その甦生が預金者、債務者並に株主の實際上の眞の幸福であり、從つ

て夫れが縣下財界の安定更生の最善の途であることを確信したがためであつて斷じて人の煽動に附和雷同して立つたものでなく未だ官憲の諒解を得るには至らないけれども吾々の信念は爾來各行の生きんとする努力に依る内容の漸進的改善と一般輿論の動向とに依て益々その強固を加ふるのみであつて必ずや自力更生をモットーとする現内閣官憲の釋然たる諒解を得るに至るべきを信ずることに何等の變りはないのであります

二、由來殖銀は縣下三大銀行の合同が未熟で時期尙早であつたために便宜上縣と休銀二行との合辨に依り設立せられたのであつて一縣一行主義と休銀の誕生に依る縣下財界安定立て直しとを一致せしむる目的使命を持つものなることは昨年金融恐慌以來の經過に徴し嚴として動かすべからざるものと信ずるのであります、吾々はその後一部の空氣は何となく殖銀は休銀の誕生に依る縣下財界安定更生を忘れて休銀解消をその使命とするが如くに考へらるゝが如くに見ゆるのを不可思議に思ふのであります。縣民は縣債百五十萬圓を出資して殖銀を設立せしめて居るので吾々はその存立を強固安全にせしむべきことを深く思ふものである。同時に

縣下財界の安定更生を目的とし、使命として設立されたことも忘れてはならぬと思ふのであります。即ち吾々は休銀を整理更生せしめて殖銀に累を及ぼさぬ状態に基礎を固めて適當の時期に新舊合併をなさんことを目標とする所以であります

三、近來論を成すものは休銀を殖銀に合併することは休銀の解消ではないかと云ふ向もある様であります、假へば婿に行き若くは嫁に行き乃至は婿や嫁を貰ふのは生かればこそ出来るのでありまして解消整理と違ふことは論を俟たない處であります、解消整理は他く迄解消整理であり更生整理は他く迄更生整理であります解消整理は縣下の一部の銀行のみが破綻し大部分の銀行が健全なる場合には適當かも知れないが全部の銀行が破綻した時には決して適當でもなく又有利でもなく従て長く安定更生を得る所以ではないと信ずるものであります

四、盛岡同盟會に於ても舊銀の更生整理は縣民の利益にして且つその可能なりとの信念を抛棄するものでないとはその聲明書に言明して居る處であり舊銀更生整理——三行合行——縣下金融機關の統一を目的として立たれたものであるがその外側更生運動が時に危険に逢着するあるを

見るに及んで退陣を決意せられたと言ふのは如何なる事情を言はるゝのか、誠に遺憾の事と思ひます。況んや一敗地に塗れたるかの如く思はれて退陣せらるゝと言ふのは吾々の理解に苦しむ處であつて縣下の財界安定立て直しは他く迄官民一致でかゝらねばならぬ重大問題であつて官にして若し良く民意に通ぜらるれば大使命の解決も敢て困難ではないと信ずるものであります吾々は官民對陣闘争の下にこの大目的を達せんとするものではなくて他日再び提携の期あるべきを信ずるものであります

茲に聯合會は從來の主義方針に何等の變りなきことを言明する次第であります尙聯合會の事務は盛岡の有志諸君が從來通り執つて下さるとの御好意ある御申出もあり依然盛岡市中ノ橋銀行クラブ内に事務所を置くことに致しました

岩手縣休銀更生期成同盟會聯合會々々長 宮澤直治

町村長會

銀行問題に對して第一線に立つた縣町村長

會實行委員會は七年六月三十日協議の結果先づ各銀行について資産内容調査と重役の私財提供を迫ることを決定した。資金内容調査については計理士二名を依頼し直ちに調査に着手したが七月三十日、秋山計理士から一先づ調査經過を發表した、一方盛岡、岩手兩銀行が曩に發表した整理案は實行の可能性なしとの結論に到達したので新に整理案を作る必要を生じた、新整理案の作製並に整理の衝に當る新重役は株主總會において選舉せねばならぬので町村長會が委任狀を取纏め總會に臨むこととなつた

兩行内容調査中の町村長會依頼の計理士は十一月五日兩行の資金負債の内容を詳細に發表した

休銀整理對策審議の町村長會評議員會は十二月廿一日開會、先づ細川會長から今日迄の經過報告あり併せて今後の方針に就いては監督官廳に陳情を重ね金融の圓滑を計り度いと述べ兩行は大藏省に對し整理鞭撻することとして散會した

盛岡銀行

金田一頭取辭任

金田一頭取はその責任を感じ七年六月三十日頭取を辭すると共に一切の公職を去つて

上衆小路の邸宅も引拂ひ謹慎の意を表した八月十日同行は先づ百六十名の行員を整理發表した。かくて更生重役を決定すべく十一月九日臨時株主總會を縣公會堂に開いたが縣町村長會は官選を推さんと、又更生派は他くまでも更生派の勝利に歸せんと總會は雨か風か異常の緊張程に議事を進行した先づ太田常務から今日までの經過報告ありいよゝ重役選舉に入つて

○取締役 太田孝太郎(盛岡) 松田忠太郎(花巻) 吉田庄四郎(黒澤尻) 菊池第三(盛岡) 箱崎圭介(花巻)

○監査役 細川久(町村長會) 柴田半左衛門(高田) 矢幅正三郎(高田)

右の如く決定、翌十日の新重役會の結果太田氏を頭取に、矢幅氏を常任監査役に選定今後共更生を指標に一同協力邁進することを申合せた而して同行の整理方針を左の如く決定した

- 一、合議制を勵行する
- 一、顧問(二名)を設置
- 一、新に支配人を物色する
- 一、地方相談役を置く
- 一、經費の節約を圖り犠牲的精神で行く

更生期成同盟會は豫て審議中の盛銀休業後本年十月末現在の資産内容を十一月十五日發表したがそれに依ると

資産の部

昨年十一月二十五日に於いては五千三百一十三萬圓の資産を有してゐたものが本年十月末には一千五百九十六萬二千圓減少し三千七百五十五萬圓となつた主なるものは現金預金七十四萬圓有價證券五十八萬圓貸付金勘定で九百八十八萬圓當座貸越が三百三十萬圓等が減額してゐる

負債の部

主なる減少額は預金の一千三百十八萬圓が筆頭で借入金三十六萬圓貯蓄代理は五十二萬圓難勘定百六十二萬二千圓等が減じたが相殺代物辨濟等で百五十萬圓の利益金が計上されてゐる

以上は支拂制限以降の預金減少の結果である

貸金と相殺によるもの	一、六三三、〇〇〇
代物辨濟によるもの	六、四四四、〇〇〇
差入擔保處分によるもの	六、〇五、〇〇〇
現金支拂によるもの	四、三三八、〇〇〇
合計	三、一八〇、〇〇〇

然るに同行は十二月に入つて太田頭取盛岡地方裁判所検事局の取調べを受け八日夜遂に收容されるに至つたので十日應急對策に關する緊急重役會を開いた結果常務は置かず重役合議制に依つて整理案を急いで作成することに方針を取り極めた

整理亭頓

更生重役を擧げた盛岡銀行ではその後整理案が益々遅延するので石黒知事は一月三十一日盛銀の箱崎菊池兩重役を招致し先に同行で一月末日までに整理方針を確定すると一札を提出し乍らまだ停頓状態にあることは如何なる理由であるかと意向を聴取し警告するところあつたが兩重役より種々の都合で遅延のやむなきに至つたことは遺憾であるが目下全重役全力を以つて整理案作成にあつてゐる旨を述べた整理案成つた盛銀重役は二月八日東京大藏省に提出したが容認されず保留となつた一面同行の検事局における事件擴大の傾向を示し整理案は認められず同行では四月十五日重役會を開いて舊重役財産提供資金化について協議するところあり來盛調査中の駒井代議士(前大藏省銀行検査官)の検査結果に基いて再度整理案作成することとなつた

遂に營業取消

ぐづぐづしてゐるうちに五月五日大藏省から重役出頭せよの招電に接し七日吉田、箱崎、菊池、松田の四重役が上京し大藏省に大久保銀行局長を訪問したがその席上大藏省より痛烈な警告を受けた即ち銀行局長は一、去る二月提出した整理案が不誠意杜撰極まるものであること

清算人の手に

依つて今後盛銀の整理は裁判所の監督下に移され、裁判所が選任した
清算人 市議辯護士石川金次郎、市議上野正一郎、辯護士工藤吉次
三氏の手に移された、和議か、破産か、一に清算人の方針に注目されることとなつた

岩手銀行

休銀三行中最後に残された岩手銀行は重役選定其他總て縣に一任してある以上更生運動に轉ずるわけにも行かず縣で何とかするだらうと更生同盟會の交渉にも確答を與へてゐなかつたが十一月十二日岩銀單獨更生同盟會は
委員長池野三次郎、委員菊池儀兵衛、戸塚勇助、小笠原徳兵衛、池野權治
諸氏等參集協議の結果盛銀同様知事の推薦する重役は排撃することに決した、しかし更生派は銀行側と數次に亘つて折衝を重ねた結果盛銀總會の事情に鑑み縣民一致の力に依らざれば整理の進行出來ないので重役を石黒知事に一任することとなり十二月二十日重役選任の臨時總會を開いたがなか

く纏らず結局工藤祐造氏等十四名の重役
銓衡委員を擧げて本問題を新年まで持越すこととして總會を散會した

官選重役承認

銓衡委員は協議の結果頭取と常務は官選に依頼することに態度を決定、二十二日官邸に石黒知事を訪問懇願したが知事はこれは株主の總意に非ずとの理由を以つて之れをキツパリ拒絶するに至つた、しかし委員一同は飽くまで目的達成のため東京の知事の後を追ふて出京大藏當局並に知事に再三懇願したが知事軽々に引き受けず困り切つた委員は二十八日進藤殖銀頭取を訪問し官選依頼について懇談を遂げ是非知事を動かす様盡力せられたいと懇請した結果進藤頭取は善處する旨を述べた、依つて右問題は知事歸廳後において折衝開始することとなり新年に入つて進藤頭取石黒知事等と數次會見を遂げた結果知事これを引き受け二月八日臨時株主總會を開き知事から五重役を推薦したが異議なくこれを承認した

○取締役 安彦要(殖銀)三浦淳吉(町村長會)池田嘉壽彦(殖銀)

○監査役 細川久(町村長會)渡邊榮次郎(殖銀)

初重役會の結果は頭取は置かず池田氏を常務取締役として整理案促進を申合せたなほ支配人には福島第七銀行の副支配人引地豊治氏の就任を見た、一方検事局の手が同行にも入り先づ原副支配人の收監となり漸

次巨頭連の起訴收容となつた

和議整理決定

岩銀新重役就任以來各重役以下全行員晝夜兼行の有様であつたが亂麻の如き同行の內容には尠からず困難を感じたしかし大馬力をかけた結果三月二十三日に至り四十三支店分を完済し直ちに本店にとりかゝつた、かくて五月官選重役就任以來三ヶ月目にて漸く整理案を纏め三日重役會を開き
一、小口拂ひは十圓以下とすること
一、預金は總額の三―四割切捨ること
一、支拂年限は七―八年賦拂ひとすること

一、支拂は年一回拂ひとすること
一、預金は無利息据置のこと
右原案を決定し直ちに之れを大藏省に提示するに至つた、銀行局ではこれに多少の希望條件を附して之を承認することに決定した依つて同行では六月十五日重役會を開き整理案に關し最後の協議を遂げ左の整理案並に承諾書委任状を預金者一齊に送付し和議の調印を求めることとなつた

警行支拂制限以來積年の御厚情に反し長らく御迷惑相掛け洵に申譯無之次第に御座候警行整理案は眞に舊重役に於てその筋へ出願致置候處乍遺憾御承認の運びに至らずして重役の改選となり小職等その

後を受けて整理案の樹立に専念し去月五月十九日附を以て申請中の處今般縣當局並に大藏省の御了解を得別紙の通り決定仕候

本整理案の作成に當りては幾分にも債權者各位の御迷惑を軽減せんと百方苦心仕候得共現有資産の内容に徴し乍遺憾全額即時完済は不可能に有之やむなく債權の一部免除並に分割拂戻を懇請すること、相成申候既に是迄御猶豫相願ひ此上更に多大の御損耗相掛け候ことは何共恐縮の至に堪へず候得共本案は現有資産負債を慎重に討究し就中案の基礎たる資産評價の如きは尤も嚴密なる調査をなしたるものに有之候間御諒承の上御寛量賜り度切望仕候

幸に各位の御承諾を得候は、岩手殖産銀行の援助を受け肩替りその他の方法に依り資産の資金化を圖り成案に基き債務履行仕度存意に御座候については種々御不滿の點も可被爲在候得共枉げて御認容の上別紙承諾書に御調印御返送被下度懇願の至りに堪へず候なほ全員の御承諾整はざる場合は和議法により煩瑣なる手續を以て而も多大の時日と費用とを要すること、相成候へば是非全部の御賛同により圓滿に整理完了を切望する次第に御座

候問特に御賢察あらせられ一日も早く御承諾の程偏に御願申上候

整理案

一、一口十圓を超える無擔保債務は昭和六年十二月十五日迄の利息を加算したる額の三割免除を願ひ残額は全員の承諾又は和議確定の日より六ヶ月目にその一割を御支拂致し之を第一回とし爾後十二ヶ月毎に第二回より第三回まで各一割第四回第五回は各一割五分第六回第七回は各二割の割合を以て御支拂致すこと昭和六年十二月十六日以後の利息は御免除を願ふこと

二、一口十圓以下の債務は重役の私財提供により全額御支拂致すこと

三、一口十圓を超えるも三割切捨の結果十圓以下となる債務に付ては債権者の御希望により残債権拋棄を條件として重役の私財提供により十圓を御支拂ひ致すこと

九十銀行

九十銀行は更生認められず七年八月十五日付大藏省から新規取引停止を命じられた依つて重役の總辭職となり九月廿三日臨時株主總會を開いて新重役を推薦決定しそれと同時に更生整理案を製作し再び大藏省に提出した、新重役左の通り

○取締役 佐々木卯太郎(頭取) 佐藤清二郎

佐藤二郎(支配人) 後藤尙五郎、村上順吉
○監査役 佐々木徳太郎、國分謙吉、藤田徳太郎

而して右諸氏の内佐藤清二郎、藤田徳太郎兩氏辭退し山邊常務を囑託頭取顧問に推し新重役の手に依つて和議法に依る整理案を製作し、十月二十四日佐々木頭取、佐藤、村上兩取締役、佐々木監査役四氏は上京して大藏省に新整理案を提出したが大藏省之を承認せず修正を命じた同行では再三修正案を提出し極力承認を求めたが依然預金支拂率並に整理案基礎調査において當局との折衝ならず十二月に至つて第四次改訂案作成の運命に到達し、二十一日漸く成案を得て大藏省に提出し一方五十圓以下の小口預金支拂については歳末も押し迫つた二十七日本支店において一齊に拂出したが同行が本年三月ピツタリ重扉を閉ざしてより茲に九月漸く重役の私財提供によつて支拂ひ開始の運びとなつた、第一日の拂ひ戻し者は百二十口、二千三百圓で案外に少なかつた

整理解消へ

九十銀行も問題を未解決のまま、新年を迎へたが同行では今日まで單獨整理の方針で幾度か大藏省と折衝を重ねたが大藏省では飽く迄整理更生を認めず整理解消以外に途なしとして銀行重役の提出した整理案に同意を與へないので仕方なく單獨更生を斷念

し整理解消で行くことに態度を變めたところ二月八日の大株主會に附議したるや果然反對論擡頭しあくまで更生整理に邁進すべしと一決し遂に解消案保留となり大株主より委員を選出し同委員は大矢馬太郎氏を同伴の上上京し川村竹治氏を顧問著しく名譽頭取に推薦すべく同氏訪問援助方を嘆願したが物にならず大藏省では先に同行が提出した第四次整理案に基き同行資産内容調査のため銀行局山田検査官を派した、同氏は四月七日來盛同行の調査に着手した

和議整理

銀行當局は鋭意整理案作成に努め殖銀の應援を得て五月二十七日東京において銀行局とも折衝の結果左の整理案を決定した

- 一、預金の切捨をなきぬ事
- 一、六ヶ年賦で償還する事
- 一、第一回の支拂ひは預金部の一割二、三分見當とすること

而して同行預金支拂ひに充當する資金は四百萬圓を限度として殖銀から肩替することとなり預金者に對して和議承諾書調印を求めた即ち同行の整理案左の如し

△整理案

- 一、無擔保債務は左の通り支拂ふこと但昭和七年四月一日以降の利息は免除を受くこと

支拂方法

支拂

本整理案に付總債権者の承諾を得たる日より三ヶ月目

一回支拂期日より九ヶ月目

二回より一ヶ年目

三回より一ヶ年目

四回より一ヶ年目

五回より一ヶ年目

六回より一ヶ年目

初年度 一回

二年度 二回

三年度 三回

四年度 四回

五年度 五回

六年度 六回

支拂の割合

百分ノ十三

百分ノ十四

百分ノ二十八

百分ノ十

百分ノ十五

百分ノ二十

頭取、金田一前頭取の收容となり續いて矢幅監査役、藤原副支配人の起訴收容を見たが取調進捗と共に貴族院議員瀨川彌右衛門氏の召喚訊問あり縣民の視聽は更生運動から轉じてこの事件に移された

事件は岩銀へ

かくて五氏は冷たい刑務所内に新年を迎へたが一月に入つて岩手銀行に手を入れた、廿四日伊藤副支配人の出頭を求めて取調べを開始、一切の準備書類を整へた検事局では二月五日副支配人原正三氏を召喚係系會社の不良貸付について追及し横領背任の事實判明となり遂に令状を發し強制收容を爲し四月七日前頭取中村治兵衛氏の收監となつた一方盛銀事件で赤澤市會議長の起訴收容となり政界にも飛火し高橋代議士、廣瀨代議士等の召喚取調べを見たがそれと同時に中村佐一、千葉庄八氏の兩縣議、始め民政系縣市會議員等について選挙費用問題で取

司法權發動

盛銀取調開始

一方檢察當局は銀行取調を開始することとなり十一月十八日先づ盛岡銀行手形割引課長田村富藏氏を召喚取調の結果同夜令状を執行起訴前の強制處分に依つて同人を盛岡少年刑務所に收容、二十七日背任横領罪として正式に起訴した、次いで太田盛銀

九十銀行事件

かくて盛銀、岩銀の取調一段落を告げた検事局は六月に入つて九十銀行の取調べを開始したそして三日山邊前常務取締役の收容となつた、更に六日かねてから問題視されてゐた熊谷氏議士は實兄たる熊谷常務との背任共犯の事實明瞭となり同夜遂に收容されることとなりこれにて三銀行疑獄事件犠牲者は盛銀七名、岩銀六名、九十、一名計十四名にて起訴はこれにて終つた

經濟——郵便貯金郡市別現在高比較表

郡市	計	村計	町計	市計	貯金	備考
村計	4,050	1,100,000	176	2,405	1,355	△
郡計	25,180	1,330,355	1,810	2,843,390	1,561	△
黒澤尻	9,035	570,860	90	41,773	1,510	△
新町	1,742	71,336	111	4,273	1,031	△
川尻	2,151	28,018	35	9,959	553	△
土川	3,033	11,209	75	3,783	1,326	△
横目	1,900	8,935	48	4,082	1,494	△
杉川	778	35,482	9	2,400	848,690	△
川名	882	2,833	9	4,633	1,433,311	△
仙舟	3,977	33,071	77	1,736	2,879	△
土人	603	33,844	70	3,323	3,300	△
二子	1,126	22,979	102	7,599	9,955	△
和賀	726	14,955	30	2,908	2,300	△
藤根	858	33,788	40	3,499	2,000	△
村計	14,966	580,147	182	1,778	1,883,915	△
郡計	24,049	1,155,007	263	1,304	1,913,919	△
水澤	6,836	454,477	94	1,255	3,578	△
前澤	3,673	183,444	43	3,501	3,300	△
金ヶ崎	2,749	67,310	33	3,643	2,000	△
町計	13,160	705,191	160	1,913,919	1,913,919	△

盛岡商工會議所選舉
盛岡商工會議所議員定期改選選舉は二級三月十六日、一級三月十七日行はれたが

△當選二級は 五五票赤澤多兵衛(新)太物商 五四票濱田四郎(新)自動車商 五一票合資會社東興社帷子康一郎(新)石炭商

△當選一級は 五五票赤澤多兵衛(新)太物商 五四票濱田四郎(新)自動車商 五一票合資會社東興社帷子康一郎(新)石炭商

△當選一級は 五五票赤澤多兵衛(新)太物商 五四票濱田四郎(新)自動車商 五一票合資會社東興社帷子康一郎(新)石炭商

田喜助(再)砂糖商 三四票石川孝一(新)洋品化粧品商 三二票福士善太郎(再)請負業 二六票岩手林業株式會社小泉多三郎(新)會社員 二四票藤原徳太郎(新)果實商 一八票小川貞三(新)洋品商 △次點 一六票宮田他人 △無効六票 一級は 三票佐々木徳太郎青物商(再) 三票藤田三造海産商(新) 三票岡田源太砂糖商(再) 三票平野金八紙文具商(再) 三票川村松助吳服商(新) 二票龜島重治太物商(再) 二票福田春治機械業(再)

蠶業學校 綿羊の飼養並羊毛加工施設 何れも本縣の事情に即し特色ある施設と認む

△商業學校 本縣に於ける商業の發達は遅々として進まずなほまだ幼稚の域を彷徨するはその地東北の僻地に位し交通不便にしてその上本縣人の性情敏達を欠き消極的にして進取の氣象に乏しきを以て之を打開するには學校に於ては商業の實習を實地に行はしめて機敏進取の訓練をなさしめ且教育の實際化を圖るの必要を認め商品陳列所を商業學校生徒の實習所となしたるも經費の關係上まだ十分なる機能を發揮し得るの施設をなし得ず

教育

教育界一年

實業學校産業施設

實業學校をして一層地方産業の振興に寄與せしむべく縣は實業教育費國庫補助法によつて文部省より農工商各校に國庫金の交付を仰ぐべく同法第十條によつて文部大臣に意見書を提出し交付金による計畫を開陳する事になつた本縣意見案並びに計畫内容は左の通りである

△農學校並びに蠶業學校 本縣海岸地帯は海洋の影響を受くる事大にして夏期比較的低温にして普通作物栽培

教 育——教育界一年——實業學校産業施設

培に不利の點多く山間地帯は冬期極めて寒冷なるのみならず秋期十月より結霜を見る春期は五月下旬に至るまで晩霜を見るの狀態にして之が爲耕種上不利の點尠からざるのみならず凶作を來すこと多く産業進展上農家經營法に格段の顧慮を要する所以にして殊に農産村産業の原料に加工利用の道を講じ又多角形的農業經營をなすは本縣農村刻下の急務なりとす

久慈盛兩農學校 農産加工利用の施設
花巻農學校 有畜農業の施設
水澤農學校 有畜農業並農産加工施設
盛岡農學校 經濟農場施設

△工業學校 工業學校實習工場に於ける器具機械は生徒實習上最も必要なるに縣工業學校の實習工場設備は不完全にして生徒實習上支障尠からず就中平削槓形材料萬能試驗機の如き本縣工業教育上最も必要欠くべからざるものなるも經費の關係上まだ設備するを得ず生徒教養上寔に遺憾に堪へざるものにして右兩機の新設備は本縣の實情に即したる施設にして獨り生徒の實習に便なるに止らず本縣の産業振興上裨益する所甚大なり

本縣教育概観

本縣の教育は近時益々隆運に向ひ、官立實業專門學校一、私立醫學專門學校一、縣立

師範學校二、公私立の中學校七、實業學校十四、高等女學校十一、實科高等女學校六

殆ど全町村に洽く公私立小學校四百五十校、又特殊教育機關として縣立盲啞學校あり、其の他私立各學校は其の數二十一にして、

校 類 別	校 數		教 員 數		種 別	設 立 區 別	校 數	教 員	生 徒
	公 立	私 立	計	別					
尋常高等	16	1	17	1,106	尋常	官立	1	17	1,106
高等	1	0	1	1	高等	官立	1	1	1
師範	2	0	2	2	師範	官立	2	2	2
中學校	7	0	7	7	中學校	官立	7	7	7
實業學校	14	0	14	14	實業學校	官立	14	14	14
高等女學校	11	0	11	11	高等女學校	官立	11	11	11
實科高等女學校	6	0	6	6	實科高等女學校	官立	6	6	6
農學	1	0	1	1	農學	官立	1	1	1
工業	1	0	1	1	工業	官立	1	1	1
水産	1	0	1	1	水産	官立	1	1	1
商業	1	0	1	1	商業	官立	1	1	1
盲啞	1	0	1	1	盲啞	官立	1	1	1
實科高等女學校	1	0	1	1	實科高等女學校	官立	1	1	1
實科高等女學校	1	0	1	1	實科高等女學校	官立	1	1	1
商業	1	0	1	1	商業	官立	1	1	1
高等女學校	1	0	1	1	高等女學校	官立	1	1	1
女子商業學校	1	0	1	1	女子商業學校	官立	1	1	1
女子實業學校	1	0	1	1	女子實業學校	官立	1	1	1
女子職業學校	1	0	1	1	女子職業學校	官立	1	1	1
各種學校	1	0	1	1	各種學校	官立	1	1	1

幼稚園

設立區別	園數	保母	幼 兒
公立	1	3	103
私立	6	27	477
計	7	30	580

兩師範學級編成替

本縣の師範學校は從來一部本体とし第二部は一部の補充的施設に過ぎなかつたが昨年師範學校規程改正の結果二部を第一部と對等せしめ一部二部併行を本体とし第二部修業年限一ヶ年を二ヶ年に延長せられ従つて七年度から第二部に於て男女師範學校共當然一學級づゝ増加を見る事になつた然し縣財政は之を許さぬ状態なので小學校教員需給狀況等をも考慮し男子師範學校一部二學級併行を一學級併行に改めた關係上八年度に於ても當然一學級減少することとなり又女子師範學校に於ても七年度は第二部生徒の募集を見合せたが八年度は之を募集する事にした兩校の現在及將來の學級編成見込左の如し

男子師範學校

年 度	一 部	二 部	專 攻
七 年 度	9	2	2
八 年 度	8	2	2
九 年 度	7	2	2

教育—欠食兒童に給食

年 度	一 部	二 部	專 攻
十 年 度	5	3	2
十 一 年 度	5	4	2
十 二 年 度	5	4	2

女子師範學校

明年に於て男子師範十二學級、女子師範七學級、九年度から男師十一學級となり七年度に比し二學級の減少を見、女子師範に於ては八學級となつて七年度現在に比較し一學級を増加するものである

師範給費改正

師範學校生徒は公費生を原則とし私費生をも置くことを得る規定となつてゐるが縣では從來まで公費生本体となし昭和五年度以降縣財政の都合上毎年給費の幾部を減額し七年度からは男師二部一學年を私費生とした所本年度二部生の應募數は近來の應募者狀況に徴し多數なるべき豫想は豫想に反し著しく減少を示し殊に縣下の一般經濟が極度に窮迫せる状態に鑑み給費の積極的減額は入學者の素質を低下せしめる虞れがある

ため八年度に於ては第一部の給費は幾部減額するも第二部に對しても一部同様給費する事に意向決定した給費額は左の通りである

男師六圓五十錢を六圓 五圓五十錢を五圓に 女師は六圓を五圓、新入學者は男女一部二部五圓

欠食兒童に給食

文部省より交付の欠食兒童救濟費一萬二千六百八十三圓は縣に於て七年度分の該當市町村の配當額を決定欠食の學童五千六百六十三名に救済の手をのべた尙交付指令と共に教育課より救済の實をあげたるため左記事項を指示した

- 一、學校給食の實施に當りては貧困救濟として行はるゝものなるが如き感を與ふることなく寧ろ養護上の必要に出づるものなるが如くし周到なる注意を拂ふこと
- 二、給食を必要とする兒童は大體左の標準により市町村學校長協議の上之を定むること
- (一) 貧困の爲就學免除又は猶豫中の兒童にして給食により就學せしめ得るもの
- (二) 不況のため食物の攝取不十分なるにより缺席勝なるもの
- (三) 不況の爲學校に於て欠食勝なるもの

三、學校給食の實施は市町村長學校長と協

議して適當の方法炊事につきては學校に於てするの外學校附近の家に依頼すると尙少數の場合は受持教員に現品を給し握り又は辨當の準備を依頼するも可なりを以て學校に給食すること

四、學校給食は授業日に於て晝食を給するを以て原則とし特に必要ある場合は朝食を給することを得ること

五、學校に於て給食せられざる事情ありて現品を家庭に給與するときは具體的に事由を具し縣の承認を得ること現品を給與する場合は一ヶ月分を數に給與すること

六、現金給與は絶對になさざること

七、學校給食に要する食物の量は兒童一日の所要熱重の三分の一以上を標準とし且つ營養上の缺陷に留意し之が補給をなさしむること

八、土地の情況地方的習慣食糧の生産等の關係を考慮し地方に於て常食とする食物の種類並びに從來の慣行を尊重して食事の献立を作成すること、し實施の便宜上單に在來のパン等の如く偏食に陥り易き食物を常時給與することはなるべく之をさくること

九、食器鍋釜調理場食堂等は常に清潔を保たしめること

十、學校醫をして必要に應じ給食兒童の身體検査を行はしめ衛生養護に注意せしむること

市町村配當額

▲岩手郡沼宮内九圓、玉山藪川一四九、淺岸二、築川二二、中野二二、本宮七、御所四、御明神七、西山六三、瀧澤一二二、川口九八、卷堀二七〇、大更一二〇、田頭一五九、松尾一〇五、寺田一一三、一方井一一〇、御堂一一五、計一、五〇五

▲紫波郡目詰二四圓、飯岡七六、煙山七、水分九、志和一七、赤石七、彦部一五九、佐比内八八、長岡一四、乙部二七、計四四二

▲稗貫郡花巻一八四、大迫七八、内川目五八、外川目一九、石鳥谷二計三四一

▲和賀郡黒澤尻九三、鬼柳一一七、岩崎五一、横川目一六四、藤根三九、笹間一七、飯豊一〇〇、中内三九、谷内一五九、十二、二、二、計一、四三二

▲膽澤郡水澤二九、前澤七、金ヶ崎四一、姉体一二、白山一四、衣川四四、南都田一二、若柳四九、永岡一四、相去二、計二二八

▲江刺郡愛宕八五、黒石四四、田原四一、藤里六八、伊手四九、米里七、玉里一四、梁川五四、福岡四四、廣瀬四、稻瀬七、計四二二

▲東磐井郡千厩五八、大原三四、藤澤四四、小梨一一三、八澤二四、大津保四九、黃海四九、奥玉三六、門崎四、舞川三六、生母七三、猿澤二四、摺澤一七、澁民二四、興田八八、計六八〇

▲氣仙郡大船渡一二、小友二七、廣田一九、米崎七、矢作五六、横田一七、世田米二四、下有住八五、上有住九、日頃市一四、立根七、唐丹二四、計三〇七

▲上閉伊郡遠野一二、釜石二六七、大槌四六、綾織七、小友一九、宮守一九、達會部二四、附馬牛五四、松崎二七、土淵八三、青笹六三、上郷八一、栗橋四九、金澤二五七、計一、〇一四

▲下閉伊郡宮古一八六、山田七、崎山七、田老一七、小本一九、田野畑二六五、普代一七一、岩泉一二、有藝一七、安家七八、小川一〇五、大川一四、山口一〇〇、花輪三四、茂市一二、刈屋六一、川井門馬一四七、磯鷄四六、津輕石七、重茂一五四、豐間根四六、計一、五一一

計四二二

▲西磐井郡一關一〇〇、永井二七、涌津二四、油島五六、金澤九、日形四九、彌榮四一、眞瀧四六、萩莊四六、巖美一四、山目二二、中里二九、平泉一三〇、計五九九

▲教育會館建設

教育會館建設計畫は七年十二月廿七日の縣教育會臨時理事會で決定したが敷地は南部伯爵家所有の公園下五十七番の七武徳殿前に内定し面積約五百坪交渉は鈴木巖地氏に評價は殖銀常務渡邊榮次郎氏に一任するに決定設計は工業學校長に委嘱する購入豫算は五百卅五坪四ヶ年賦拂ひ八年度に於て三千百九十五圓を支出し會館建設に着手する豫定であるが難關は敷地豫定地は都市計畫街路網の一部になつてゐる關係上道路の通過線の決定を見ない限り直ちに着手し得ず或は敷地豫定地の變更を餘儀なくする杞憂

▲九戸郡久慈二九、輕米一〇八、長内四四、字部八三、野田一八一、山根二二一、山形二二三、大川目一九、夏井七三、中野六三、種市四九、大野三九七、小輕米二八七、晴山一七、江刺家九五、伊保内四四、戸田九八、葛巻二二、江刈三六、計二、〇九七

▲二戸郡福岡三六、一月一一〇、爾薩体一一三、金田一二二、斗米三一、石切所一一、浪打七八、鳥海二六七、小島谷三三四、姉帯田部四九、御返地一二七、淨法寺三〇七、荒澤一四二、田山一九四、計一、九二八

▲盛岡市一六七

▲就學獎勵金も交付

文部省の欠食児童救済費一萬二千六百八十三圓を交付すると同時に學齡兒童就學獎勵金九千五百四十圓を十四日交付したが同獎勵金は欠食兒童に三分の一學齡兒童數に三分の一市町村前年度獎勵支出金に對し三分の一を交付し盲啞學校教育後援會にも七百圓を交付した

▲教員組織變更

本縣の小學校教員組織は町村の他力本願の財政計畫に災ひされかなり痛手を負ひ本格的再建築を縣で練り機會を待つてゐたが七年度から時局匡救施設としての教育補助金の増加交付あり町村は教

員給の七割以上を義務負擔金で占め居る状態になつたので八年三月兩師範卒業新教員の配置から縣は小學校令施行規則第三十五條第一項及び第二項を適用するに決定を見市町村長を督勵することになつた。施行規則第三十五條の第一項は尋常小學校に於ては學級數に應じ一學級必ず正教員一名を置き高等小學校にありては學級數に應じ一學級一本科訓導以外兒童數、時間數の割合を見て本科正教員或は専科正教員を設置する同條第二項を適用するものであり縣ではその實現を圖るため町村八年度豫算編成期に當り特に教育費中教員平均額の計上を明示せしめることになつた

▲教育會館建設

教育會館建設計畫は七年十二月廿七日の縣教育會臨時理事會で決定したが敷地は南部伯爵家所有の公園下五十七番の七武徳殿前に内定し面積約五百坪交渉は鈴木巖地氏に評價は殖銀常務渡邊榮次郎氏に一任するに決定設計は工業學校長に委嘱する購入豫算は五百卅五坪四ヶ年賦拂ひ八年度に於て三千百九十五圓を支出し會館建設に着手する豫定であるが難關は敷地豫定地は都市計畫街路網の一部になつてゐる關係上道路の通過線の決定を見ない限り直ちに着手し得ず或は敷地豫定地の變更を餘儀なくする杞憂

▲俸給未拂町村

小學校教員七年十月末現在俸給支拂状況を縣教育課で調査の結果三ヶ月分以上未拂ひは岩手郡澁民二戸郡浪打小島谷三ヶ村の九千八百七圓で前調査に比し遙か減じてゐるもの、これは單に三ヶ月分以上未済數で一ヶ月乃至二ヶ月半の支拂ひ延滞は七十ヶ町村を算しその給料額は六萬圓に上る現狀でありこれが原因としては町村生産力の減退と縣下銀行破綻事件が町村稅收入に影響し財政の窮迫を告げるに至つたため八年二月の國庫金交付期までの俸給支拂ひ財源は他に求むべき方法なく町村より續々負擔金の繰上げ交付を懇請されつゝある有様である

教 育——義教費町村交付金

五校の學級減 八年度より實施の縣立學校學級減は一關、福岡、遠野、黒澤尻四中學校並びに水澤高女の五校で學級減によつて教員給一萬五千六百九十六圓の節減を見る事になつた學校別に示すと

關中五人分六千六百六十圓 福中三千三百三十二圓 遠中三千三百三十二圓 黒中三千九百九十六圓 水澤高女二千三百七十六圓 並びに諸經費は五校を合し旅費八十圓 備品費百六十七圓 消耗品費三百八圓 惠與八十圓で教員給を合して一萬六千三百三十一圓からの減を示す事になつてゐる

義教費町村交付金

(昭和八年度前段分)

義務教育費第三條前段規程による國庫交付金八十三萬六千七百五圓九十一錢の市町村配當額は八年四月十七日縣教育課で左の如く決定發表した

岩手郡

沼宮内三、四二二圓 玉山敷川三、五三一 淺岸一、〇一六 築川二、二二三 中野二、三五九 本宮二、六〇七 太田三、六五八 御所三、五八一 御明神二、六九五 西山二、九五二 雫石二、〇九一 瀧澤四、八六二 厨川三、二八七 川口三、八二四 卷堀三、〇八三 澁民三、五〇二 大更三、二八六 田頭二、六三四 松尾三、六〇四

平館二、一九六 寺田 二、一八三 一方井二、三九四 御堂四、三五六 計六九、三六六

紫波郡

日詰二、〇七六 古館一、六四八 徳田三、六〇三 見前三、一六五 飯岡三、六六五 煙山三、一七二 不動三、一三〇 水分二、三三七 志和四、八六〇 赤石二、九四三 彦部二、三三七 佐比内一、六六〇 赤澤二、三二七 長岡一、七七二 乙部三、八五〇 計、四二、五三六

稗貫郡

花巻一、九四八 大迫二、二七八 内川目外川目四、四九六 龜ヶ森 一、四八〇 新堀一、九六五 八重畑二、三六一 矢澤四、五九七 石鳥谷三、九二〇 八幡二、〇五九 湯本三、七〇二 宮野目二、五八九 湯口五、二四三 太田二、九七七 計四九、六二〇

和賀郡

黒澤尻七、八八九 鬼柳二、〇〇九 岩崎四、八〇六 横川目三、四三〇 藤根三、〇七三 江釣子五、〇五〇 笹間四、〇三六 飯豊三、〇一三 二子二、七六三 更木一、八六九 立花二、五三五 中内二、三二〇 谷内三、九二三 十二鎗三、五六一 小山田一、九五四 湯田七、四九八 澤内

五、六五〇 計六五、七〇一

膽澤郡

水澤九、九五〇 前澤五、七五七 金ヶ崎六、二〇三 佐倉河四、五三六 眞城三、〇七五 姉休二、五二七 白山一、九三七 古城二、六二七 衣川五、七三六 小山五、〇一七 南都田三、七七五 若柳四、〇二八 永岡二、九六二 相去三、三〇八 計六二、四三七

江刺郡

岩谷堂五、六六一 愛宕三、九七六 羽田二、五九五 黒石二、一七九 田原三、三一七 藤里二、一六三 伊手三、一五二 米里三、三三五 玉里二、六七三 梁川二、八一七 福岡二、六九九 廣瀬二、二七一 稻瀬四、五八一 計四一、四三四

西磐井郡

一關七、七七七 永井二、八七〇 涌津二、五八六 油島二、一〇八 花泉二、四二二 金澤二、六〇〇 老松一、六四一 日形一、八五七 彌榮一、六九三 眞瀧四、二二〇 萩莊四、一四四 嚴美四、三二〇 山目五、〇四七 中里三、五一三 平泉四、三六四 計五一、一五八

東磐井郡

千厩四、一二九 大原六、二三一 藤澤三、九六一 折壁二、八六八 矢越二、二〇六

八 計六三、六九三

下閉伊郡

宮古一五、三〇八 山田四、七〇四 崎山一、二五六 田老五、三三一 小本二、八二一 田野畑四、二三六 普代二、九二九 岩泉五、七七七 有藝一、三八七 安家一、〇六七 小川四、一八四 大川二、七二九 山口二、一一〇 千徳一、七二七 花輪二、七八二 茂市二、二三三 刈屋二、四五四 川井、門馬五、二三五 小國二、六七五 磯鶴二、七六九 津輕石三、〇三〇 重茂三、三四七 豊間根二、六七三 大澤一、一七四 織笠二、〇八四 船越三、一八二 計八八、二一七

九戸郡

久慈五、八八七 輕米六、〇九八 長内三、五七三 宇部二、七九九 野田三、六〇三 山根一、六八三 山形四、八一〇 大川目二、一九三 夏井二、〇五九 侍濱二、〇〇二 中野二、五九二 種市六、五九九 大野四、四一〇 小輕米三、二一一 晴山三、六二一 江刺家一、三二四 伊保内二、三九五 戸田一、九五九 葛巻五、四七六 江刈三、一九三 計九、四九七

二戸郡

福岡四、一五二 一戸四、一二四 爾薩休二、六九八 金田一四、五七六 斗米三、九

教 育——義教費町村交付金——後段町村交付金

小梨三、一二七 八澤二、六九五 大津保三、八八七 黄海三、八一八 薄衣三、六四二 奥玉三、一三五 磐清水一、五三二 門崎一、六三〇 松川二、五三〇 舞川一、三四九 長島二、九四一 生母二、九七七 田河津二、〇二六 長坂二、八八〇 猿澤二、五八二 摺澤三、〇六〇 澁民三、二八四 興田六、〇八八 計七四、六七九

氣仙郡

盛二、二七一 高田三、六二九 氣仙三、八七二 大船渡三、六六五 末崎三、〇〇二 小友一、九六二 廣田三、五三三 米崎二、三八五 矢作三、六七五 竹駒一、一三三 横田二、一四〇 世田米五、〇三八 下有住一、五四六 上有住三、五五二 日頃市二、五一九 立根一、六六二 猪川一、五二四 赤崎三、五〇二 綾里三、五四七 越喜來三、一六四 吉濱一、九三〇 唐丹三、〇二六 計六二、二八六

上閉伊郡

遠野六、〇一三 釜石一、九八三 大槌九、八〇八 綾織二、二七四 小友二、四三三 四鱒澤一、六三三 宮守三、一七二 達曾部一、九〇九 附馬牛二、二〇〇 松崎一、六八四 土淵二、六九八 青笹二、四二六 上郷四、〇四五 甲子二、二二三 鶴住居三、七四九 栗橋二、九一四 金澤一、五〇

七六 石切所二、四八七 浪打三、〇五六 鳥海四、一〇五 小島谷五、四四〇 田部姉帯三、二一七 御返地二、八三七 淨法寺五、一四七 荒澤四、七三九 田山二、六一 計五三、二二一

盛岡市

四二、八五五(圓下以切捨) 合計八三六、七〇五圓九一錢 四月交付金額一六七、三四四圓八七錢 七月、九月、十一月、二月各月交付金額一六七、三四〇、二六錢

後段町村交付金

三月三十一日勅令第四十九號を以て改正せられたる國庫負擔法施行に關する改正勅令に依る第一回の交付金にして市町村歳入最も乏しき年度始めの四月に於て交付する事となりたるは此の月に於て例年教員俸給支拂ひをなし得ざる町村多かりしに鑑み交付時期を繰上げたものにして將來は如何なる町村にても不拂ひ又は支拂ひ延期をなすの餘地なからしむることと改められたり

になつた。

◇岩手郡 沼宮内二、〇六七 玉山藪川二、
 一二九 海岸六二一 築川一、三四九
 中野一、四二七 本宮一、五八〇 太田二、
 二一四 御所二、一六三 御明神一、六二
 八 西山一、七八七 雫石一、二六七 瀧
 澤二、九三九 厨川二、〇〇〇 川口二、
 三三三 巻堀一、八六二 遊民二、一一四
 大更一、九九一 田頭一、五九七 松尾二、
 一八一 平箱一、三二九 寺田一、三二四
 一方井一、四四八 御堂二、六三三 計四
 一、九七六

◇紫波郡 日詰一、二五一 古館九九四 徳
 田二、一七七 見前一、九一三 飯岡二、
 二二一 煙山一、八八九 不動五、八九一
 水分一、四一三 志和二、九三五 赤石一、
 七七八 彦部一、四三五 佐比内一、〇〇
 四 赤澤一、三九七 長岡一、〇七〇 乙
 部二、三二七 計二五、七〇四

◇稗貫郡 花巻七、二三五 大迫一、三八〇
 内川目一、七一〇 外川目一、〇〇二 龜
 ケ森八九三 新堀一、一八九 八重畑一、
 四二八 矢澤二、七七五 石鳥谷二、三六
 七 八幡一、二四五 湯本二、二四一 宮
 野目一、五六二 湯口三、一七二 太田一、
 七九六 計三〇、〇〇二

◇和賀郡 黒澤尻四、七七〇 鬼柳一、二一

六 岩崎二、九一一 横川目二、二六七
 藤根一、八五五 江釣子三、〇五六 笹間
 二、四四一 飯豊一、八二二 二子一、六
 七〇 更木一、一三〇 立花一、五三二、
 中内一、四〇三 谷内二、三六八 十二鐘
 二、一五七 小山田一、一八三 湯田四、
 五二五 澤内三、四〇八 計三九、七二三

◇膽澤郡 水澤六、〇二五 前澤三、四八三
 金ヶ崎三、七五六 佐倉河二、七四四 眞
 城一、八五七 姉体一、五二七 白山一、
 一六九 古城一、五八六 衣川三、四五八
 小山三、〇四一 南都田二、二八三 若柳
 二、四三六 永岡一、七九〇 相去一、九
 九四 計三七、一五七

◇江刺郡 岩谷堂三、四二四 愛宕二、四〇
 四 羽田一、五七〇 黒石一、三一五 田
 原二、〇〇三 藤里一、三〇九 伊手一、
 九〇四 米里二、〇一七 玉里一、六一五
 梁川一、七〇〇 福岡一、六三〇 廣瀬一、
 五七三 稻瀬二、七七二 計二五、〇四二

◇西磐井郡 一關四、七〇七 永井一、七三
 六 涌津一、五六一 油島一、二七一 花
 泉一、四五六 金澤一、五六九 老松九九
 二 日形一、一二〇 彌榮一、〇二四 眞
 瀧二、五四三 萩莊二、五〇五 巖美二、
 六一一 山目三、〇四四 中里二、一二一
 平泉二、六三八 計三〇、九〇六

◇東磐井郡 千厩二、四九三 大原三、七六
 七 藤澤二、三九二 折壁一、七三八 矢
 越一、三三二 小梨一、八八九 八澤一、
 六二八 大津保二、三四六 黄海二、三〇
 〇 薄衣二、二〇四 奥玉一、八九四 磐
 清水九二五 門崎九八六 松川一、五二
 九 舞川二、〇七五 長島一、七八〇 生
 母一、七九六 田河津一、二二一 長坂一、
 七三九 猿澤一、五六一 摺澤一、八五一
 遊民一、九八三 興田三、六七五 計四五、
 一一六

◇氣仙郡 盛一、三七三 高田二、一九〇
 大船渡二、二二二 末崎一、八一 小友
 一、一八八 廣田二、三三七 米崎一、四
 四〇 氣仙二、三四〇 矢作二、二一九
 竹駒六八四 横田一、二九一 世田米三、
 〇四五 下有住九三三 上有住二、一四
 八 日頃市一、五二二 立根一、〇〇二
 猪川九二〇 赤崎二、一一四 綾里二、一
 三九 越喜來一、九〇九 吉濱一、一六
 二 唐丹一、八二七 計三七、六一五

◇上閉伊郡 遠野三、六三二 釜石七、八五
 九 大槌五、九三一 綾織一、三七四 小
 友一、四七〇 樽澤九八五 宮守一、九二
 〇 達曾部一、一五二 附馬牛一、三二九
 松崎一、〇一六 土淵一、六三〇 青笹一、
 四六五 上郷二、四四〇 甲子一、三四九

鴨住居二、二六四 栗橋一、七五七 金澤
 九一三 計三八、四九四

◇下閉伊郡 宮古九、二六二 山田二、八四
 五 崎山七六〇 田老三、二二四 小本
 一、七〇〇 田野畑二、五五九 普代一、
 七七〇 岩泉三、四八三 有藝八三五
 安家六四四 小川二、五二七 大川一、六
 四三 山口一、二七三 千徳一、〇四三
 花輪一、六八二 茂市一、三四九 刈屋一、
 四八六 川井門馬三、一六一 小國一、六
 一三 磯鷄一、六七四 津輕石一、八三二
 重茂一、四一六 豊間根一、六一五 大澤
 七一〇 織笠一、二六〇 船越一、九二三
 計五三、二八七

◇九戸郡 久慈三、五六〇 輕米三、六八八
 長内二、一五八 宇部一、六九二 野田二、
 一七七 山根一、〇一二 山形二、九〇一
 大川目一、三二七 夏井一、三四五 侍濱
 一、二〇九 中野一、五六八 種市三、九
 九一 大野二、六六七 小輕米一、九三七
 晴山二、一八五 江刺家八〇三 伊保内
 一、四五二 戸田一、一八六 葛巻一、三
 一三 江刈一、九二九 計四二、〇一〇

◇二戸郡 福岡二、五一〇 一月二、四八九
 爾薩体二、六三〇 金田一、七六六 斗
 米二、四〇四 石切所一、五〇六 浪打一、
 八四五 鳥海二、四八七 小鳥谷三、二八

七 姉帯田部一、九四五 御返地一、七一
 六 浄法寺三、一一九 荒澤二、八五七
 田山一、六一〇 計三二、一七八
 合計四七九、二一八圓九〇銭

臨時教育補助交付金
 臨時教育補助金十四萬三千六百五十六圓
 を縣で六月二日左の如く町村に配當交付し
 た。

◇岩手郡 沼宮内六一九 玉山藪川六三七
 淺岸一八七 築川四〇四 中野四二七
 本宮四七四 太田六六四 御所六四八
 御明神四八八 西山五三六 雫石三八〇
 厨川六〇一 川口六九三 巻堀五五八
 遊民六三三 大更五九七 田頭四七九
 松尾六五四 平箱三九八 寺田三九七
 一方井四三四 御堂七八九
 瀧澤八八一 計 一二、五八八

◇紫波郡 日詰三七六 古館二九七 徳田
 六五二 見前五七三 飯岡六六六 煙山
 五六六 不動五六六 水分四二三 志和
 八七九 赤石五三三 彦部四三〇 佐比
 内三〇一 赤澤四一八 長岡三二〇 乙
 部六九七 計 七、七〇五

◇稗貫郡 花巻二、一七〇 大迫四一四 内
 川目五一二 外川目三〇〇 龜ヶ森二六
 七 新堀三五六 八重畑四二八 矢澤八
 三一 石鳥谷七〇九 八幡三七三 湯本

六七二 宮野目四六八 湯口九五一 太
 田五三八 計 八、九九五

◇和賀郡 黒澤尻一、四三〇 鬼柳三六五
 岩崎八七三 横川目六八〇 藤根五五六
 江釣子九一六 笹間七二二 飯豊五四六
 二子五〇〇 更木三三九 立花四五九
 中内四二〇 谷内七〇九 十二鐘六四七
 小山田三五四 湯田一、三五五 澤内一、
 〇二〇 計 一一、九〇九

◇膽澤郡 水澤一、八〇七 前澤一、〇四四
 金ヶ崎一、一二六 佐倉河八二三 眞城
 五五六 姉体四五八 白山三五〇 古城
 四七五 衣川一、〇三六 小山九一二
 南都田六八四 若柳七三〇 永岡五三六
 相去五九七 計 一一、二四〇

◇江刺郡 岩谷堂一、〇二六 愛宕七二〇
 羽田四七〇 黒石二九四 田原六〇〇
 藤里三九二 伊手五七〇 米里六〇五
 玉里四八四 梁川五〇九 福岡四八八
 廣瀬四一四 稻瀬八三〇 計 七、五〇六

◇西磐井郡 一關一、四一一 永井五二〇
 涌津四六七 油島三八一 花泉四三六
 金澤四七〇 老松二九七 日形三三五
 彌榮三〇七 眞瀧七六一 萩莊七五一
 巖美七八二 山目九一一 中里六三五
 平泉七九〇 計 九、二六一

◇東磐井郡 千厩七四六 大原一、一二九

教 育——義教費後段町村交付金

藤澤七二七 折壁五二一 矢越三九九
 小梨五六六 八澤四八八 大津保七〇三
 黄海六八九 薄衣六六一 奥玉五六七
 磐清水二七七 松川四五八 舞川六二二
 長島五三四 生母五三八 田河津三六九
 長坂五二一 猿澤四六八 摺澤五五五
 滝民五九四 興田一、〇一 門崎二九五
 計 一三、五二一

氣仙郡 盛四一一 高田六三六 大船渡
 六六二 末崎五四二 小友三五六 廣田
 六四〇 米崎四三一 氣仙七〇一 矢作
 六六四 竹駒二〇五 横田三八七 世田
 米九一三 下有住二七九 上有住六四四
 日頃市四五六 立根三〇〇 猪川二七五
 赤崎六三三 綾里六四〇 越喜來五七二
 吉濱三四七 唐丹五四七 計 一一、二
 七三

上閉伊郡 遠野一、〇八八 釜石二、三五
 七 大槌一、七七八 綾織四一一 小友四
 四〇 鮎澤二九五 宮守五七五 達曾部
 三四五 附馬牛三九八 松崎三〇四 土
 淵四八八 青笹四三九 上郷七三一 甲
 子四〇四 鶴住居六七八 栗橋五二六
 金澤二七四 計 一一、五三九

下閉伊郡 宮古二、七七七 山田八五三
 崎山二二八 田老九六一 小本五〇九
 田野畑七六七 普代五三〇 岩泉一、〇

二一〇

四三 有藝二五〇 安家一九三 小川七
 五七 大川四九一 山口三八一 千徳三
 一二 花輪五〇四 茂市四〇四 刈屋四
 四五 川井、門馬九四七 小國四八三
 磯鷄五〇一 津輕石五四九 重茂四二四
 豊間根四八四 大澤二一二 織笠三七七
 船越五七六 計 一五、九七一

九戸郡 久慈一、〇六七 輕米一、一〇五
 長内六四七 宇部五〇七 野田六五二
 山根三〇二 山形八六九 大川目三九八
 夏井三七三 侍濱三六二 中野四二〇
 種市一、一九六 大野七九九 小輕米五八
 〇 晴山六五四 江刺家二四〇 伊保内
 四三五 戸田三五五 葛巻九九三 江刈
 五七八 計 一一、五九四

二戸郡 福岡七五二 一戸七四六 爾薩
 休四八八 金田一八二九 斗米七二〇
 石切所四五五 浪打五五三 鳥海七四六
 小島谷九八五 姉帯田部五八三 御返地
 五一四 浄法寺九三五 荒澤八五六 田
 山四八三 計 九、六四七

合計 一四三、六五六圓八十六錢

負擔法一部改正 義務教育費國庫負擔法施行規程の改正によつて縣では八年六月同法施行細則の一部を改正告示した規程の改正により法第三條前段及び後段の交付金算定方法は著しく拡大を見從來まで代用教員は

小學校に於て正教員及び准教員数が學級數に達せざる場合その不足數のみ代用教員は交付金を一般教員同様に受けつゝあつたのを改正によつて今後は尋常高等小學校における代用教員はすべて受持時數が高等科より尋常科に於て時數多きもの全部を包含することになつたから代教の繰り扱ひは一掃される譯で本縣の如く比較的多數代用教員を採用してゐる町村の受ける利益は交付金の増額に伴つて大きい改正點左の如し

第一條中各項を各號に改む同條第五號を左の如く改む

市町村立尋常小學校に勤務する代用教員並に市町村立尋常高等小學校に勤務する代用教員にして尋常科のみの教授を受持つ者及尋常科高等科に涉り教授を受持つ者にして尋常科の教授時數が高等科の教授時數より多き者に限り之を尋常小學校の教員數に算入すべし

第三條中前年十二月三十一日現在人口三萬以上の町村を前年十二月三十一日現在人口五萬以下の市及人口三萬以上の町村に十月十五日を三月十五日に改む

第四條中十月五日を三月十五日に改む

配屬將校會議

縣下中等學校配屬將校會議は五月廿四日縣公會堂において開會各學校出題に關し協

議の結果師範久慈農、岩中三校提案の毎年配屬將校會議開催の件は本年の開催を契機今後連續開催することとし又師範、關中、福中、岩中、盛中五校から提案の縣下中等學校聯合演習は十月中旬出來得るなら一ヶ所に集合總動員の演習を舉行する不可能の場合には二ヶ所或は三ヶ所に集結聯合演習を舉行するに決定を見知事諮問に對し左記答申あり佐藤少將の講演ありて五時閉會した

△生徒訓育上教練と其他との連繫は如何にするを可とするか

教練場裡の訓育を他の學科其他に於ても履行する如く全校職員協力一致指導監督すること配屬將校生徒監學級擔任との連繫を密ならしむること

配屬將校及教練教師は他の學科中に於ける生徒の状況を視察し他の職員も亦教練の状況を參觀し兩者提携指導すること

△目下の時局上教練を更に振作向上せしむる具体的策如何

訓話講話を行ひ又は附近の講話映畫により非常時局に對し認識を深うすること

青年訓練所と連合演習射擊競技會を行ふこと

教練資材の充實等

△雪中に於ける教練實施の策案主として疎開教練を行ふことスキー教練を實施する

雪中行軍の實施

△教練教師能力向上の策案

縣主催講習會を軍隊又は地方にて行ふこと

最寄學校間に教練研究會を組織すること

他校の見學を行ふこと

配屬將校日常の指導を周密適切ならしむること

決議

學校配屬將校會議は二十四日午後六時左の決議並びに縣に對する希望を舉げて散會した

△決議

一、一層教練精神の生活化の實現を期すること

一、現職員一致協力により一層教練精神の發揮に努むること

一、教練による訓育を生徒(青訓生女學生)全生活上に移轉せしむる様努むること

△縣に對する希望

一、學校豫算に教練費目の特設し相當額の豫算を計上せられたき事

一、教練査閲の際は獎勵のため必ず縣官臨席せられたき事

日午前十時から縣公會堂第一ホールに會長代理湯本學務部長理事佐藤教育課長黒金女師範盛中工藤盛岡農菅野盛岡高女下斗米福岡三田地城南鳥取山岸三田花城の各中小學校長鈴木主事等に會員千餘名出席佐藤理事より開會の辭あり一同總起立國旗に對し敬禮君ケ代二唱湯本會長代理の勅語詔書奉讀次いで

會長挨拶

非常時局の今日茲に多數會員各位の會同を得て本會第二十七回總會を開催し素懐の一端を披瀝して一層各位の協力を希望するを得たるは洵に欣快とする所なり本會は會員各位の和衷協同と崇高なる努力により年と共に發展し來り今や各般の陣容整ひその業績誠に顯著なるものあるは邦家教育の爲同慶に堪へざる所なり現下内外の情勢は各位の既に熟知せらるゝ如く外交國防に經濟に思想に寔に多事多難未曾有の非常時に際會せり、畏くも、是れ正に舉國振張の秋なりと仰せられ協戮邁往以て此の世局に處すべきを諭し給ふ聖旨洵に宏遠恐懼感激に禁へざるなり吾等職に教育に任ずる者深く思ひを致し天職に恪爾し小異を捨て、大同に従ひ益々信念を堅うして中正を履み大義の顯揚に努め以て聖旨に副はんことを期せざる

教 育——義教費後段町村交付金—配屬將校會議

二一一

縣教育會第二十七回總會は八年六月十六

縣教育會第二十七回總會は八年六月十六

縣教育會第二十七回總會は八年六月十六

べからず顧みるに本縣は地勢風土民情等の關係より文化に産業にその發達遅々として振はず因襲に囚はれて舊套を脱し得ざるもの多し加之積年の不況不作に基く經濟上の創夷尙未だ癒えざるに銀行の破綻するあり三陸沿岸震災の甚大なる慘禍等ありて之が恢復は實に容易ならず其も優渥なる天恩と國民の深厚なる同情並に縣民の協力とにより漸次恢復の緒につきたるも今後於ても施設の達成は一に縣民の力に存す宜しく舉縣一致萬難を排し一意邁進すべきの秋なりこの難局に處し縣民の指導を以て任ずる縣下教育者は率先一大覺悟の下に一般縣民の精神を作興して自力更生の意氣を振起すると共に子弟指導の任に當りては益々堅忍持久の縣民性を助長して困苦缺乏に堪ゆるの性情と勤勞愛好の精神を培養し積極進取時艱を打開する建設的氣力を作勵せざるべからず國難打開の根本に至りては建國の精神を反省し日本民族の本性に復歸するにあり徒らに歐米の物質文明に眩惑せらるゝことなく宜しく日本獨特の精神文化を建設し以て世界人類の福祉に貢献せられんことを望む

皇國の現狀は重大なる難局に際會せり此の非常時に處するの途は他なし、建國の精神を休し國民各々その職分を恪守し協戮邁進するにあるのみ
吾人身を教育に奉ずるもの、益々さい勵の誠を悉くして國本の培養に精進し、剛健なる國民の育成に努力し進みて世界に對する皇國の使命を全うし以て聖旨の萬一に對へ奉らんことを期す右宣言す

決 議

- 一、世界に冠絶せる我國体の至高至美なる所以を一層明確ならしむること
- 二、勤勞尊重の念を作興し倫安享樂の時弊を一掃し理想に邁進するの意氣を熾ならしむること
- 三、體育衛生に留意して一層運動精神の向上を計り以て身心一如の人格完成に努むること
- 四、特に精神の鍛練に重點を置き人格陶冶に主力を注ぐこと
- 五、利己排他の弊を艾除し一層團體訓練の體験を積ましめ協力一致の良風を振作すること

右決議す

議事に入り湯本副會長議長席につき副會長は木暮岩師校長監事に三田義正一の倉則文大矢馬太郎三氏を指名して選舉を略し定款の改正も異議なく可決し盛岡市部會提案の本縣發祥記念日設定縣民歌制定も菅野高女校長の説明があり二三質問あつてこれ又可決確定し和賀郡部會の協議題

- 一、小學校教員待遇改善
- 二、縣教育會總會々場に關する

二件説明のため佐藤黒澤尻小學校長本縣小學校教員の待遇は全國で一番悪いといつてよいそれは責任のある學務部長も行はれつゝあるではないか十月一日から實施する新恩給法によつて更に窮地に陥つた形ちだ増俸といへば何年か二圓か三圓が普通ではないか教員住宅の規程もあるけれどもその運用宜しきを得てゐるか疑問だ一方精神的待遇に於ても然り奏任待遇の内申はよろしく定員數をどしどしやつてほしい叙位叙動もさうだ岩手縣からの内申は何時でも六ヶ月後になるといはれる現狀ではないか

と舌鋒鋭く縣當局に喰つてかゝり轉じて總會は出席の機會を與へるため各地に於

て開催すべきだ縣廳所在地で占有すべきでない教育會は官僚のものではない我々教職員同志の團體である故に官僚化は絶対に排すべきだ
とまくしたて湯本副會長
教員待遇問題は縣當局としても充分に考慮してゐる地方財政の見地から左様簡單には參らない財政をこはしても待遇の改善を欲しはすまい次に會場問題であるが教育會はどこに官僚主義があるか私にはたゞ今の説明に遺憾の意を表する
大聲叱りし場内緊張を呈したが佐藤黒小校長
悪ければたゞ今の意見は取消します
あつさり教育會の官僚化云々を取消す平井縣議又會員の一人として質問和賀部會提出案に聲援し結局二案は單に要望する程度に止め總會は未曾有の活氣をたゞよはし最後に天皇皇后兩陛下の萬歳を三唱午後零時半閉會した

中等學校長會議

縣中等學校長會議は八年六月二十一日午前九時から縣公會堂第二ホールに開會
木暮岩師黒金女師寛盛中成田關中原福中葛谷黒中田野崎遠中佐藤花中佐々木岩中工藤盛岡農日向水農山田久農小山盛農茂田井花農龜井水産中野蠶業稻村盛岡商小

納水澤商菅野盛女遊谷花女渡會關女毛馬内遠女菊池一戸女大矢水女高橋岩谷堂女新井黒女伊藤宮女三田岩女浦田東北女藤澤高田實女下斗米福岡實女加藤釜石鈴木大龜藤岡山田小丸前澤各實女根守盛岡女子商業の各校長四十一名に
縣より石黒知事湯本學務部長佐藤教育課長近藤體育小田社會教育兩主事等出席國旗を奉揚し勅語並に詔書奉讀ありて別項の如く石黒知事の訓示あり終つて知事議長となり日本精神の徹底に關し
國体の基く所を究め益々敬神崇祖の美風家族制度の良俗を發揮し更に進んでは之が確乎たる信念信仰を確立し學校に皇太神宮を奉齋し生徒をして日夜參拜せしめ報本反始の赤誠を披瀝し國旗を奉揚し敬虔の念を養ひ皇居を遙拜し詔勅を奉讀し尊皇の至情を涵養する
次いで縣民性の振作について重厚にして堅忍持久の精神に富むことは美點と云ふべきであるが機敏活潑を欠き積極進取の氣象に乏しく創作的精神を缺乏する嫌ひあるを以て教授訓練に當り常にその長所美點の發揚をはかると共に短所缺點は極力矯正する様指示を與へた
石黒知事訓示
本縣は一般的に不況に加ふるに東海岸に震

災の起るあり遠く滿洲に數千の將兵を送り非常の秋に際會してゐる縣は國防統制委員會を設け銃後の全きを期し又各般の施設を講じ着々更正岩手の實現に努めつゝあります縣下中堅たる國民教育の訓育に當らるゝ諸君に對し私は特に日本精神の強調を要望する古紀の研究殊にも歴代の御詔勅御神勅の研究に力を致されたい國の祭禮記念日に深い關心を以て意義ある祭禮或ひは記念日に適切なる所の施設を講じ徹底を圖つてもらひたい

○
畏くも去る三月二十七日國際聯盟離脱に關し優渥なる大詔を煥發せられ國民の嚮ふべき指針を御垂示なられました事は寔に恐懼感激に堪へぬ所であります吾々國民たるもの齊しくこの 聖旨を奉体して固有の日本精神を發揮し舉國一致各その本務に精進して時難を克服し國威の振興を圖るべきであります特に任を中堅國民の養成に奉ずる各位は深くこの點に留意せられ自ら日本精神の體現者となり生徒に對しては聖旨の存する所を能く理解せしめ苟且にも聖旨に悖る事なく一意奉公の誠を竭さしむるに一層の努力を望む

○
彼の三陸の震災海嘯の慘害一度天聽に達

するや
天皇 皇后兩陛下に於かせられては痛く御軫念遊ばされ優渥なる御沙汰を賜はり且御内帑金を下賜せられ罹災民慰問の爲には特に罹災地各地に侍従を御差遣あらせられ給ひて御仁慈深き御慰問の御言葉を賜はるなど皇恩の鴻大なる洵に恐懼に堪へない次第であります之が災害の復興については政府並國民の深厚なる同情と鞭撻により着々計劃を進めその實現を圖りつゝありますけれ共要は縣民の和衷協同と自覺反省に基き自力奮起するものでなければ到底所期の目的を達する事は出来ません各位に於ても當局の意のある所をよく生徒に徹底せしめ本縣更生の爲自力更生の熱と力とを與ふる様御教導あらん事を望みます

縣は曩に六原青年道場を計劃し縣下の青年男女を訓育して専ら信念と實力を啓培して祖先傳來の日本精神を體現せしめ或は地方風教を作興し或は地方産業開發し或は新領土海外への發展を圖り國縣を興隆すべき中堅人物を養成しつゝある所以のものは本縣更生の根本策として一は本縣教育の進路を示したのであります

次は此非常時に處するに必要なるは頑健なる体力を有する事で健全なる身体を作る事を主要任務とする事勿論であります而も之と共に旺盛なり氣力、死して後止むの氣魄、禮節、規律等の諸徳を養ふ事を忘れてはなりません、此見地より我が國古來の武道は純然たる体育的效果を齎すのみならず如上の徳を練り日本精神の實現の實修には極めて適切のものであります、今回岩手縣武道會が創立せられその活動は縣下武道界に一新生面を開かうとして居ります、此際各位は此武道會と密接なる提携をとり且這般の武道振興協議會の決議を尊重し武道の振興に一段の努力をはからはれん事を希望致します、又從來武道と云へば専ら男子の特技と心得女子には之を課す事極めて少なかつた事は甚だ遺憾であります、武道は決して男子専用のものでなく女子に對しても弓道、長刀術、懷劍など相應しき武道があり、之によつて日本婦人の眞骨頭をも發揮し得るのであります、女學校に關係の各位には充分此意を休し大いに斯道の獎勵につとめられん事を望みます

精神に至つては國家的觀念を明徴にして献身奉仕の精神を振起し規律を尊び節制を守り命に服し困苦缺乏に堪ふるの訓育を徹底せしむる點にあるのであります決して教練教師にのみ任せべきものでもなく又教練場内のみの事として取扱ふべきものでもありません、此點については過日の配屬將校會議に於て指示せる所でありますが特に教練の生活化に一段の力を注がれん事を望みます、尙女子と教練とは全く無關係の如く考へる向もありませんが以上の精神よりせば女子の生活にも此精神を注ぎ込む事は甚だ必要な事と存じます、關係學校に於ては此點特に留意せられん事を望みます

此の問題に關しては這般の會議に於て或は屢々通牒等を致し各位の注意を促して居たのでありますから既に夫々適切なる對策を講じ居らるゝ事と信じますが今後一層此の點に留意せられ部下職員に對しては常に指導監督を怠らざると共に生徒の思想行動に對しては特に注意を拂ひよく其個性を知悉し環境を調査し更に進んでは思想善導の積極的施設をなし「嚮ふ所正を履み行ふ所中を執れ」と仰せられたる 聖旨を徹底せしめ固陋、矯激に走らず私を忘れて公に奉じ忠孝、義勇を尙び彌々國體の精華を發揮せしむる様一段の御努力を切望する次第であります

以上中等教育に従事する諸君に要望する次第であるが要は不言實行學校長はよろしく實踐躬行範を垂れて進んでもらひたい
縣中等學校長會議第二日の二十二日は午後會議を續行し諮問事項
非常時局に際し本縣中等教育上特に努力すべき點如何
に關し木暮岩手師範校長を委員長に黒金女馬内遠野高女、稻村盛商、山田久燕農各校長を委員とする委員會より左の如く答申した

- 一、非常時局に對する正しき認識と皇國の使命とを理解せしめ國民的信念を喚起せしむること
 - 二、本縣の現状を知悉せしめ更生の覺悟を確立せしむること
 - 三、健全なる思想を啓培し履正執中の中堅國民を養成すること
 - 四、勤勞生活の體驗を積ましめ心身一如の鍛鍊を行ふこと
 - 五、生活の合理化を徹底せしめ一層經濟の振興を期すること
 - 六、海外發展の思想を鼓吹し振興國民の素地を涵養すること
 - 七、縣教育是を確立し之が實行を期すること
- 會議は再び各部會に分れ協議し午後四時閉會した

小學校長會議 縣下小學校長會議は八年六月二十八日午前十時から小學校長四百五十名を召集縣公會堂第一ホールに開會、縣石黒知事、湯本學務部長、佐藤教育課長、近藤体育主事等教育關係官出席國旗を奉掲し君ヶ代二唱後勅語詔書の奉讀知事の訓示あり湯本學務部長議長席につき左記重要事項に關し指示し各項毎に佐藤課長より説明を加へた

- 一、日本精神の徹底
現下の難局を打開する根本は國民が能く日本精神に徹するにあることは機會ある毎に屢々指示する所なり國體の基く所を究め益々敬神崇祖の美風家族制度の良俗を發揮し更に進んでは之が確乎たる信念信仰を確立せしめられんことを望む、學校に皇太神宮を奉祀し兒童をして朝夕參拜せしめ以て報本反始の赤誠を披瀝せしめ國旗を奉掲して之に對する敬虔の念を養ひ皇居を遙拜し詔勅を奉讀して尊皇の至情を涵養するなどその一たるべきを信ず此點を留意し部下教職員を督勵し適切なる指導誘掖の施設を講じ兒童の清明心を啓培して彌々皇國精神を體現せしむる様一段の努力あらんことを望む
- 一、教員思想問題
教員の思想問題に關しては會同に際し或

ひは通牒等により詳細指示し更に文部省と協力し之に關する講習會並に資料展を開催する等現下各種の極左運動の真相を明かにし以て相互注意警戒せしむる所ありたるも之を廣く全國の情況及本縣の過去に徴するに決して樂觀を許さざるものあり且つ時勢の影響により極端なる右傾思想も擡頭し來り思想問題益々複雑を極めつゝあるの現狀に鑑み深く國體觀念國民精神の眞義を究め中正穩健なる識見を持し平素教員の指導監督を十分にしその思想傾向環境には絶えず留意し特に生徒児童に及ぼす影響には深甚なる注意を拂ひ適切なる對策を講ずると共に地方青少年に對しても同様絶えず周到なる注意をなし健全なる國民思想の啓培に最善の考慮を望む

一、國防觀念の養成
 兒童をして我國の特殊の位置事情を自覺せしめ世界平和人類幸福のため一層心身を鍛練して皇國精神を彌々發揮せしめ能く海に陸に國防の重責に任じ得る様訓練せられん事を望む皇軍第一線に起ち祖國守護の大任を荷ひ各地に奮戦力闘せる郷土派遣將兵戰病傷者並に銃後の慰問に關しては從來配慮の事なるも此際更に計畫を立て生徒をして感謝と慰問の赤誠を披

灑せしめられんことを望む
 一、縣民性の振作
 本縣の縣民性は其の位置氣候風土その他地理的關係より幾多の特色を有するは明なり中にも重厚にして堅忍持久の精神に富むが如き最も美點とする所然れ共亦他面矯正すべき短所あり殊に機敏活潑を欠き積極進取の氣象に乏しく創作的精神に欠くるが如きは將來本縣の振興發展のため遺憾とするところなりこの點に留意し教授訓練の實際に當り常にその長所美點の助長を圖ると共に短所欠點の矯正に一段の努力せられんことを望む

一、創作的態度の養成
 一、郷土教育の徹底
 一、創作教育の奨励
 現下教育の通弊として動もすれば知識の傳達に傾き體驗を輕んじ實行力の鍛練に欠くる所あり各位は深くこの點に鑑み教授に於て實驗實習を重んずるは勿論教育全般に亘りて體驗を重んじ勤勞を尙び以て知行一致黙々と時艱打開に捨身の活動をなす積極進取の實行的人物を養成せられんことを望む

青年道場に於て武裝移民の訓練をなし之を滿洲に送り或は機會ある毎に之が獎勵をなしたるを以て夫々留意せられつゝある事と信ずるも自今益々海外發展の思想を鼓吹すると共に新天地開拓に任じ得る体力と氣魄と信念とを有する人物の養成に努められん事を望む

一、體育の振興
 體育の本旨に省みて一般合理化に留意し全校生徒児童の体位の向上健康の増進を圖ると共に特に精神的訓練に關しては一段の考慮を拂ひ競技に於ても徒に技術の末に趨り或は勝敗を争ひて運動精神を没却するが如き事なき様指導せらるべし一般男女青少年に對しては適當なる武道を奨励して身体を鍛練し併せて日本精神の作興に努められ度

することだ我等は縣内のみで取引するのではない縣外更に海外に進んで取引する所謂海外發展だ我國教育者の通弊として教育者が教育の城廓にとちこもる事である實際に即したる教育方策をとるべきだ本縣の生徒児童の學力は低下してゐると聽いてゐたがこの程滿洲のさる知人から在滿將兵慰問文につき知事の反省を求めて來たが實物を見果して低下しある事の眞實なるを認め得た學力増進に關し諸君の考慮を願ひたい

×
 教育者が地方有力者によつてその地位の安固を圖るなどの行爲は絶対に排すべきである諸君は教育者の本分としての使命を忘れずそれに勇往邁進すればよい然るに實際に於て私の方針に背馳し居る事實と行爲する者を見且つ聞きつゝあるを遺憾とする諸君は國家の官吏である

×
 と考へ文部省に進言したことがある
 本縣は私來任當時道があるか無いか殆んど見當さへつかない状態であつた然し正しい祖先の魂が尙傳はつてそれに護られ更生の域に一步々々進みつゝある祖先の魂とは岩手の青年の間に漲りつゝある精神であるどうぞ諸君は町村長と協力して混頓たる縣民性を明朗剛健なる縣民性に還元して貰ひたい神ながらの道を闡明にしよく理解して始めて日本人であるその實行者たるを期するには清き明るき心即ち清明心を本體に努力と捨身を以て實現を圖るべきである

×
 天皇陛下の命によつて教育の重責に任じてゐるではないか眞に正しい考へを實行するに合同の力で進むのだ技術の末節に拘泥する要はない學校長は人格を以て教化するにある人格の完成したる校長を望むむ人格の完成したる校長を求めため現在一定資格云々は撤廢する必要がある

社會教育と社會事業

○全般 縣社會教育の概觀を記すれば先づ本縣立圖書館は大正十年十月十四日の創立で、之れを機會に菅下町村に對し、公立圖書館の設立を懇願したが、大正十三年 今上陛下の御成婚を記念として、多數の設置を見、爾來其の數を増し、尙縣下各圖書館を以て岩手縣圖書館協會を組織し、各圖書

×
 東海林視學が銜ヶ崎小學校長にそれ〴〵轉任し社會教育主事の後任に農學校の小田久耕氏視學の後には西磐井郡眞瀧村狐禪寺小學校長吉野慶吉盛岡市仁王小學校訓導佐藤匡氏が決定した、五月には下斗米視學が福岡小學校長に轉じたがその後任に師範學校教諭樋渡卯左衛門氏を起用することとし首席視學として就任した

社會教育

館の聯絡研究に努めてゐる。現在館数は縣立一、町村立一八七、私立二三、計二二一である。

青年男女を訓育して、専ら信念と實力との啓發に努め、祖先傳來の日本精神を體現し、地方風教の作興及地方産業の進展に盡し、且新領土及海外への發展を圖り本縣の振興と皇國の興隆とに貢獻する地方中堅人物を養成する爲、昭和七年九月贈澤郡相去村に縣立六原青年道場を設置し、場長一名、教士若干名を置いて専ら教導に力めてゐる。

尙拓務省主催滿蒙武裝移民候補者として、秋田、青森、岩手の三縣の在郷軍人百二十六名を九月十日から三週間收容して訓練を施した。

男女青年團は各市町村に設置され、之を包括して郡市男子及女子聯合青年團を組織し更に各郡市聯合青年團を以て、縣聯合青年團を組織し、又少年團も逐年其の數を増加するの趨勢である。

青年訓練所は大正十五年四月、青年訓練所令の發布する、と共に極力之を設置を獎勵したので縣下各市町村普く設置を見るに至つた。又鑛山、農場或は各種學校に對し之が設置を慫慂した結果、鑛山地に私立青年訓練所を設置したるもの二、青年訓練所規程第六條に依り認可したるもの三、同規

程第八條に依り認可したるもの二を見ることとなつた。

成人教育機關として大正十五年以來縣下數箇所に縣及文部省主催の下に成人教育講座を開設したが逐年良好の成績を収めてゐる。

映畫教育機關として映寫機一臺、フィルム廿四種、五十七卷を備へ地方の求めて應じ巡回映畫會を開催し、各地共良好の成績を収めてゐる。

公衆体育獎勵の目的を以つて体育主事を設置し、斯導助成に努めてゐる。

佛教家の集團、岩手縣佛教會は思想善導民風之作興に盡瘁し、岩手縣教化團體聯合會は教化運動を起し、その實行に努むると共に郡市町村教化網の完成に努めてゐる。

六原青年道場

岩手縣立六原青年道場は昭和七年九月六日贈澤郡相去村六原元陸軍々馬補充部六原支部跡に開場した道場は縣下青年男女を訓育して専ら信念と實力の啓發に努め依つて祖先傳來の日本精神を體現し本縣の振興と皇國の興隆に貢獻す地方中堅人物を養成するの目的使命である道場は一日に成つたものではない現下の非常時局に處する爲に百萬縣民の要望によつて幾多陥れたる官民の努力によりその成果を結ぶに至つた昭和八年八月十七日第一回の訓練生募集公告せられ入場許可第一回修練の榮譽を擲はんとし、午後一時開場式と同時に第一回訓練の入場式を擧げこの日入場せるもの縣下各郡市青年團に於て嚴選せられたる青年五十六名式は六原神社前野天に於て嚴肅に擧行せられた九月十日秋田青森岩手三縣より選抜せられたる自衛移民候補者百二十八名入場し道場は全能力を發揮して神明に誓つて所期の目的貫徹に勞を致して今日に至つた、九月三十日第一回訓練終了、十月三日自衛移民訓練終了し渡滿黑龍江省佳木斯に移住し帝國の生命線守護と皇國の彌榮に貢獻すべき雄圖に上つた第二回訓練は十月七日より三週間縣下青年五十名第三回訓練は十一月十日より四十八名の青年を收容し第四回は昭和八年五月十一日より三十四名を第五回は六月十日より三十八名を各修練した第六回訓練は七月十五日より縣下市町村青年團幹部六十六名を第七回訓練は縣下町村女子青年指導者七十四名を修練したこの間昭和七年十一月岩手縣會は滿場一致六原青年道場の設備充實擴大強化促進の建議書を可決して縣民の總意愈々切實なるを示し道場の將來縣移管を豫定してこゝに遠大な計畫に基づく豫算を通過した道場は訓練部

模範農村林業試験部よりなり一心同体先づ自給自足により道場の獨立完成を期し之を以て第一期計畫とし次に自給自足成るに及んで縣下産業の振興風教の作興に進出し常に青年岩手の原泉地たり岩手青年の靈地たらしめんとするものである

道場長	子爵 田村 丕顯
同 副 長	學務部長 湯本 二郎
訓練部長	教育課長 佐藤熊三郎
教 士	社會教育主事小田 久耕
同	縣視學 岡崎 太郎
同	鈴木 繁
同	榊原 孝

六原經營計劃案要綱

縣の六原青年道場建設は時局に鑑み全國的に注視を集めこれに倣うて先づ秋田縣に道場開設の内計畫あり縣に照會あつたよつて石黒知事は範例を示すべく自ら六原經營計劃案を起草しその要綱を發表した

第一、經營の三大綱

一、道場精神に基き青年男女の訓育の道場として經營す

二、縣は諸般の研究及び事業經營の目的を以て施設をなすと共に道場生をして右施設に付き見習習せしむ

(一)縣は産業及び教育上に關し研究並に

試験を行ふ爲に必要な設備を整へること

- (一)縣が改善し獎勵し普及せしめんとするものにつき育成し製造し配付する爲に必要な設備をなすこと
 - (二)六原原野の一部に自作農創設の目的を以て道場出身の青年並に道場職員より成る模範農村を建設すること
 - (三)土地に餘裕ある場合はその一部を各市郡に分割し郡市農會を主体として經營方法を講ぜしめその市郡内に於ける六原道場出身の青年を選び經營せしむること
 - (四)本道場經營につき縣財政經理上止むを得ざる場合は一部を賣却し財源に充つ
 - (五)自給自足の經營方針をとる
- 三、特別會計とすること
- (一)特別維持基金を設くること
- (二)特別會計とすること
- 第二、經營財源
- 一、土地拂受の財源と償還財源
- (一)起債による
- (二)償還は一般會計及開墾したる土地の賣却金並に道場收入より財源に充當す
- 附、起債總額と償還計畫表
- 二、事業經營の財源
- (一)當初の施設經營の費用は縣の一般會

計より支出す

- (一)縣財政の状況に鑑み道場經營計畫に支障を及ぼさざる程度において開墾したる土地を賣却して經費に充當し縣一般會計の負擔を軽減することあるべし
 - (二)自給自足の大本立ちたるときは特殊の施設または特殊の事情ある場合の外は縣の一般會計より支出をなさず
- 附、經營計畫に伴ふ逐年豫算表
- 第三、道場の目的及組織
- 一、目的
- 本道場は縣下青年男女を訓育して専ら信念と實力との啓發に努め依つて祖先傳來の日本精神を體現し入りては地方風教を振興し地方産業の開發に盡し出でては新領土及び海外への發展を圖り以て本縣の振興と皇國の興隆とに貢獻する中堅人物を養成するを目的とす
- 二、組織
- (一)指導者
- (イ)道場長
- (ロ)教士専任一〇名以上兼任若千名
- (ハ)助手二〇名以上
- (ニ)講師
- (ホ)囑託
- (注意)事務員傭人の類はこれをおかず道場長以下全員分擔してこれに當る

とを以て本道場の特色となす

(一)道場生及び修練生に關する事項(別掲)

(二)訓練部門(別掲)

第四、道場に關する事項

一、年齢

(一)十八歳以上三十歳までを普通とす

(二)但し修練の内容及び修練資格の定め方により多少の變更あるべし

二、學歷

特別の場合の外は學歷の有無に關係なし

三、精神

眞摯にして不平不満なく努力精勵することの意思強固なること

四、健康

(一)身体強健にして刻苦勞働に堪ゆるもの既往重病にかゝりたるものにして未だ経過年月少なきもの又は一種の持病を有するものは資格なし

(二)採用の際は健康診断を行ふ

五、採用

(一)原則として郡市青年團長在郷軍人會市町村長學校長等の推薦による

(二)時に廣く一般志望者中より採用することあるべし

六、給與

(一)可成入場中食費を給す

(二)なほ困窮の事情あるものには特に旅費を支給することあるべし

七、携帶物

(一)寢具、作業服及び附屬品シャツ上下着換、その他日常の必需品

八、特權

(一)當分の内岩崎開墾従事者として優先特權を與ふること

(二)將來縣において此の種の事業を行ふときにも亦特權を與ふること

九、定員

(一)短期は百名以内

(二)長期五十名以内

十、女子も概ね之に準ず

第一拓殖訓練所

文部省より盛岡高農に委託の第一拓殖訓練所開所式は八年六月十一日午前十時より訓練所たる盛岡高農經濟農場にて舉行されたが朝來天氣快晴時局柄意義深き同訓練所の前途を祝福するものあり

文部大臣代理として栗屋次官、拓務大臣代理として桑重事務官等をはじめ來賓石黒縣知事、飯田騎兵第三旅團長、中村市長、湯本學務部長、各中等學校長をはじめ學校側訓練所長たる上村高農校長、訓練所主任たる草刈虎雄教授、他各學部部長臨席特に御明神村上野尋常高等小學兒童一同も參列

假入所を許可された訓練生一同は陸軍制服に似た新調の訓練服に身を固めて正面に整列、君ヶ代二唱程に國旗を掲揚、上村所長告辭に次ぎ別項文部大臣告辭を栗屋次官、拓務大臣祝辭を桑重事務官代讀、石黒知事、下河原御明神村長等祝辭を述べ次いで入所生總代高山半五郎君(山形縣人)一同を代表して誓詞を朗讀、上村所長の挨拶あつて式を閉ぢそれより晝飯をした、午後一時より假入式を舉行、同農場西端の自然生松林の一隅に國旗を掲揚、三班三十名の所生は號令一下刈拂ひを行ふ者、松樹を伐り倒す者眞新しき鋏を振つて力強い一鋏を起す者等さしもの荒地も見ゆる開拓せられゆく若人の力に來賓一同深い感銘にうたれたが更に上村所長の先導にて訓練生の宿舎にあてられてゐる演習林寄宿舎を視察、昨冬同所に出没の猛熊三頭の皮を敷かれた教官宿舎に少憩後演習林一部を視察午後三時解散し意義深き開所式を終了した

文部大臣告辭

本日茲に第一拓殖訓練所開所式の舉行せらるゝに至りたるは邦家の爲めに慶賀に堪へざる所なり惟ふに人口稠密耕地狭少天然資源に乏しき我が國に於ては民族の海外發展を策することの極めて緊切なるものあり而して其の恒久堅實なる發

展は先づ土地を根抵とする農業移植民の進出に俟たざるべからず今回創設したる拓殖訓練所の目的とするところ爰に存し海外に移住せむとする者に須要なる知識技能を授けると共に家塾の精神に則り大和民族の襟度を涵養し勤勞陶冶によりて困苦欠乏に堪ふるの鍛練を行ひ以て海外移住地に於る中堅農民たるの素養を得せしめんことを期するにあり、曩に東亞の一角風雲亂れ王師朝北の野に暴露し茲に滿洲國の建設となり堅實なる發達に向はんとするの秋に際す此地廣ぼうべうばうとして天然資源の開發遅きものあるのみならず我が國の生命線として我が民族の發展を期せざるべからざるの地域なり諸子新興滿洲國に於て文化建設の先驅者たるの任に當らむとすその意氣甚だ軒昂なるを見て衷心意を強うする所なり諸子希くは本所創設の趣旨に則り日夜鑽研克く本所第一回生たるの實を示さんことを期し協心戮力以て國運の伸張民族の福祉に貢献せられんことを一言述べて告辭とす

昭和八年六月十一日

文部大臣 鳩山 一郎

誓詞

生等本邦現下の情勢に鑑み滿蒙開拓の急

社會教育と社會事業——第一拓殖訓練所

務なるに徴し民族發展の爲奮然躍起農業移民として該地に赴き日本精神を以て移民の中堅に任じ相率ゐて農業經營に當らんと決意せり幸なる哉時恰も本所の開設せられ今や第一回入所生として親しく薫陶を受くるに至り此處に文部次官閣下を始め幾多來賓の臨席せらるゝ開所の式典に參列することを得るは感激洵に禁ずる能はざるなりとす乃ち閣下各位の御訓を体し日夜精勵努力専ら綱領服膺し心身を鍛練し以て本所開設の御趣旨に答へ極力吾等の命を達成せむ事を期す依て茲に之を誓ふ

昭和八年六月十一日

第一回入所生總代 高山 善三郎

第一拓殖訓練所綱領

一、我建國の大精神に鑑み常に皇國の興隆と民族の發展とを念とすべし

一、心身を鍛練し智徳をさい礦し専ら他日の報効に資すべし

一、實實を尙び浮華を斥け艱苦欠乏に克つる力を養ふべし

一、長上を尊敬し儕輩を信愛し和衷協同の實を擧ぐべし

一、自然に親み天則を覺り明朗純眞の生活

を誓むべし

一、克く滿蒙拓殖の眞義を理解し將來成功の第一人者たるを期すべし

第一回入所生

- ◇第一班 板橋幸俊(福島)二二福島縣立會津農林 萩田好道(石川)二四石川縣立大聖寺中 小澤武雄(神奈川)二三神奈川縣藤澤中 野寺英雄(茨城)二二栃木縣立眞岡農 打木政治(群馬)二八群馬縣立館林農林 井上可行(宮城)二二宮城縣角田中阿部三郎(岩手)二〇稗貫郡宮野目農業補習學校 志田省吾(靜岡)一九靜岡縣立大宮農 菅原正八(宮城)二二宮城縣小牛田農林 久津間傳(山梨)二二山梨縣立蠶草野誠(福島)二五福島縣立蠶 小林善造(富山)二四富山縣立富山中 永山明治(茨城)二四茨城縣立眞壁農 平野泰(青森)二三青森縣立三本木農 日野正人(宮城)二三宮城縣桃生郡前谷地農業補習學校
- ◇第二班 伊藤妻一(群馬)二五群馬縣群馬郡金古實業補習學校 長谷川守(茨城)二三茨城縣立水戸農 川又貞二郎(岩手)二三岩手縣立盛岡農 金澤金作(新潟)二五新潟縣北魚沼郡廣瀬村小平尾農業補習學校 高山半三郎(山形)二七山形縣立新庄中 高木章(長野)二〇長野縣立飯山中

社會教育と社會事業——青年訓練所——青年團指導者時局對策協議會

奈良岡健三(青森)二一縣立五所河原農
向井勝雄(青森)二五青森縣立三本木農

佐藤尚志(宮城)一九宮城縣栗原農 廣瀨
清一(茨城)二〇縣立下妻中

青年訓練所

種別	訓練所		指導員		生徒	年度内 修了者	經費
	主事	教員	軍人	其他			
市立	七	三	二	六	五〇	一、三六	四
町立	三〇	一〇	八	一、八六	一、五〇	一、三六	一
私立	二	二	九	三	一〇	一、七三	一
計	三二	一〇	三三	一、九〇	一、四〇	一、七三	六

青訓補助金 八年度青年訓練所費補助金として文部省から交付された一萬五千圓を縣では三分し其の一を昭和五年四月末日現在市町村男子人口四十萬六千八百九十九人に按分配當し其の一を公立青年訓練所及充當實業補習學校數三百九ヶ所に按分配當他の三分の一を訓練所生徒數及充當學校生徒數二萬八十人に配當することになつた郡市配當額左の如し

岩手郡千四百六十圓△紫波郡四百六十一圓△稗貫郡七百六十五圓△和賀郡千七百七十二圓△膽澤郡千三百八十八圓△江刺郡七百二十圓△西磐井郡七百九十一圓△東磐井郡千二百五十圓△氣仙郡千二百六十二圓△上閉伊郡千二百三十三圓△下閉伊郡千七百六十七圓△九戸郡千三百六十二圓△

男女青年團狀況 縣で調査した八年四月一日現在の男女青年團體狀況に依れば本縣青年團體聯合會は縣下各青年團の中樞として郡市聯合青年團或は中等學校六原青年道場と提携し團員の訓育に努め相互の研究修養を圖り識見を高め体育の練磨向上青年の思想善導風俗改善等に努め効果を擧げ町村青年團はその内容の整備を圖ると共に施設も次第に見るべきものあり修養施設に青年道場の開設團員を六原道場に派遣圖書館並青年文庫の利用獎勵等体育施設公共的施設其他産業改良等に特色を發揮しつゝある團體數を示すと

二二二

郡二七六市九計二八五團内町二三一村二三一團長は團員より五八名團員外二二七名正團員數四萬八千五百二十三名内二十歳以上二萬二千五百二十三名二十歳以下二萬六千六百四十四名

女子青年團體の狀況左の如し
三百八團内市七町二九村二五八團長團員より十五名以外二百九十三名團員數二萬九千二十四名内二十歳以上八千四百六十四名二十歳以下二萬五百六十名

尙優良男女青年團體は左の通りである
△男子青年團 江刺郡梁川村青年團、西磐井郡萩村青年團、東磐井郡奥玉村青年團、岩手郡太田村青年團、和賀郡笹間村青年團、東磐井郡猿澤村青年團
△女子青年團 岩手郡太田村女子青年團、盛岡市厨川女子青年團、二戸郡荒澤村女子青年團

青年團指導者時局對策協議會

日本聯合青年團主權青年團指導者並幹部時局對策研究協議會は七年十一月二十八日午後一時より縣公會堂第二ホールに
聯合青年團濱田囑託秋山主事縣より石黒知事湯本學務部長奥田教育課長佐藤社會教育主事縣下各青年團幹部九十名に宮城秋田新潟諸縣よりも指導者出席參加して

開講式を舉行、皇居遙拜國旗掲揚君ヶ代奉唱、濱田理事代理の令旨奉讀ありて主催者として濱田囑託

内外の時局は多事多端である力ある我等大和民族の結束努力によつて美はしい郷土祖國の國難打開に盡くすべきだ青年日本本協議會で行つて戴きたいと挨拶し來賓を代表し石黒知事より祝辭を兼て

我國は全國的に困厄を訴へてゐる特に東北日本に於て甚だしい打開の途は一に青年の力に待つ理屈は第二である、日本精神即ち他を生かし自己を生かす我等祖先のふんで來た所の傳統を体現すべきである、自力更生は演說會のみではだめだ東北日本の振興と國家に貢獻し得るものを本協議會に於て充分研討して示されたいこの意味でこの度の協議會は意義ある重大なる協議であり深く主催者側に感謝致します

希望と謝辭を述べてから濱田囑託の青年團時局對策に關しての講演あり、三時半から地元更生運動狀況報告あり研究協議に移り八時より懇談會茶話會を開き第一日を終了第二日は二十九日午前中前日に引續き研究協議をなし午後一時半から常任理事田澤義

社會教育と社會事業——青年團指導者時局對策協議會

鋪氏の左記要旨の講演あり

非常時局は三ツに要約することが出来る一ツは支那問題滿洲事變を中心としたこの國際關係でこれは我外交史始つてからの複雑性を帯びた外交問題である、二は産業經濟の問題、三は政治思想の動搖であるこの三ツが非常時の非常時たる所以である第一の國際政局は事柄極めて重大ではあるが青年團には判り切つた問題でまかりまちがつた最悪の場合を豫想する我國は只陛下の御指示になる所敢然一死君國に報ずるのみであつて要は當局を信頼するにある第二の經濟産業こそは我等の双肩にかゝる當面の問題として何をなすべきか全國的に考へ實行する第一線にたつたのは青年である青年がかく重く見られるに至つたのは行詰つたこの世相を打開する力は一に青年に待つ所あることを漸く社會が認識したため青年の力が明瞭に存在を示すに至つたことは喜ばしいことであると共にしみじみ責任の重大なるを感じる更生途上に活躍してゐる青年の業績は偉大なもので田園の英雄兒は青年から輩出しつつある然しそれは何十何百の中の一であり何千人かの青年中の數人に過ぎずそれは芽生之に過ぎません先鋒は起上つて進みつつある後陣これ

に續いて有終の美を濟すべきである青年團に産業部を設け活躍して貰ひたい修養も大切ではあるが産業經濟を通じての修養であつて欲しい團員のため九分九厘は産業生活をなしてゐる筈だ一人一人研究を刻明に續けて行く學者の領分よりは實際家として研究すべき餘地が數多く残されてゐるではないか學校は問題でない團員の多くは小學校實業補習學校の卒業生が多からうそれでよい、次に農村經營の合理化を圖るにある經營の合理化は頭を働かす事だ東北地方など冬期勞力の利用について一段と研究を重ねる必要があると思ふ農民勞働の時間は正確なる記帳によつて工場勞働等より遙かに少ないことを一團員が發表してゐます、自給經濟の擴大等經營の合理化についてはまだ頭を使ふことが多々ある農村も資本主義の組織下に置かれてゐる以上協同化組合について考へなくてははいけませんその單位は部落中心であるべきだ、最初の經濟單位は最も古い歴史と傳統をもつ部落にある部落結合の強化は他と争ふためではないどこまでも結合である自力更生に郷土聚落といふ言葉があります部落の意味である部落は協同經營の主体である自力更生運動の中心は部落と青年であり兩

二二三

者は更生運動の大きな発見であつた日常
生活の充實を團體によつて促進する農村
問題解決のため將來生産統制科學統制が
試みられるであらうが統制の根據は部落
にある部落の結合を無視しては統制は不
可能だ農村の指導的立場にあつた地主は
漸次没落の過程を示しつゝあるこれに代
るよりよき指導者は青年團によつて養成
さるべきで自分の仕事と團體の仕事に矛
盾を感じない青年團生活の体験より生れ
る指導者である
午後四時から再び研究協議をなし七時より
更生事例發表會を開いた
最終の協議會は三十日午前八時から公會堂
第二ホールに開會
縣より石黒知事、湯本學務部長、佐藤社
會教育主事、本部側田澤常任理事、濱田
囑託、秋山主事、輪違事務員等出席
田澤理事の公民教育に關する講演あり特に
青年の公民教育に關しての重點として
青年團生活に依つて共同連帯の生活を体
験し公民精神の基礎を涵養すること
公的生活の基本たる郷土の認識を正しう
し郷土生活の理想を實現せんが爲に社會
的經濟的その他各方面よりする郷土の調
査研究を奨励すること
青年に對する政治教育は左の諸項に重き

を置くこと
一、憲法の精神を尊重し暴力を否定し立
憲政治の完成を期すること
二、地方自治の確立を期し自治團體に於
ける黨争の弊を排除すること
三、選挙を淨化しその自由公正を確保す
ること
講話を結ぶに當つて朗讀研究協議員の話
意を喚起し協議に移り時局に際し青年團指
導上特に留意すべき事項に就いての委員會
報告あり報告通り左の如く答申決定
一、精神的方面 一君萬民を理想とする日
本精神を把握せしむることに全力を盡す
こと
(一)大日本聯合青年團に於ては特に青年
團指導者を目標とする日本國體に關す
る著書を出版し實費にて頒布すること
(二)道府縣郡市青年團に於ては日本精神
を自覺せしむるために講習講演會を開
催すること
二、經濟的方面 青年團指導者は經濟に關
養育院及感化院

する知識を深めることに努力すること
(一)單位青年團に經濟相談部を設置する
こと
(二)經濟に關する講演講習會を開催する
こと
三、指導者として特に留意を要する事項
指導者は常に人格的友情的立場に於て團
員に接觸すること
次いで農家經營上青年團に於て實施するを
適當とする事項青年團郷土研究調査の研
討をなし研究協議を終了し閉會式を舉行田澤
理事より出席證を授與し協議會を閉會した
社會事業
△全般 社會狀態の比較的平穩なる本縣は
從來商工業の盛んな都市を中心としての施
設が多かつたが、近來農村社會事業の唱導
さるゝに伴つて、兒童保護施設の一として
託兒所の開設を見、或は恩賜財團濟生會及
赤十字社支部の巡回診療所の活動、住宅組
合の設立、公益質屋の増設等本縣社會事業
は逐年發展し社會事業協會も昭和七年三月
設立さるゝに至つた

Table with columns: 名, 稱, 設立の區別, 職員數, 收容人員 (男, 女), 經費. Lists various institutions like 岩手養育院, 岩手養老院, 杜陵學園, etc.

岩手保護院

赤十字社及愛國婦人會
佩有功章 終身
及特別 一、一〇八 一三、七五二
愛國婦人會 二、〇一四

住宅組合
組合數 組合員 貸付金額 建築戸數
一、四三三 五、九〇〇 四、九三三

紺綬褒賞拜受者
褒狀を賜ひし者 一、一六 一、一六
金員を賜ひし者 一、一六 一、一六

銃後の活動

出動將兵並遺家族
慰問委員會設置
銃後の陣容を整へその全きを期するため縣
に出動將兵並に遺家族慰問委員會を設置す
ることとなり八年二月十四日午後二時から
主管課社會課に打合會を開き委員會規程及
び委員幹事を左の如く依囑するに内定した
出動將兵並遺家族
慰問委員會規程
第一條 出動將兵並遺家族の慰問救恤に關

社會教育と社會事業——銃後の活動

正(通常) 贊助 計 年釀金
一、六、四四一 三、三、四七 一七、九〇四
一七、二九〇 一、一六 一九、四一〇 七、八六五
岩手縣內務部長 同警察部長 同學務部
長 同縣會議長 同町村長會長 盛岡市
長 騎兵第三旅團司令部高級副官 盛岡
聯隊區司令官 盛岡憲兵分隊長 帝國在
郷軍人會盛岡支部長 帝國在郷軍人會盛
岡市聯合分會長 帝國軍人後援會岩手支
會長 日本赤十字社岩手支部長 愛國婦
人會岩手縣支部長 岩手日報社主筆 岩
手毎日新聞社同 縣青年團聯合會長 縣
聯合女子青年團長

幹事

岩手縣社會課長 同社寺兵事課長 同教
育課長 同地方課長 同警務課長 同庶
務課長
而して出動將兵並遺家族慰問實施計畫は左
記要項によることとし十七日第一回委員會
を開き出動將兵並遺家族救恤方法の連絡統
一に關し意見の交換を行つた
一、國防思想の普及徹底方法
(一)國防講演會映畫會を開催すること
(二)ポスター、リーフレット、パンフレッ
トの配布
二、家族遺族に對する方法
(一)家族遺族の狀況を詳細に調査するこ
と
註 軍人家族、遺族調査表を印刷し各警
察署長、各市町村長、各小學校長、各帝
國在郷軍人分會長等に配付して夫々實
情を調査せしむること
(二)右調査に依り具體的慰問救恤方法を
實施すること
(一)軍事救護法該當者に對しては直ち
に救護法の手續をなすこと
(二)軍事救護法該當者にして被救護を
肯ぜざる者及非該當者にして尙要救
護の實情にある者に對しては各種軍
人後援團體に於て救護の手續をなし

- 又は慰問金を贈呈すること
- (三) 家族、遺族を屢々訪問見舞慰を爲すこと
- (四) 家族、遺族に對し勞力奉仕を爲すこと
- 註 各種團員及一般人をして農漁繁期業務及家事の手傳等をなさしむること
- (五) 出動記念品を贈呈すること
- 註 壁掛、木盃、メタル等の如き記念品を調製贈呈すること
- (六) 慰問金品の募集をなすこと
- 註 各市町村各種團体に於て募集に努め慰問金品は地元の慰問救恤に充つる外縣に取纏め送致せしむること
- (七) 出動標識を掲げること
- (八) 國の祝祭日其他の諸會合に家族、遺族を招待すること
- (九) 慰安會を開催すること
- 註 活動寫眞浪花節音樂會等を開催し慰安すること(家族、遺族以外からは會費を徴し慰問金に充つること)
- 三、出動將兵に對する方法
- (一) 慰問金を贈呈すること
- 註 慰問金品贈呈品は各種團体重複せず交互に實施する様方法を講ずること
- (二) 慰問狀を發すること
- 註 兒童、生徒、學生の作品及各種團員

並一般人の郷土便りを發送せしめ又は縣に於て取まとめ發送すること

四、戦死、傷病者に對する方法

- (一) 戦死者ありたる場合は弔電を發し弔慰金を贈ること
- (二) 葬儀の場合は弔辭を贈り弔問者を派遣すること
- (三) 傷病兵ありたる場合は戦死者の場合に準じて之を慰問すること

五、慰問救恤狀況調

- (一) 各種團体に於ける慰問救恤狀況を市町村長に報告し市町村長より縣に報告せしめること

銃後の後援狀況

滿洲事變勃發以來本縣は生命線擁護或ひは經濟線の確保を圖るため第一線部隊に出身將兵を送つて居りその銃後の後援に於ては農村不況にかへ、一昨年の凶作襲來銀行破綻による金融界極度の梗塞あるに拘らず百萬縣民舉つての物質的に精神的に熱烈なる援護と石黒知事以下縣各機關協力一致しての後援は第○師管内隨一と云はれ感謝を受けてゐるが對事變の進捗に縣は一層の緊張を以て銃後の守を固うする事になり縣は二月内務大臣官房に事變勃發以來の後援狀況を左の如く報告した

軍事救護法による救護に就ては從來も漏救濫救等なき様よく注意し來りたるも滿洲事變勃發以來一層之が遺憾なき實施を期し、市町村長を督勵して常に要救護者の有無及被救護者の實情を調査せしめて要すれば直ちに救護出願若くは救護金増額申請の手續を採らしめ

2、出願に對する許否の決定は迅速に之を處理し銳意本法の運用に努めたる結果六年九月十八日より七年十二月三十一日までの間に於て新に救護をなしたるものは次の如し

六年九月十八日至七年十二月三十一日までの狀況

七年一月七〇名、二月六〇、三月四九三、四月二二九、五月一二八、六月八三、七月一〇九、八月七〇、九月五三、十月四四、十一月二六、十二月六二計救護戸數三四八戸人員一、四三二名

尙本年一月新入營兵及滿洲事變のため除隊延期兵の家族中要救護者に對しては此際速かに調査出願せしむる等の方法を講じ居り自一月至三月新規救護見込は戸數三三一戸人員一、六八〇名金額一九、〇三二圓に達すべく之を昭和七年度一ヶ年分に付て見れば戸數七八三戸人員三、四三七名金額六一、五六四圓にして六年度一ヶ年分の救護戸

數四〇四戸人員一、五二八名金額二四、五九七圓に比較すれば、戸數三七九戸人員一、九〇九名金額三七、九六七圓の著き増加を來すべし

◇戦線將兵並遺家族の慰問概況

滿洲事變勃發以來縣出身出動將兵約千八百名並にその遺家族の慰問に關しては特別會計軍人救護資金の活用並帝國軍人會若手支會愛國婦人會若手支部等の活動を期すると共に廣く縣民一般の熱烈なる後援思想を喚起し慰問金品慰問狀の募集贈呈を企て慰問雜誌を發行する等各種の手段を盡して之が遺憾なき實施に努めつゝあり六年九月十八日より七年十二月末日までの間に實施したる事項左の如し

- 1、戦死傷者弔慰 一、六四五圓弔慰金八〇〇圓花輪贈呈三二〇圓内見舞金五二五圓
- 2、戦線將兵慰問 四、八一五圓歳末酒肴料一、三〇〇圓上海出動海軍慰問六八〇圓滿洲派遣各部隊慰問二、五〇五圓その他
- 3、家族慰問 一一、七六九圓生計困難家族慰問六百三十家族九、九六〇圓出動標識六〇九圓記念品一、二〇〇圓
- 4、慰問金品募集

慰問品 慰問狀

一六、九五三圓
三、七九五圓
三〇、二三九圓

◇事務の概況

社會情勢の進展に伴ひ社會課分掌事務益々多端を極めつゝある折柄滿洲事變勃發するや出動將兵並その家族の慰問救恤の爲一層多忙を極め日曜祭日も出動し夜勤を續くる等熱心に執務せり

國防後援會設立

滿洲問題を契機として國家危急の重大時期に際會するの秋本縣出身將兵は皇軍の第一線に起ち身命を賭して祖國守護の爲力戰奮闘しつゝあるに鑑み各官衛公私諸團體代表者と相諮り縣民に國防觀念を普及し且國家防衛に關する限り廣く諸般の事項に互に努めて公私諸團體を援け實情に則したる措置を講じ國民報國の實を擧げんがため財團法人若手縣國防後援會を設立し後述若手縣國防統制委員會と相提携して既ね左記事業を行ひ以て所期の目的を完うせんと企圖しつゝあり

財團法人若手縣國防後援會要項

- 一、會は財團法人若手縣國防後援會と稱し事務所を若手縣廳内に置く
- 二、會の目的は縣民に國防觀念を普及し且國家防衛に關する限り廣く諸般の事項に

若手縣國防後援會設立趣意書

滿洲問題は皇國の興廢に關する重大事でありまするが這般の國際聯盟離脱に依つて一層其の重大性を加へましたのみならず我國としては全く自主獨往の大方針に基きて國

際間に處せなければならぬことと相成りま
して洵に國家危急の重大時機に際會して居
るのであります、私共國民は嚴肅なる氣分
と進取果斷の態度とを以て自己を忘れて一
意奉公の誠を輸さなければならぬと深く感
ずる次第であります

此の難局に際しまして本縣出身の陸海軍將
兵は昭和六年十一月以來北滿南滿上海各地
に轉戦せられまして本年三月以後特に縣出
身の將兵より成る主力集團は一擧にして熱
河を攻略し萬里の長城を越えて長驅北平城
外に迫り遂に彼をして 皇威に抗すべから
ざることを覺らしめ我が軍門に停戦を哀訴
するに至らしめたことは御承知の通りであ
ります。而して此等將兵諸氏の力戰奮闘に
よりまして新滿洲國の建國の盛業も成り
皇國の權益も擁護せられ東洋平和の永遠の
磐石も置かれまして、寔に未曾有の天業を
輔翼し奉られた功績は偉大でありまして將
兵諸氏の家門の譽は勿論のこと郷國岩手の
誇りであります。私共は此の武勳を仰ぎ見
て喜を共にすると同時に將兵の方々の勞
苦の甚大なりしことを考へますると衷心よ
り感謝にたへません。將兵諸氏は征途に上
られてより此の方冬は山川草木皆凍り夏は
灼熱金をも熔かす滿洲の山岳地帯や荒野野
原に路を求め路を作りて強行又強行四圍皆

敵の間に在りて凡ゆる困苦缺乏に堪へ征戰
に寧日なく砲煙彈雨の間に銃を枕に露營の
夢も結びがてであつたのでありまして眞に
察するに餘りあるものであります。就中戰陣
の間に歿せられ傷つかれ病を獲られたる方
々は只今迄合せて三百五十名に達し誠に感
激と敬悼の情に堪へません

斯様に本縣出身の數千の將兵は此の重大時
局に當り 大君の御命のまにまに國家國民
の安泰幸福の爲一死奉公の本願を以て邁進
して居らるるのであります。畢竟するに私
共國民に代つて生命を賭して力闘せられつ
つあるのであります。私共國民はこれある
が爲に生命や財産につき何等の懸念もなく
麗しき郷土に於て家を守つて父母や兄弟妻
子等と一家團樂して人生の幸福に浴し相共
に安穩に職業に勤めて居るのであります。
彼の支那に於ては戰禍の爲親子兄弟姉妹は
所定めず流離し又分散し財産は素よりのこ
と生命をも喪ふが如き人生最大の悲惨なる
事實を演出して居まするのに比照して見ま
すと心より感謝感激にたへぬものがある
と存じます。又何人と雖艱難を思つては一
日も憂如として居る譯には參らぬのであり
ます。私共は内に在りて身自らとしても又
出動將兵の代りとしても非常時日本を守り
且つ育つべき重大の使命と責務とを有する

のであります。私共は一身を御國に捧げて
戰場を馳驅する忠烈の人々と同じく一身の
利害を外にして只管に祖國日本の爲に奉公
致さなければ相濟まぬ次第と存じます。則
ち私共は特に此の重大時局に鑑みまして國
家の防衛に關聯する限りの一切の事につき
まして出來得る限りの奉仕を致さなければ
ならぬと存じます。且又出動將兵及その戰
病死者戰傷病者並に此等の人々の遺族家族
に對する慰藉弔祭並に援助その他廢兵の授
産保護在營者の家族に對する救護等に就き
ては國家の施設と相俟つて遺憾なき様致す
ことが實狀に照しまして私共の爲さなけれ
ばならぬ緊切事と考へられます。今回本縣
に於て計畫致しました財團法人岩手縣國防
後援會は全く右の趣旨に基き設立せむとす
るものであります

冀に本縣に於ては凶作金融梗塞津浪等災禍
に見舞はれ縣民等しく困厄致して居りまし
て銃後の後援の如きも思ふに委せなむ憾み
もありましたが併し事は一日も弛うする譯
に參りませんので當時既に縣内官衛公私諸
團體の代表者が相集まりまして岩手縣國防
統制委員會を設け各團體間の統制連絡を圖
りまして行動の重複を避け各團體の活動を
強化致しまして効果を擧ぐる事に努めまし
たが今後國防後援會設立の曉は此の統制委

員會と相提携致しまして會の目的の範圍内
に於て大に各種公私諸團體の活動を援助し
本會設立の目的を完う致したいと存するの
であります

時局は小康を得ましたが前途は猶遠慮であ
ります。本會の永久的存在は最も有意義と
存じます

希くは時局を憂ひ愛國の至情に燃ゆる縣民
諸氏は本會設立の趣旨の存する所を諒察せ
られまして本財團設立に對し深甚の御援助
あらんことを切望する次第であります

昭和八年七月

岩手縣國防後援會設立發起人

(順序不同)

- 岩手縣知事 盛岡聯隊區司令官 帝國在
郷軍人會盛岡支部長 帝國軍人後援會岩
手支會長 帝國在郷軍人會各都市聯合分
會長 盛岡地方裁判所長 盛岡地方裁判
所檢察正 岩手縣會議長 盛岡市長 岩
手縣町村長會長 産業組合中央會岩手支
會長 盛岡商工會議所會頭 岩手縣農會
會長 岩手縣山林會長 岩手縣水産會長
日本赤十字社岩手支部長 愛國婦人會岩
手縣支部長 陸海軍將校婦人會盛岡支部
長 岩手縣消防義會頭 岩手縣青年團體
聯合會長 岩手縣女子青年團聯合會長
岩手縣教育會長 岩手縣神職會長 岩手

社會教育と社會事業——國防統制委員會

- 縣佛教會長 岩手縣聯合婦人會長 岩手
縣醫師會長 岩手縣藥劑師會長 岩手日
報社 東京朝日新聞盛岡通信部 東京日
日新聞盛岡通信部 時事新報社盛岡支局
報知新聞社盛岡支局 讀賣新聞盛岡通信
部 河北新報社盛岡支社

國防統制委員會

本縣は數年來打續く不況に加へて昭和六年
の凶作日支事變に因る餽、餉等の對支貿易
杜絶、及銀行破綻に伴ふ金融の梗塞等に依
り縣民等しく困窮し銃後の後援の如きも思
ふに委せざる感もあり是等は一日も弛うす
べからざるを以つて、益々之が熱烈なる後
援を促し且つ官民各方面の銃後後援事業の
連絡統制を圖り行動の重複を避け活動を強
化し併せて國防に關し實情に則せる措置を
講じ依つて國民報國の實を擧げんため關係
官公衛公私諸團體の代表者が集合協議の結
果八年三月一日岩手縣國防統制委員會を設
立した

岩手縣國防統制委員會規程

第一條 本委員會は岩手縣國防統制委員會
と稱し國防に對する縣民の後援に付連絡
統制を圖り併せて國防に關し實情に則せ
る措置を講じ依つて國民報國の實を擧ぐる
を以て目的とす
本委員會は岩手縣廳内に置く

第二條 本委員會は前條の目的を達する爲
左の事業を行ふ

- 一、後援各機關の連絡統制
 - 二、出動將兵傷痍軍人並に家族の慰藉後
援に關する方法の講究指示
 - 三、戰病死將兵の慰靈及其の遺族の慰藉
後援に關する方法の講究指示
 - 四、廣く一般軍人並に其の家族遺族の慰
藉後援に關する方法の講究指示
 - 五、國防に關する研究指示
 - 六、其他本會の目的に適應する事業
- 第三條 本委員會は委員長及委員若干名を
以て之を組織す
委員長は岩手縣知事を推し委員は別記各
機關の代表者及委員長の囑託せるものを
以て之に充つ
- 第四條 本委員會に幹事若干名を置き委員
長之を囑託す幹事は庶務に従事す
昭和八年三月一日

委員 (順序不同)

- 岩手縣知事 騎兵第三旅團長 盛岡聯隊
區司令官 岩手縣內務部長 岩手縣警察
部長 岩手縣學務部長 盛岡市長 盛岡
運輸事務所長 騎兵第廿三聯隊長 騎兵
第廿四聯隊長 工兵第八大隊長 盛岡衛
戍病院長 盛岡憲兵分隊長 岩手縣會議
長 岩手縣町村長會長 帝國在郷軍人會

盛岡支部長 帝國在郷軍人分會盛岡市聯合分會長 帝國軍人後援會岩手支會長 日本赤十字社岩手支部長 愛國婦人會岩手縣支部長 盛岡商工會議所會頭 岩手縣消防義會頭 岩手縣青年團體聯合會長 岩手縣聯合女子青年團長 岩手縣教育會長 岩手縣神職會會長 岩手縣佛教會會長 岩手縣聯合婦人會會長 岩手縣醫師會會長

岩手縣藥劑師會會長 岩手日報社長 東京朝日新聞社盛岡通信部長 東京日日新聞社盛岡通信部長 報知新聞社盛岡支局長 讀賣新聞社盛岡通信部長 時事新報社盛岡支局長 河北新報社盛岡支社長 幹事 (順序不同) 岩手縣社會課長 岩手縣社寺兵事課長 岩手縣教育課長 岩手縣地方課長 岩手

縣庶務課長 岩手縣警務課長 騎兵第三旅團副官 盛岡聯隊區副官 盛岡聯隊區司令部各員 岩手縣囃託武官 盛岡驛長 盛岡市教務課長 日本赤十字社岩手支部主事 愛國婦人會岩手縣支部主事 帝國在郷軍人會盛岡市聯合分會副會長 帝國軍人後援會岩手支會主事 盛岡憲兵分隊班長 盛岡警察署長

社寺・宗教

主なる神社緣起

△國幣小社 駒形神社 膽澤郡水澤町に在り祭神は天照皇大神或は豐受大神又一説には大己貴神の御子御井神なりと稱されてゐるが延喜式に載せられてあるもので明治四年五月國幣小社に列せらるる △縣社 八幡宮 盛岡市八幡山に在り品陀和氣命を祀り延喜七年に創る 櫻山神社 盛岡市岩手公園東畔にあり南部落祖南部三郎光行及び中興の祖南部大膳

大夫信直及利直利敬の四公を合祀す三十三代利祖の時建立す 岩手山神社 岩手郡瀧澤村岩手山に在り大名牟遲命、宇迦之御魂命、倭建命を祀るその創建年月詳かでないが延喜二十年坂上將軍東征の時に創る 志和稻荷神社 紫波郡水分村に在り宇迦御魂命を祀り天喜五年源賴義安部頼時を伐ち陣ヶ岡に遷在中建立したもので後賴朝之を再建す 志賀理和氣神社 紫波郡赤石村にあり延

喜式神名帳の載する所は猿田彦命を祀つたといふが創建年月詳かでない 早池峰神社 稗貫郡内川目村岳にあり姫大神を祀り平城天皇の御宇大同二年の建立にかゝる 鎮守府八幡宮 膽澤郡佐倉河村大字八幡宮に在り延喜二十年征夷大將軍坂上田村麿の勸請したもので譽田別尊、雅日靈尊、素蓋雄尊を祀る 室根神社 東磐井郡折壁村にあり伊井那美命を祀り正和二年に創る 吞香稻荷神社 二戸郡福岡村にあり宇迦御魂命、天照大神、譽田別命を祀る

主なる神社祭日

社格	神社名	町村名	例祭日	郷社	社名	所在地	創立年月
國幣小社	駒形神社	膽澤郡水澤町	九月十八日	同	大宮神社	本宮村	八月十六十七日
同	八幡宮	盛岡市	九月十五日	同	櫻山神社	同	五月二十六日
同	八幡宮	盛岡市	九月五日	同	岩手山神社	岩手郡瀧澤村	七月四日
同	八幡宮	盛岡市	九月八日	同	岩手郡瀧澤村	同	八月十六十七日
同	八幡宮	盛岡市	九月十日	同	同	同	同
同	八幡宮	盛岡市	九月十一日	同	同	同	同
同	八幡宮	盛岡市	九月十二日	同	同	同	同
同	八幡宮	盛岡市	九月十三日	同	同	同	同
同	八幡宮	盛岡市	九月十四日	同	同	同	同
同	八幡宮	盛岡市	九月十五日	同	同	同	同
同	八幡宮	盛岡市	九月十六日	同	同	同	同
同	八幡宮	盛岡市	九月十七日	同	同	同	同
同	八幡宮	盛岡市	九月十八日	同	同	同	同
同	八幡宮	盛岡市	九月十九日	同	同	同	同
同	八幡宮	盛岡市	九月二十日	同	同	同	同
同	八幡宮	盛岡市	九月二十一日	同	同	同	同
同	八幡宮	盛岡市	九月二十二日	同	同	同	同
同	八幡宮	盛岡市	九月二十三日	同	同	同	同
同	八幡宮	盛岡市	九月二十四日	同	同	同	同
同	八幡宮	盛岡市	九月二十五日	同	同	同	同
同	八幡宮	盛岡市	九月二十六日	同	同	同	同
同	八幡宮	盛岡市	九月二十七日	同	同	同	同
同	八幡宮	盛岡市	九月二十八日	同	同	同	同
同	八幡宮	盛岡市	九月二十九日	同	同	同	同
同	八幡宮	盛岡市	九月三十日	同	同	同	同

主なる寺院佛堂

社格	神社名	町村名	例祭日	郷社	社名	所在地	創立年月
同	三社座神社	雫石町	九月十六日	同	九戸神社	伊保内村	五月八日
同	稻荷神社	沼宮内町	十月二日	同	八坂神社	二戸郡金田一村	九月十七十八日
同	八幡宮	平館村	十月五日	同	月山神社	同	八月二十九日
同	志賀理和氣神社	紫波郡赤石村	九月五日	同	吞香稻荷神社	福岡町	九月五日
同	八幡神社	志和村	九月八日	同	八幡神社	一戸町	八月廿八廿九日
同	八幡神社	志和村	九月十日	同	八幡神社	小島村	九月十五日
同	志和稻荷神社	水分村	九月十七日	同	神明神社	荒澤村	八月廿廿一日
同	早池峰山神社	稗貫郡内川目村	八月十八日	同	櫻松神社	同	四月三日
同	矢澤神社	矢澤村	五月十九日	同	宗名名稱本尊	所在地	創立年月
同	八坂神社	湯本村	九月二十五日	同	臨濟東禪寺	釋迦牟尼如來	盛岡市三ツ割
同	八坂神社	湯本村	九月九日	同	時宗教淨寺	阿彌陀如來	正慶二年
同	諏訪神社	和賀郡黒澤尻町	九月七日	同	眞宗本願教寺	同	寛喜三年
同	丹内山神社	谷内村	陰曆八月一日	同	曹洞宗報恩寺	釋迦牟尼如來	永應廿六年
同	大高神社	膽澤郡水澤町	四月十七日	同	眞宗大谷派本誓寺	阿彌陀如來	同二十年
同	日高神社	佐倉河村	四月二十二日	同	眞宗大谷派本誓寺	阿彌陀如來	同二十年
同	鎮守府八幡宮	江刺郡羽田村	九月十五日	同	天臺正覺寺	觀世音菩薩	大同二年
同	出羽神社	西磐井郡山目村	五月十五日	同	眞言光勝寺	觀世音菩薩	大同二年
同	配志和神社	東磐井郡折壁村	五月十九日	同	眞言光勝寺	觀世音菩薩	大同二年
同	室根神社	東磐井郡折壁村	五月十九日	同	眞言光勝寺	觀世音菩薩	大同二年
同	水上神社	氣仙郡高田町	五月十一日	同	眞言光勝寺	觀世音菩薩	大同二年
同	八幡神社	上閉伊郡松崎村	九月十四十五日	同	眞言光勝寺	觀世音菩薩	大同二年
同	鍋倉神社	遠野町	五月三日	同	眞言光勝寺	觀世音菩薩	大同二年
同	尾崎神社	釜石町	十月二十九日	同	眞言光勝寺	觀世音菩薩	大同二年
同	横山八幡宮	下閉伊郡宮古町	九月十五日	同	眞言光勝寺	觀世音菩薩	大同二年
同	大神宮	岩泉町	八月二十一日	同	眞言光勝寺	觀世音菩薩	大同二年
同	大神宮	九戸郡久慈町	九月七、六、五、四日	同	眞言光勝寺	觀世音菩薩	大同二年

社寺・宗教——主なる神社祭日——主なる寺院佛堂

交通・運輸——鐵道建設工事狀況

る。尙八年度秋には津輕石山田間土工々事にて完了十一年度着工の豫定にして更に女一如し。
 に着する豫定である。
 尙測量は山田釜石間の航空寫眞測量を秋ませられた。工事中の各線工區竣工歩合左の

工區名	區間	竣工歩合	請負者	起工	竣工期限	摘要
山田線	自古田至腹帶	〇九一	鐵道工業株式會社	七年五月廿五日	八年十一月廿四日	
第十四工區	自腹帶至茂市	〇八五	同	七年六月廿五日	八年十二月廿四日	
第十五工區	自茂市至慕目	〇九四	株式會社鹿島組	七年九月四日	九年六月三日	
第十六工區	自慕目至宮古	〇八三	鐵道工業株式會社	七年九月一日	九年五月卅一日	
第十七工區	自宮古至豐間	〇二〇	株式會社鹿島組	八年三月卅日	十年三月廿九日	磯鶴トンネル導坑進行九一メートル
第十八工區	自高田至小友	〇九二	合資會社有田組	七年九月廿八日	八年九月廿七日	
第十五工區	自小友至細浦	〇七一	同	七年十一月十七日	九年一月十六日	
第十六工區	自細浦至大船	〇三六	同	八年一月卅日	九年三月廿九日	翌月使用見込セメント三〇袋工事は溝渠トンネル
第十七工區	渡	〇六四	同	八年一月卅日	九年三月廿九日	事の七割三分に當つて居る

本縣の産業開發並び時局匡救土木事業の八形百四十四萬四千八百八十三圓に達し總工

事業	費用	事業	費用
産業開發事業	一七、二五四	道路	一〇、〇〇〇
道路	九、〇〇〇	河川	一六、〇〇〇
港灣	一五、五五四	港灣	九七、七〇〇
道路	八、〇〇〇	砂防	一〇、六五三
河川	二〇、八〇八	河川	一八、〇〇〇
港灣	一五、七九二	港灣	一七〇、八四四
河川	一五、〇〇〇	河川	一三、一五五
港灣	一六、〇〇〇	港灣	一一、二五四
砂防	一四、〇〇〇	合計	二、一七〇、〇〇〇
道路	九、〇〇〇	合計	三、三三三
河川	一六、〇〇〇	合計	三、〇七九
港灣	九七、七〇〇	合計	一、九六三
砂防	一〇、六五三	合計	一、六八七

昭和七年中主要貨物發着數量番附

盛岡 仙北町驛 盛岡驛 合算

東		西	
發	着	發	着
其他貨物 二、二八五	其他貨物 二、二八三	其他貨物 二、二八三	其他貨物 二、二八三
雜穀 六〇、一前頭	雜穀 六〇、一前頭	雜穀 六〇、一前頭	雜穀 六〇、一前頭
鹽 五七、七前頭	鹽 五七、七前頭	鹽 五七、七前頭	鹽 五七、七前頭
麥 五五、二前頭	麥 五五、二前頭	麥 五五、二前頭	麥 五五、二前頭
鮮魚 五三、七前頭	鮮魚 五三、七前頭	鮮魚 五三、七前頭	鮮魚 五三、七前頭
其他 五二、一前頭	其他 五二、一前頭	其他 五二、一前頭	其他 五二、一前頭
肥料 四九、五前頭	肥料 四九、五前頭	肥料 四九、五前頭	肥料 四九、五前頭
其他 四八、〇前頭	其他 四八、〇前頭	其他 四八、〇前頭	其他 四八、〇前頭
其他 四六、四前頭	其他 四六、四前頭	其他 四六、四前頭	其他 四六、四前頭
其他 四四、八前頭	其他 四四、八前頭	其他 四四、八前頭	其他 四四、八前頭
其他 四三、二前頭	其他 四三、二前頭	其他 四三、二前頭	其他 四三、二前頭
其他 四一、六前頭	其他 四一、六前頭	其他 四一、六前頭	其他 四一、六前頭
其他 四〇、〇前頭	其他 四〇、〇前頭	其他 四〇、〇前頭	其他 四〇、〇前頭
其他 三八、四前頭	其他 三八、四前頭	其他 三八、四前頭	其他 三八、四前頭
其他 三六、八前頭	其他 三六、八前頭	其他 三六、八前頭	其他 三六、八前頭
其他 三五、二前頭	其他 三五、二前頭	其他 三五、二前頭	其他 三五、二前頭
其他 三三、六前頭	其他 三三、六前頭	其他 三三、六前頭	其他 三三、六前頭
其他 三二、〇前頭	其他 三二、〇前頭	其他 三二、〇前頭	其他 三二、〇前頭
其他 三〇、四前頭	其他 三〇、四前頭	其他 三〇、四前頭	其他 三〇、四前頭
其他 二八、八前頭	其他 二八、八前頭	其他 二八、八前頭	其他 二八、八前頭
其他 二七、二前頭	其他 二七、二前頭	其他 二七、二前頭	其他 二七、二前頭
其他 二五、六前頭	其他 二五、六前頭	其他 二五、六前頭	其他 二五、六前頭
其他 二四、〇前頭	其他 二四、〇前頭	其他 二四、〇前頭	其他 二四、〇前頭
其他 二二、四前頭	其他 二二、四前頭	其他 二二、四前頭	其他 二二、四前頭
其他 二〇、八前頭	其他 二〇、八前頭	其他 二〇、八前頭	其他 二〇、八前頭
其他 一九、二前頭	其他 一九、二前頭	其他 一九、二前頭	其他 一九、二前頭
其他 一七、六前頭	其他 一七、六前頭	其他 一七、六前頭	其他 一七、六前頭
其他 一六、〇前頭	其他 一六、〇前頭	其他 一六、〇前頭	其他 一六、〇前頭
其他 一四、四前頭	其他 一四、四前頭	其他 一四、四前頭	其他 一四、四前頭
其他 一二、八前頭	其他 一二、八前頭	其他 一二、八前頭	其他 一二、八前頭
其他 一一、二前頭	其他 一一、二前頭	其他 一一、二前頭	其他 一一、二前頭
其他 九、六前頭	其他 九、六前頭	其他 九、六前頭	其他 九、六前頭
其他 八、〇前頭	其他 八、〇前頭	其他 八、〇前頭	其他 八、〇前頭
其他 六、四前頭	其他 六、四前頭	其他 六、四前頭	其他 六、四前頭
其他 四、八前頭	其他 四、八前頭	其他 四、八前頭	其他 四、八前頭
其他 三、二前頭	其他 三、二前頭	其他 三、二前頭	其他 三、二前頭
其他 一、六前頭	其他 一、六前頭	其他 一、六前頭	其他 一、六前頭
其他 〇、〇前頭	其他 〇、〇前頭	其他 〇、〇前頭	其他 〇、〇前頭

行司 盛岡運輸事務所 年寄 仙臺鐵道局

盛岡商工會議所

交通・運輸——昭和七年中主要貨物發着數量番附

移出米検査 (昭和七年中)

縣穀物検査所調査昭和七年一月以降十二月末迄に於ける本縣移出並に生産米の總検査數量は移出米百十六萬六千七百俵生産米百十萬四千俵にして從來の記録を破つて本縣最高レコードを實現した即ち移出米は六年度より十三萬六千俵増五年度より二十万七千俵の増加となり從來記録昭和四年の百十三萬六千俵を突破すること三萬一千俵で本縣米の進出は全く驚異的躍進振りを示してゐる生産米は六年度より十一萬八千俵増五年度より十五萬俵増となり劃期的増産であるこれを各地検査所別に見ると移出米では水澤が最高で二十一萬一千俵黒澤尻の十三萬三千俵がこれに次ぎ前澤岩谷堂が十萬五千俵石鳥谷九萬二千日詰六萬六千一關六萬一千の順序となり遠野が四百九十一俵で最低となつてゐる生産米では花巻十八萬俵が最高で盛岡十七萬九千黒澤尻十一萬石鳥谷十萬四千日詰九萬五千水澤七萬二千花泉六萬六千岩谷堂五萬の順位で沼宮内僅か百三十八俵で最低を示してゐるが茲に注目されるのは本縣最優良米産地胆澤郡水澤の移出米二十一萬一千俵であるこれが生産検査數量は三分の一の七萬二千俵を示してゐる結果から見ると如何に商人が粗買盛んに行つてゐるかを立派に物語るものであり農家が

換金急ぎで粗賣を余儀なくされてゐる反面に商人により不當利益を搾取されてゐると見られてゐる而して膽澤郡金ヶ崎水澤前澤合計では三十四萬俵移出米を出荷し本縣總移出米の四割を占むるに至りこれに岩谷堂を加ふるときは胆澤兩郡で約五割を占むる現状から見て本縣米の聲價を中央市場で左右する重大なる役割をなしてゐるに鑑み本縣米の改良上の大いに注目される所である斯く移出米の進展を見せたのは増産の結果に依るが夏米に於ては味付米として非常な人氣を得インフレ景氣の米價急騰等で久し振りで農家は活氣を呈して移出を續け七年産新米出廻りが意外な出荷をなしたものと縣購販聯の各農業者庫統制が非常に奏効し約四割の取扱高を占めた好成绩が非常に力を加へ販賣統制の効果顯著であつたと云はれてゐる各検査所別左の如し

Table with 2 columns: 生産検査所移出検査 (Production Inspection Station Output Inspection) and 比較増減 (Comparison Increase/Decrease). Rows include 沼宮内, 好摩, 盛岡, 日詰, 矢幅, 石鳥谷, 花巻, 土澤.

Table with 2 columns: 昭和八年 (Showa 8th Year) and 平年比較増減 (Average Year Comparison Increase/Decrease). Rows include 遠野, 黒澤尻, 金ヶ崎, 水澤, 岩谷堂, 前澤, 花泉.

大暑の農作物作柄

縣農事試験場調査に係る八年七月廿三日大暑の農作物作況は左の如くである

Table with 2 columns: 昭和八年 (Showa 8th Year) and 平年比較増減 (Average Year Comparison Increase/Decrease). Rows include 早稲三, 中稲三, 晚稲三, 種平均.

其後五月上旬以降氣温高く日照多く且つ雨量少かつた爲に移植當時は發育例年に比し稍不良であつた

大豆

一、本田に移植後六月上、中旬共に氣温例年に比し高く日照亦多く殊に降雨量少く活着良好にして其後發育順調に進捗した爾後六月下旬に於て降雨多し日照從て少なかつたが其後七月に入るや氣温高く日照亦多し概して氣候状態順調となり中旬に至つて降雨量多かりしも氣温例年よりも幾分高かつた爲發育良好に進捗した即ち大暑當日の作況は草丈は早中晩共に何れも多く分蘖は少ないが作況稍良好と認む

Table with 2 columns: 昭和八年 (Showa 8th Year) and 比較増減 (Comparison Increase/Decrease). Rows include 早生二種平均, 中生二種平均, 晩生二種平均.

産 業——大暑農作物作柄

一、比較増減欄中△印は減を示す本年度麥作播種後氣候概して適順だつたので發芽整一にして秋期順調なる生育を遂げたり而して冬期間は一月中旬迄氣温稍高く積雪少なかつたが下旬以降著しく氣温降下し爲に例年に比し甚だしく融雪期遅れ生育の遅延を來した然るに五月上旬以降氣温順に上昇し雨量稍少く氣象概して適順なりし爲生育順に進捗し良好であつたので大暑は平年に比し一割二分四厘強の増收を示した而して小麥は成熟期に於て降雨に遭遇せる爲稍登熟を害し平年に比し五分一厘弱の減收を示した

Table with 2 columns: 昭和八年 (Showa 8th Year) and 比較増減 (Comparison Increase/Decrease). Rows include 早稻三種平均, 中稻三種平均, 晚稻三種平均.

大豆

一、平年とは最近七ヶ年中最豐(昭和六年)最凶(大正十五年)の二ヶ年を除きたる五ヶ年平均とす

Table with 2 columns: 昭和八年 (Showa 8th Year) and 比較増減 (Comparison Increase/Decrease). Rows include 早生二種平均, 中生二種平均, 晩生二種平均.

大豆

一、平年とは最近七ヶ年中最豐(昭和六年)最凶(昭和二年)の二ヶ年を除きたる五ヶ年平均とす

Table with 2 columns: 昭和八年 (Showa 8th Year) and 比較増減 (Comparison Increase/Decrease). Rows include 早生二種平均, 中生二種平均, 晩生二種平均.

産業—撤駒成績

昭和七年撤駒成績 (昭和七年)

産地	總頭數	價格		種類	頭數	價格及種類別		
		總格	平均			總格	平均	最高
盛岡	八〇七	九四、四〇〇	二七、〇三〇	雜種	七〇一	六、一四四	三、四〇〇	二、八〇〇
沼宮内	五五五	八三、八六二	一四、八二八	雜種	五二一	六、八八一	三、五〇〇	二、四〇〇
和賀	三三六	九、二六五	四、九三三	雜種	三二七	五、四四	三、七二四	二、〇〇〇
江刺	二七〇	一〇、五七八	五、二八九	雜種	三〇四	一、一九五	一、七〇〇	八〇〇
山ノ目	二五〇	一四、八〇二	六、二二三	雜種	一六五	五、七六	一、五〇〇	二、〇〇〇
東磐井	二二七	八、〇九二	五、〇四一	雜種	一四一	八、〇六六	五、二〇〇	二、〇〇〇
氣仙	二二二	一三、三三三	六、二七九	雜種	二〇〇	三、三三三	八、五九	二、〇〇〇
上閉伊	二二二	七、三三三	一、五、六九七	雜種	一六六	五、二〇〇	九、七九	二、〇〇〇
下閉伊	二二二	三、三三三	八、五、三九	雜種	二二二	一、五、九一	二、四、九	一、四〇〇
九月	七七四	五〇、五九三	六、五、三五	雜種	七九	七、〇〇	二、七、三	一、八〇〇

二四二

▲麥作物 昭和八年 比較増減

大麥六種平均 反當一升 重量 反當一升 重量
 小麥六種平均 二、七〇〇 三、五〇〇 〇、二八八 △八
 備考 一、平年とは最近七ヶ年中大麥に於ては最豐(昭和五年)最凶(昭和三年)小麥に於ては最豐(大正十年)最凶(昭和六年)の各二ヶ年間を除きたる五ヶ年平均とす
 二、△印は減を示す
 麥作期間の天候は播種當時(大麥は十月十日)小麥は十月五日)概ね適順にて發芽整一伸長分蘗共に正調的生育を示し積雪期に入つたが積雪量比較的寡少加ふるに氣温例年に比し著しく低下を見、地表の凍結を來たし且つ融雪期例年より遅延し爲に大小麥共に少なる雪腐等の被害を見たが其後天候順調にして生育順に促進せられた、立夏以降に於ては氣温例年に比し高温なりしも降水量極めて寡少なりしたため稍々健實なる生育を示したが六月中旬乃至下旬に亘る期間には折疾風強雨の襲來ありしに因りしう病の發生及び倒伏せるもの多く殊に同期間には比較的曇雨天勝ちにして鬱蒸多温だつたもので稔實、乾燥共に稍完からざる状態に對し刈取期に入つた平年に比し大麥は一割三分三厘弱、小麥は一割一分六厘強の増收を示した

▲水稻 輕米農場

早稻三種平均 草丈 莖數 草丈 莖數
 中稻三種平均 二、二、一、〇、九、二、四
 晚稻三種平均 二、三、一、一、〇、一、一
 備考 當場は昭和五年度の創設に係り平年の成績なきを以て前二ヶ年平均のものと比較せり
 △印は減を示す
 苗代播種(五月二日)後の氣候は大なる變調なかつたが概して稍低溫寡照に經過せるを以て苗は殆んど分蘗することなく草丈も幾分劣つた本田挿秧(六月十日)後は六月下旬後半に於て一時曇天勝ちにて且つ一般に氣温高く日照時數多かつたので苗の活着良好にして生育も亦頗る順調に進捗し目下の作物良好

産地	總頭數	價格		種類	頭數	價格及種類別		
		總格	平均			總格	平均	最高
二戸	四一九	三三、二三四	七、一、六八	雜種	三九	七、三五七	二、三、六九	一、五〇〇
合計	五、〇四六	四四、一一一	八、七、四七	雜種	三三三	九、八、六九	三、三、〇八	二、八〇〇
參照	四、八六七	四三、八、三九	九、〇、七五	雜種	三三三	三、四、二二	七、三、三六	二、四〇〇
種畜場	二四	一、五〇〇	一〇、七、一四〇	雜種	一四	一、五〇〇	一〇、七、一四〇	一、七〇〇
小岩井	二二	一、七、四〇一	一、五、八一〇	雜種	二	一、七、四〇一	一、五、八一〇	一、〇〇〇
農場	二二	一、七、四〇一	一、五、八一〇	雜種	二	一、七、四〇一	一、五、八一〇	一、〇〇〇
アラブ	二二	一、七、四〇一	一、五、八一〇	雜種	二	一、七、四〇一	一、五、八一〇	一、〇〇〇
牧場	二二	一、七、四〇一	一、五、八一〇	雜種	二	一、七、四〇一	一、五、八一〇	一、〇〇〇
盛岡	八〇八	六〇、八一五	七、五、二七〇	雜種	七三	三、三、三五〇	二、三、三、七〇	二、〇〇〇
沼宮内	六三三	四三、一九七	六、六、七六七	雜種	六六	一、三、三、九六	五、〇、八五	一、〇〇〇
和賀	三三七	一四、三九〇	四、九、一六〇	雜種	三三	一、一、三、三五	四、六、〇八	一、〇〇〇
江刺	二六四	一七、〇四五	七、三、二八四	雜種	三三	一、四、〇三三	五、九、五〇	一、〇〇〇
山ノ目	二三四	六、四二五	四、九、九四八	雜種	三三	一、四、〇三三	五、九、五〇	一、〇〇〇
東磐井	二七六	一、一、八九七	四、三、一〇五	雜種	三三	一、一、八九七	四、三、一〇五	一、〇〇〇
氣仙	二四〇	一、三、五七五	五、三、三九〇	雜種	三三	一、三、五七五	五、三、三九〇	一、〇〇〇

▲大豆 昭和八年 比較増減
 早生二種平均 草丈 分枝 草丈 分枝
 中生二種平均 一、一、五、五、三、〇、八、四、三、六
 晩生二種平均 一、一、八、一、四、六、〇、九、四、三、〇
 備考 水稻に同じ
 播種後(五月二十日)の氣候は六月中下旬の候に於て早天續きだつたが適順に經過し日照時數多く降水量も亦相當なりしを以て發育旺盛となり草丈高く分枝亦多く作物良好

産業—撒動成績

上閉伊 三三
下閉伊 三〇
九月 八五
二月 四八
合計 三、二八
昭和六年 五、二七
參照 五、二七
種畜場 〇
小岩井 三
農場 三
アラブ 三
牧場 三

Table with columns for head count, price, and purchase status. Includes categories like 農, 林, 軍, 省, 陸, 海, 省, 陸, 海, 省.

▲麥作 品種名 昭和八年 比較増減
大麥六種平均 三石六九三〇石八四五
小麥六種平均 二石四三三〇石九三
播種後發芽生育共順調に進み積雪期に入つたが冬期は例年に比し氣温低く積雪量少なく且つ長期に亘れるも雪害等はなかつた融雪當時より四月下旬に至るまでは氣温低く屢々降雪あり天候概して適順を欠き莖葉の伸長充分でなかつたが五月上旬以降天候の恢復と共に堅實にして順調なる生育を遂げる六月月上旬より中下旬に亘る登熟期に於ては早天續きのため莖葉の枯凋過早となり稔實充分でなかつた調査の結果は一升重量は大麥共輕いが收量に於て大麥三割弱小麥四割弱の増收を示した

盛 昭 和 種 山 江 膽 和 稗 沼 盛
宮 内 貫 賀 澤 刺 目 井 仙 伊 伊 戸 戸 計 昭 和 六 年

Table with columns for head count, price, and purchase status. Includes categories like 農, 林, 軍, 省, 陸, 海, 省.

東 氣 上 下 九 二 合 參 照
磐 閉 閉 閉 昭 和 六 年

Table with columns for head count, price, and purchase status. Includes categories like 農, 林, 軍, 省, 陸, 海, 省.

盛 沼 稗 和 膽 江 山 東 氣 上 下 九 二 合 參 照
宮 内 貫 賀 澤 刺 目 井 仙 伊 伊 戸 戸 計 昭 和 六 年

Table with columns for head count, price, and purchase status. Includes categories like 農, 林, 軍, 省, 陸, 海, 省.

産業—養蠶

七年の夏秋蠶

本縣昭和七年に於ける夏秋蠶は養蠶戸數二四、九三九戸、掃立數量四六四、五五一瓦にして此の收滿高二三六、四六一貫、價額八二〇、〇三四圓である

減少を示せるも價額に於ては二一七、四七六圓(三割六分一厘)の増加を見る
更に之を種類別に比較するときは白繭種に於て掃立數量二三、四〇八瓦(五分〇厘)收滿高一、二九二貫(六厘)の減少を示し價額に於ては二五八、五一〇圓(四割八分二厘)の増加である
黄繭種に於ては掃立數量二九、四九三瓦(六割五分七厘)收滿高一九、七三一貫(七割二分八厘)價額四一、〇三四圓(六割二分二厘)の減少を見た

前年に比して以上の如く減少を示せるは春蠶價安に依り當業者意氣消沈せると春蠶の豫想外掃立増加と蠶作良好の結果夏秋蠶用桑葉の不足を來せるに因る、尙氣候は夏蠶期より晩秋蠶期に至る天候概ね適順にして蠶兒良好且桑葉の發育も亦良好であつた之を郡市別に示せば次の如し

Table with columns for location (盛岡, 岩手, 紫波, etc.), type of silk (白繭, 黄繭), and metrics (戸數, 掃立, 收滿, 價額). It is divided into '縣内製' and '縣外製' sections.

Table showing silk production statistics for various locations (盛岡, 岩手, 紫波, etc.) with columns for quantity, price, and total value.

八年の春蠶掃立
四月三十日現在に依る本年の春蠶掃立は白繭種五十七萬二千四百六十五瓦、黄繭種五十八萬四千二百五十五瓦、計百十五萬六千七百一十五瓦なり之を前年掃立數量に比較し觀るに白繭種に於て四萬九千三百五十一瓦(七分九厘)黄繭種に於て七千七百七十五瓦(一分二厘)計に於て五萬六千四百二十六瓦(四分二厘)を減じた尙掃立時期の最初は五月十九日最盛は五月二十七日最終は六月十八日である掃立數量の減じたのは時局匡救の爲桑園整理改植したるものと沿岸地方の震災被害に依り減じた更に郡市別に示せば次の通りである

Table showing silk production statistics for various locations (岩手, 紫波, 和賀, etc.) with columns for quantity, price, and total value.

Table showing livestock statistics for various locations (馬, 牛, 豚, 羊) with columns for headcount and value.

盛岡 二、二〇〇 二、一〇〇 二、一六〇 二、一三〇
計 (△印減)

畜産飼育戸數 (七年十二月末現在)
計 九〇、二九二頭

計 牝五九、二四〇頭、牡三一、〇五二頭
計 九〇、二九二頭

畜産—畜産—地方馬一齊調査

年内移動は生産和種三頭、雜種九、三八五頭、洋種七七三頭、計一〇、一六〇頭
 養死和種一七頭、雜種一、九四四頭、洋種一六六頭、計二、二二七頭である。

牛……飼育頭数の多いのは下閉伊郡二、五六六頭、九戸郡一、六三一頭、二戸郡九四六頭であるが頭数は

頭数	價格	一頭當價格	頭數計
滿一年以上	一、四九	六五、五九	一〇、二七三
滿一年未滿	一、三三	三三、八五	五、三九〇
以上	二、六四二	九九、四三	一五、六六三

五、二八七個(一割九分〇厘)の増加となつたが産卵價格は四六、三三二圓(八分四厘)の減少となつた本調査より觀察するに總飼育戸數に於て減少したるに不構成鶏にありては却て二二、八八三羽を増し雜種は一二、五二三羽の減となり結局一〇、三五〇羽の増加なり産卵數は實に二四、二三五、二八七個の増加を見たるは一般經濟界の不振に鑑み鶏養事業の比較的有利なるを認め且つ農山村の唯一の副業たるの現況を如實に物語るものにして逐年飼育戸數は減少するの傾向なるも之に反し飼養羽數は年毎に増加するは即ち養鶏が副業として合理的經營者の増加に依る關係ならむ又品種の改良と飼育法の向上を計る關係上産卵數は頗る増加するも價格は一般物價の下落に従ひ自然低下し豫期の收入を得ざるの状態にあるは寔に遺憾である。

地方馬一齊調査結果表
 岩手縣知事官房統計係
 七年十月一日を期し實施された地方馬一齊調査の總頭數は九六、七一六頭にして昭和六年十二月末日現在の農林統計數八七、二〇七頭に對比し九、五〇九頭の増加を示したのほ生産に因る自然増加約七、五〇〇頭の外縣外移出入の關係及調査洩發見に依るものと認められる。之が種別及郡市別比較を示せば左の如し

郡市名	昭和六年十二月末日現在	昭和七年十月一日現在	比較増減(△印は減)
盛岡	七〇	七三	△三
岩手	三、六七	三、九一	△二四
紫波	六、四八	七、〇八	△六〇
種別	六、一五	六、七〇	△五五
和賀	六、六二	七、〇〇	△三八
江刺	七、四八	七、九四	△四六
西磐井	四、八七	五、五三	△六六
計	四、六七九	五、二二	△五四三

東磐井 七、二七
 氣仙 三、八三
 上閉伊 七、二七
 下閉伊 三、五三
 九戸 八、八三
 二戸 六、八一
 計 六、七二
 農林統計(十二月末日現在)
 十年比較 九、五九
 同 大正十四年
 同 十三年

用途	總數	種別	價格	頭數計
總數	一、七六六	三、三三	三、三三	三、三三
總數	二、三三	三、三三	三、三三	三、三三
總數	三、三三	三、三三	三、三三	三、三三
總數	四、三三	三、三三	三、三三	三、三三
總數	五、三三	三、三三	三、三三	三、三三
總數	六、三三	三、三三	三、三三	三、三三
總數	七、三三	三、三三	三、三三	三、三三
總數	八、三三	三、三三	三、三三	三、三三
總數	九、三三	三、三三	三、三三	三、三三
總數	一〇、三三	三、三三	三、三三	三、三三

用途	總數	種別	價格	頭數計
總數	一、七六六	三、三三	三、三三	三、三三
總數	二、三三	三、三三	三、三三	三、三三
總數	三、三三	三、三三	三、三三	三、三三
總數	四、三三	三、三三	三、三三	三、三三
總數	五、三三	三、三三	三、三三	三、三三
總數	六、三三	三、三三	三、三三	三、三三
總數	七、三三	三、三三	三、三三	三、三三
總數	八、三三	三、三三	三、三三	三、三三
總數	九、三三	三、三三	三、三三	三、三三
總數	一〇、三三	三、三三	三、三三	三、三三

用途	總數	種別	價格	頭數計
總數	一、七六六	三、三三	三、三三	三、三三
總數	二、三三	三、三三	三、三三	三、三三
總數	三、三三	三、三三	三、三三	三、三三
總數	四、三三	三、三三	三、三三	三、三三
總數	五、三三	三、三三	三、三三	三、三三
總數	六、三三	三、三三	三、三三	三、三三
總數	七、三三	三、三三	三、三三	三、三三
總數	八、三三	三、三三	三、三三	三、三三
總數	九、三三	三、三三	三、三三	三、三三
總數	一〇、三三	三、三三	三、三三	三、三三

仙臺礦山監督局調査に依る六年末現在及七年末現在の縣下試掘採
 業—縣下鑛山の全貌

二四八

養蜂 本縣七年末現在に於ける蜂蜜の飼養戸數は一、六七五戸、箱數六、五八八箱
 蜂(數量)一九、八一〇 蜜(數量)一六六
 蜜(價格)二〇、七五一 蠟(價格)八〇七

岩手縣知事官房統計係
 七年十月一日を期し實施された地方馬一齊調査の總頭數は九六、七一六頭にして昭和六年十二月末日現在の農林統計數八七、二〇七頭に對比し九、五〇九頭の増加を示したのほ生産に因る自然増加約七、五〇〇頭の外縣外移出入の關係及調査洩發見に依るものと認められる。之が種別及郡市別比較を示せば左の如し

郡市名	昭和六年十二月末日現在	昭和七年十月一日現在	比較増減(△印は減)
盛岡	七〇	七三	△三
岩手	三、六七	三、九一	△二四
紫波	六、四八	七、〇八	△六〇
種別	六、一五	六、七〇	△五五
和賀	六、六二	七、〇〇	△三八
江刺	七、四八	七、九四	△四六
西磐井	四、八七	五、五三	△六六
計	四、六七九	五、二二	△五四三

掘等の狀況左の如くできながらゴードラツシユ時代の感があつた

用途	總數	種別	價格	頭數計
總數	一、七六六	三、三三	三、三三	三、三三
總數	二、三三	三、三三	三、三三	三、三三
總數	三、三三	三、三三	三、三三	三、三三
總數	四、三三	三、三三	三、三三	三、三三
總數	五、三三	三、三三	三、三三	三、三三
總數	六、三三	三、三三	三、三三	三、三三
總數	七、三三	三、三三	三、三三	三、三三
總數	八、三三	三、三三	三、三三	三、三三
總數	九、三三	三、三三	三、三三	三、三三
總數	一〇、三三	三、三三	三、三三	三、三三

業——縣下鑛山の全貌

産	六年末			新設			消滅			七年末		
	数量	金額	数量	数量	金額	数量	数量	金額	数量	金額	数量	
金銀銅及金銅	三	五	—	—	—	—	—	—	三	五	—	
金銀銅鉛亜鉛	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
銀、銅、鉛、亜鉛	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
銅、鉛、亜鉛	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
安質母民	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
鐵	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
石炭	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
亞炭	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
硫黄	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
雜砂	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
砂	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
計	一	五	—	—	—	—	—	—	一	五	—	

業	抗外		抗内		計	
	数量	金額	数量	金額	数量	金額
鑛山	—	—	—	—	—	—
男	—	—	—	—	—	—
女	—	—	—	—	—	—
計	—	—	—	—	—	—

金屬山鑛夫異動調(昭和七年十二月現在)

業	解雇		雇入		計
	数量	金額	数量	金額	
鑛山	—	—	—	—	—
男	—	—	—	—	—
女	—	—	—	—	—
計	—	—	—	—	—

非金屬山鑛夫異動調(前同)

業	解雇		雇入		計
	数量	金額	数量	金額	
鑛山	—	—	—	—	—
男	—	—	—	—	—
女	—	—	—	—	—
計	—	—	—	—	—

◎昭和七年一月

◎前同

本月末現在

縣下の鑛業は昔日の如くに盛んではないが到るところ鑛産に富んである。目下經營してゐる鑛山の主なるものは金石鑛山、仙人鑛山、松尾硫黄山等で特に鐵は全國第一、硫黄は第二位の産地である、昭和七年度松尾硫黄産額は左の如くである

製鍊硫黄 貳萬噸
硫化鑛鑛 七萬噸

昭和七年に於ける本縣水産製造物の總價額は前年に比し二百七十萬八千八百四十八圓

七年の水産製造高

(八割八分七厘)の増にして五百七十六萬二千九百三十六圓なり之を種類別に示せば
食料 二百四十一萬四千二百三十三圓
肥料 九百五十一萬一千七百七十四圓
二百三十一萬一千三百五十六圓

漁油 二百七十萬八千二百二十二貫
六十三萬五千七百四十九圓
にして之を郡市別に觀れば最も多きは下閉伊郡の二百八十五萬二千九百三十一圓にして總價額の四割九分五厘を占め上閉伊、氣

仙、九戸、盛岡の順序である。更に之を種類別に觀れば食料にあつては下閉伊郡の百七十七萬三千九百九十三圓首位を占め上閉伊、氣仙、九戸、盛岡の順序、肥料にあつては下閉伊郡の百三十二萬六千六百八十五

水産製造高市別表

産	カッオ節		マゲロ節		サバ節		計
	数量	金額	数量	金額	数量	金額	
氣仙	六四、五五〇	一七、五〇五	六七八	八七五	一、八〇〇	二、五五五	一四、七四三
上閉	一〇、七三二	三〇、九三八	一、四六〇	五、三三四	八、三八〇	三、三二八	八、七三三
下閉	一九、四四四	七三、七三三	三〇〇	七五〇	一、五〇〇	二、四〇〇	七、五三三
計	九四、七二六	一二、一〇六	二、二四八	七、一五九	八、四六〇	二、二五三	三〇、八〇九

産	スルメ		ゴマメ		コンブ		ワカメ		計
	数量	金額	数量	金額	数量	金額	数量	金額	
氣仙	三三九	四〇〇	一〇、三〇〇	八、五八〇	二、一五〇	三、五八七	七〇九	四、八六一	
上閉	三三六	四九四	四〇〇	二四〇	六七〇	二、五九〇	六、六二九	四、九一〇	
下閉	四九六	九三三	八二五	四九三	三、六九〇	三、九四四	一、二三八	五、八七〇	
計	一、一七一	一、八七〇	二、一〇〇	一、〇三六	九、七〇〇	一〇、四四四	一、六五〇	二、二〇九	

林野産物

縣知事官房統計課調査に依る昭和七年に於ける本縣林野産物は總價額四百九萬六千六百六十圓にして前年に比し十七萬四千三百十五圓(四分)の減である。

之を各種類別に主要なるものを掲ぐれば

木炭	三、七九二	三、二二貫	三、二四三	三、三三圓
柴	六〇、七七一	七、七六貫	六、九六圓	六、九六圓
草	七、三六石	七、九六圓	七、九六圓	七、九六圓
くさ	一、九四七石	二、六〇圓	二、六〇圓	二、六〇圓
杉皮	一、六八、七五坪	二〇、五九圓	二〇、五九圓	二〇、五九圓
まつたけ	三、四〇斤	二、二四〇圓	二、二四〇圓	二、二四〇圓
しいたけ	(乾燥した)八、五三斤	二、二六圓	二、二六圓	二、二六圓
たけのこ	三、八五貫	六、三三圓	六、三三圓	六、三三圓
その他	—	—	—	二、六二圓

の如く木炭のみにて三百二十余萬圓を産し總價額の七割九分二厘を占め而も例年全國に於て北海道に次ぐ産額を呈し全國第二位の産地なり此の外くり及くるみ全國第一位の産地である。

尙之を地方別に觀れば總額に於て下閉伊郡

産業——七年の水産製造高——林野産物

九下上氣		九下上氣		九下上氣	
計	戸閉閉仙	計	戸閉閉仙	計	戸閉閉仙
イワシ	數量	一、五〇〇	四、七五〇	數量	一、〇〇〇
	價額	一、九五三	四、七五〇	價額	一、〇〇〇
サバ	數量	一、四〇八	一、四〇八	數量	一、〇〇〇
	價額	一、九三三	一、四〇八	價額	一、〇〇〇
タラ	數量	一、〇〇〇	一、〇〇〇	數量	一、〇〇〇
	價額	一、〇〇〇	一、〇〇〇	價額	一、〇〇〇
乾	數量	一、〇〇〇	一、〇〇〇	數量	一、〇〇〇
	價額	一、〇〇〇	一、〇〇〇	價額	一、〇〇〇
計		一、〇〇〇	一、〇〇〇	計	

九下上氣		九下上氣		九下上氣	
計	戸閉閉仙	計	戸閉閉仙	計	戸閉閉仙
イワシ	數量	一、〇〇〇	一、〇〇〇	數量	一、〇〇〇
	價額	一、〇〇〇	一、〇〇〇	價額	一、〇〇〇
サバ	數量	一、〇〇〇	一、〇〇〇	數量	一、〇〇〇
	價額	一、〇〇〇	一、〇〇〇	價額	一、〇〇〇
タラ	數量	一、〇〇〇	一、〇〇〇	數量	一、〇〇〇
	價額	一、〇〇〇	一、〇〇〇	價額	一、〇〇〇
乾	數量	一、〇〇〇	一、〇〇〇	數量	一、〇〇〇
	價額	一、〇〇〇	一、〇〇〇	價額	一、〇〇〇
計		一、〇〇〇	一、〇〇〇	計	

九下上氣		九下上氣		九下上氣	
計	戸閉閉仙	計	戸閉閉仙	計	戸閉閉仙
イワシ	數量	一、〇〇〇	一、〇〇〇	數量	一、〇〇〇
	價額	一、〇〇〇	一、〇〇〇	價額	一、〇〇〇
サバ	數量	一、〇〇〇	一、〇〇〇	數量	一、〇〇〇
	價額	一、〇〇〇	一、〇〇〇	價額	一、〇〇〇
タラ	數量	一、〇〇〇	一、〇〇〇	數量	一、〇〇〇
	價額	一、〇〇〇	一、〇〇〇	價額	一、〇〇〇
乾	數量	一、〇〇〇	一、〇〇〇	數量	一、〇〇〇
	價額	一、〇〇〇	一、〇〇〇	價額	一、〇〇〇
計		一、〇〇〇	一、〇〇〇	計	

九下上氣		九下上氣		九下上氣	
計	戸閉閉仙	計	戸閉閉仙	計	戸閉閉仙
イワシ	數量	一、〇〇〇	一、〇〇〇	數量	一、〇〇〇
	價額	一、〇〇〇	一、〇〇〇	價額	一、〇〇〇
サバ	數量	一、〇〇〇	一、〇〇〇	數量	一、〇〇〇
	價額	一、〇〇〇	一、〇〇〇	價額	一、〇〇〇
タラ	數量	一、〇〇〇	一、〇〇〇	數量	一、〇〇〇
	價額	一、〇〇〇	一、〇〇〇	價額	一、〇〇〇
乾	數量	一、〇〇〇	一、〇〇〇	數量	一、〇〇〇
	價額	一、〇〇〇	一、〇〇〇	價額	一、〇〇〇
計		一、〇〇〇	一、〇〇〇	計	

九下上氣		九下上氣		九下上氣	
計	戸閉閉仙	計	戸閉閉仙	計	戸閉閉仙
イワシ	數量	一、〇〇〇	一、〇〇〇	數量	一、〇〇〇
	價額	一、〇〇〇	一、〇〇〇	價額	一、〇〇〇
サバ	數量	一、〇〇〇	一、〇〇〇	數量	一、〇〇〇
	價額	一、〇〇〇	一、〇〇〇	價額	一、〇〇〇
タラ	數量	一、〇〇〇	一、〇〇〇	數量	一、〇〇〇
	價額	一、〇〇〇	一、〇〇〇	價額	一、〇〇〇
乾	數量	一、〇〇〇	一、〇〇〇	數量	一、〇〇〇
	價額	一、〇〇〇	一、〇〇〇	價額	一、〇〇〇
計		一、〇〇〇	一、〇〇〇	計	

九下上氣		九下上氣		九下上氣	
計	戸閉閉仙	計	戸閉閉仙	計	戸閉閉仙
イワシ	數量	一、〇〇〇	一、〇〇〇	數量	一、〇〇〇
	價額	一、〇〇〇	一、〇〇〇	價額	一、〇〇〇
サバ	數量	一、〇〇〇	一、〇〇〇	數量	一、〇〇〇
	價額	一、〇〇〇	一、〇〇〇	價額	一、〇〇〇
タラ	數量	一、〇〇〇	一、〇〇〇	數量	一、〇〇〇
	價額	一、〇〇〇	一、〇〇〇	價額	一、〇〇〇
乾	數量	一、〇〇〇	一、〇〇〇	數量	一、〇〇〇
	價額	一、〇〇〇	一、〇〇〇	價額	一、〇〇〇
計		一、〇〇〇	一、〇〇〇	計	

産業——七年の水産製造高——林野産物

の八十萬六千六百九十二圓首位を占め九戸郡の六十九萬八千一百二圓之に次ぎ二戸郡岩手郡、東磐井郡、上閉伊郡の順位にして盛岡市の一萬二千三百十四圓最低位。公有林伐採統計は昭和七年に於ける本縣公私伐採面積 九、八五四町五前年に比し六四七町一(六分二厘)減 二、五二九、九一六圓前年に比し二二二、五八二圓(九分七厘)増

而して之を所有別に觀れば
 公有 九、五〇九
 社寺有 二、〇七一
 私 有 八、九七町五
 伐採數量及總價額を用材、薪炭材、竹材別に觀れば
 用材 八、〇六八石 一、三〇〇、七三圓
 薪炭材 四、五九三石 一、二二一、五五圓
 竹材 九、九三石 七、六九圓

更に之を用材の樹種別に主なるものを示せば次の如し
 杉 二、七、一八石 四八五、七六圓
 松 三、二、四九石 四三〇、三〇圓
 栗 一、〇、〇七石 一六八、六二圓
 桐 二、〇、三三石 二二五、六八圓
 檜 二、二、六石 二七、五九圓

樺 二、五、四石 七、八八圓
 杉 五、五三石 七、七五圓
 其の他 三、五三石 四、七二圓

之を又郡市別に觀れば
 用材に於ては下閉伊郡の一六七、七八〇石三六八、六九七圓を最高とし九戸郡の一四九、九六九石一六五、六四九圓之に次ぎ東磐井郡、和賀郡、上閉伊郡の順位にして盛岡市の四、八〇〇石六、九五〇圓最低なり。

薪炭材に於ては九戸郡の八八、四一三圓二六一、八九三圓を最高とし下閉伊郡の一〇九、二四七圓二五三、九五一圓之に次ぎ東磐井郡、岩手郡、氣仙郡の順位にして盛岡市の二、二五〇圓一、七一三圓最低なり。

竹材に於ては東磐井郡の二、八〇八圓二、六二七圓最高とし氣仙郡の二、八一〇圓一、五二五圓之に次ぎ下閉伊郡、上閉伊郡、西磐井郡の順位にして盛岡市、岩手郡、紫波郡生産なく九戸郡の七東七圓最低なり。

尙右の外本縣に於ける御料林國有林及官行造林地の伐採數量價格左の通り。
 御料林 用材 一、三三石 一三、二六圓
 薪炭材 二、九〇石 三、五四圓

久慈	一	二	三	九	一	四	三	九	一	二	三	六
輕米	一	一	一	三	一	四	九	七	一	三	二	一
二戶	一	一	一	三	一	四	九	七	一	三	二	一
計	三	三	三	三〇	三	八二	五〇一、七九二	八元	九〇	四、二七	四、四八〇	九、八五五

變死の原因及動機調 (昭和七年)

生活不如意の爲め	一	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二
世を悲觀して	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
病氣を苦にして	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
家庭不和合より	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
老衰	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
精神に異状を呈し	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
泥酔の結果	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
犯罪を苦にして	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
遊戯中過つて	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
渡河渡橋又は航海中	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
添寝中鼻口を壓して	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
計	二四	二一	四	一	二	二	三	一	一	一	一	一

線路歩行中	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
は汽車に依り	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
火災又は爐に陥りて	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
雪の爲め	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
飢餓に爲め	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
電撃の爲め	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
業務中過つて	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
急病に依り	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
瓦斯中毒に依り	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
情死	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
其他過誤	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
合計	五	三	三	一	一	一	一	一	一	一	一	一

盛岡	四	八	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
女男	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
滿未歲五	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
以十以五	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
下歲上歲	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
以十以十	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
下歲上歲	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
以十上歲十	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
下歲二以五	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
以五上歲二	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
下歲廿以十	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
以十上歲廿	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
下歲三以五	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
以五上歲三	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
下歲卅以十	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
以十上歲卅	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
下歲四以五	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
以五四以學	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
下歲十上歲	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
以五五以學	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
下歲十上歲	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
以十上歲學	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
下歲六以五	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
以五上歲六	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
上以歲十六	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
詳不令年	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
計	五	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一

學 藝—縣下新聞雜誌一覽表—出版物—縣文壇の收穫

岩手公論	月一回	盛岡市加賀	田鎖 義雄	通俗評論	月二回(三、一七)	一關町上大	三浦 海晃
快	光 月一回(十日)	野久保田	小笠原 由松	東京日日新聞	(不定時)	盛岡市内丸	西川 甲七
我等の聲	月一回(一日)	盛岡市役所内	宮 靜治	磐仙日日新聞	月三回(10、20、30)	東磐井郡千	永澤 民平
東京朝日新聞	(不定時)	盛岡市大通	村上 孔堂	縣民新聞	月二回(一、一五)	和賀郡黒澤	小館長右衛門
外		盛岡市日影	豐田 毅	紫波新聞	月三回(五、の、日)	尻町	山岸 憲章
岩手毎日新聞	月一回(廿五日)	門外小路	太田 權造			紫波郡日誌	
時事新報號外	(不定時)	盛岡市本町					

出版 物

昭和七年八月以後において出版された縣關係の出版目錄左の通りである。

母に答へて 佐藤 瑞彦
 岩手縣金石志(楓園叢書) 太田孝太郎
 陸奥産金史考(南部藩經濟史研究第一輯) 森 嘉平衛
 舊南部領に於ける名子制度(同第二輯) 小野寺武夫 森 嘉平衛
 東北民話集 仙臺放送局
 覺え易い東洋歴史 堀内 正巳
 江南の戦陣に散りし弟の靈に 小野 修徹
 鳳輦の御あと(明治天皇御臨幸記念) 盛岡市役所
 島地大等上行實 白井 成允
 父より子に

文學博士 佐藤清太郎(東京國民書院)
 岩手年鑑(昭和八年版) 岩手日報社
 徵兵制發布六十年の變遷 岩手 縣
 縣文壇の收穫
 岩手日報學藝欄から見た昭和八年一月から六月末までに至る縣文藝人の創作收穫は左の如くであるがこれに依つて本縣文壇の一端を知ることが出来るであらう。

研究
 生活場としての大地の地理的研究 横田 幸八 むかしの津波阿部源十郎 盛岡遊記 本田安次 陸奥産金史考(上) 森嘉兵衛 法醫學のはなし 黒川廣重 水棲の昆虫 山田眞一郎

評論
 二つの顔 藍澤重遠 新春 文學的滑走 伊藤信一 新即物主義と詩に就いて 阪本

隨筆
 越郎 腹の底(文學雜感その一) 佐藤彬 領域の擴大(文學雜感その二) 佐藤彬 藝術性の賦與鳩山浩 新興短歌の立場 吉田 郁郎 藝術と美意識について 高橋忠彌 『生ける屍』に就いて 小松原剛 藝術映畫 『生ける屍』を語る 梅野健三

創作
 無駄話類 小守文之 小野田先生の死天邪鬼 鶴丘雜記 白井成允 遠野遊行記 伊藤行人 遙かにも 細越廣人 少年梅野健三 榮三さんを聽く 鱒澤忠夫 堺老の死 佐藤新一 ゼロ、コンマ、ゼロ 栗木孝次郎 ロボットのナンセンス 八並誠一 釜石小唄と海嘯の辯 伊藤行人 テンラン會 栗木 幸次郎 季節の窓 S、Q、W、かひこ其の他 P、Q

滿洲行平野二郎 唯美論の涙 大久保謹三
 世界大久保謹三郎 指定席寒原すゝむ 藝術價值測定器 小守文之 病弱伊藤信一 父伊藤信一 墜落するもの 小松原剛 第一歩 伊藤信一 いろどられる秋 大久保謹三郎

他 透きとほつた孤獨生木人 街道更紗 (民話) 宮稔 つゝじの花に古川安忠 もどり橋あき之介 おそ春(童話詩) 島田忠夫 日報詩壇(二) 森惣一 月に吠える 北大和 生活の詩笈 川光夫 築港風景 倉志可瑠 若葉の香別當貞治 故郷で多賀初子 かなしみ 盛岡葉舟 さよなら (民話) 宮稔 日報詩壇(三) 曇天三都緒 あきんど平出里博 ふるさと 朱美節子 葬列 北大和

設置 孤舟歌碑建立の報に接して 佐伯正 櫻山神社例祭 獻詠歌

俳 壇
 夏草吟行 夏草句會 青澄抄一風 谷川蘭舟 翁立机式
 『詩壇人國記』を讀む 佐伯正 『岩手植 物研究に就いて』川原仁左衛門 『岩手二十人集』再募集に際して 小松原剛 『木曜文學層』特輯同人 『天才人』第六輯その 詩歌を一讀 森惣一 『岩手二十人集』縮切 延期に際して 小松原剛 純粹と創造に就いて 天才人六輯を讀みて 平川アキラ 岩手二十人集執筆者決定選後感 穂積義孝 文化的意義 梅野健三 おしやべり 伊藤信一 驚異すべき研究 『指紋と運命』を讀む 森惣一 堀内正巳氏著『覺え易い東洋歴史』 星山三郎 拙著『東洋歴史』を送ることば 堀内正巳 『神國日本の反省は先づ郷土の 神社より』を讀む 藤澤榮一 岩手二十人 集執筆者の言葉 歸郷の辯 伊藤信一 鼻 面にはられた鎖八並誠一 貧困の人々 佐藤彬 南湖書を讀む 國分謙吉

ノリア平川あきら あつまる詩 伊藤信一 ほうじょうき 駒ヶ嶺司 聲音神原潤之助 下村元吉 吉田庫藏 長谷川菊枝 高橋敏夫 ソラの噂 木場惠 川鳴り生木人 振子の裁斷 北大和 蓮(小曲) 川村始 國日記 岡崎泰固 月精圓舞曲 菊地毅 粧富士良 朝陽の中の孤獨 清水福太 生と死の四則 伊藤信一 雪明り古川安忠 影我鬼童一 母岡崎泰固 春生木人 夜ふけ堀千不雄 己れに歌へる詩 伊藤信一 斷層面我鬼童一 情愛駒ヶ嶺司 たちあがる平川あきら 地靈憤怒 菊池毅 暖流 松田幸夫 僕的美學 我鬼童一 切斷面か はせ、いちらう 清水福太 詩集 鐵鏡その

短唱 吉村秀風 谿川平出千士夫 雪消空 及川儀三 關の風景 武島繁太郎 諏訪の間下 巽聖歌 大瀬川原 始郷 關德彌 詠八首 砂子彦三郎 日報歌壇(一) 關德彌 選 作品(十三人) 稚兒關德彌 日報歌壇(二) 作品(十一人) 選後小感 三新人集(推薦) 窪田醉穂 佐々木福太郎 岸平太 日報歌壇(三) 作品(十七人) 啄木鳥(推薦) 板垣彰梧 推選三人集 小林喜代治 平出千士夫 吉田一郎

重要美術品保存法案全文

學 藝—縣文壇の收穫

上野節夫 宅新年歌會を定型律によりて報ず 大窪峻 小田島孤舟氏歌碑建設に關係ある文章 大窪峻 小田島孤舟氏歌碑建設趣意書みちのく歌會記 香蘭盛岡支社の

歌碑建設時代

昭和八年に二つの歌碑が建設されたその一は縣歌壇の元老で三十餘年間の教壇生活から退いた前盛岡高女教諭小田島孤舟氏の爲め關德彌、遊座良雄、大窪峻氏が發起人と

なつて盛岡市の郊外高松池畔神庭山の地を選んでわれひとりよのつねびとのみちこえてしづかにゆかむさびしかれども

の一首を刻んで建設、七月十八日除幕式を挙げた、もう一つは石をもて追はるゝ如く郷里を出た天才詩人石川啄木の爲め市内啄木會同人が生前故人が最も好んで遊んだといふ天神山の眺望よき丘に

進められてゐる。俳人高濱虚子の句碑も花巻温泉に建てられることになつてゐる。

夏期講演の爲め八年七月三十日來盛した音楽と舞踊

一九三二年後半三浦環女史を迎へた社樂樂壇は秋に至つて世界的提琴家エフレム、デムバリスト氏を迎へ次いで宮川美子嬢の獨唱會を開く等輝々しいものがあつた。三三年は母國に歸朝早々の東那の「ヂョセフイン、ペーカー川畑文子嬢を迎へた。主なる演奏會記録左の通り

△本社主催又は後援

昭和七年

△ヂムバリスト氏演奏會(一〇・二〇・公會堂)

ピアノ伴奏 シオドア・ザイデンベルグ氏

△宮川美子嬢獨唱會(一一・一三・同)

ピアノ伴奏 エンリコ・ロツシイ氏

△洋樂と長唄の夕(一二・二二・同)

ソプラノ ダン・道子

ピアノ ダン・ジエームス

ヴァイオリン 小林 武光

長 柁屋彌三恒社中

昭和八年

△佐藤時太郎氏「ホームニカ獨奏會(四・二

三・公會堂

△川畑文子嬢歸朝公演會(六・一四・同)

獨唱と舞踏 川畑文子

獨唱 天野喜久代

同 ベティ・稲田

舞踏 白幡石藏

ピアノ伴奏 藤田 徹

△小唄と舞踊の夕(七・二〇・同)

小唄 藤本二三吉

舞踏 藤間若菜

ピアノ伴奏 近藤政二郎

三味線伴奏 よし町小靜

△佛敎聖歌發表會(七・二三・同)

獨唱 權藤圓立

同 澤井清

ピアノ伴奏 藤井清

△其他の演奏會▽

昭和七年

△舞踊と音樂の會(九・一二・公會堂)

舞踊 河上鈴子

獨唱ソプラノ 淡谷のり子

ピアノ伴奏 鈴木まさを

音樂帝國女子管絃樂團(指揮篠原正享)

△藤原義江氏獨唱會(九・一三・公會堂)

ピアノ伴奏 木村三郎

△盛岡洋樂協會第一回演奏會(一〇・一・公

會堂)

△日本國民歌發表會(一一・一五・同)

バリトン 江文也

ソプラノ 阿部秀子

ピアノ伴奏 松山智恵子

外に漫談 西村樂天

昭和八年

△流行歌と舞踊の夕(六・二〇・公會堂)

獨唱 都小路照子

同 長谷川一郎

舞踊 藤間波津枝

伴奏 コロムビア・マンドリン・オーケストラ

指 揮

美術

森田正夫

六年の帝展で縣出身の橋本八百二氏が特選の榮を擔つたが七年の秋は夫人の橋本はなさんの「樹下」が特選となつた。夫人は七回續け様の入選連だ、その他の入選

△洋畫深澤省三(帝展)

丹下富士夫「波止場風景」(二科)

△展覽會

第八回素顔社展(七年十月十三日から十八日まで商陳北館)

娛樂と趣味

演 藝

七年十月以後の主なる演藝記録左の通りである。

△前進座(七年一〇・一八・一九・盛劇)

河原崎長十郎 中村龜松 河原崎國太郎

中村翫右衛門

國定忠次 馬(フアース) 振り分け小

平 龜山の仇討 街の入墨者 旗本退

屈男

△國劇座(七年一〇・二六・七・八・同)

三派合同(中野豊太郎 雲井月子)

△吾妻市之亟 森野五郎一座(八年二・一八

九・盛劇)

吾妻市之亟 森野五郎 市川五十郎 澤

村いろは

吉例會我對面 浦の苦屋 實錄先代萩

森の石松 一條大藏郷 阿波の鳴門

桔梗の旗揚げ 京の友禪 源平布引瀧

△實川延若 澤村宗十郎一座(八年八・一

同)

實川延若 澤村宗十郎 阪東村右衛門 助高屋高助 澤村田之助 市川松庭 尾上多賀之丞

操三番叟 安宅の新關 御訛重井筒

伊勢音頭戀寝 壽會我對面 忠節女

夫松 義經千本櫻「いがみの權太」連

獅子

映 畫

七年下半年から八年上半年にかけての盛岡市の映畫界は依然内丸座(松竹)紀念館(日活) 御園座(寶塚) 藤澤座(新興)の五館が必死となつて營業をつゞけてゐるこのうち内丸、御園の兩館は本格的トーキーの設備があり洋物も自由選擇でファンに或る程度まで満足と與へてゐる

本縣から送つた映畫人―最も期待してゐた田子明君は日支事變熱河討伐に出征して名譽の眞傷を爲し、暫く立つこと能はなくなつた「滿洲行進曲」を始めとして「人柱四勇士」「肉彈相搏つ」「與太者と縁談」その他に主演して人氣もこれからの處だつたが惜しい映畫とは直接關係はないが日活のスター夏川靜江嬢がラブミー化粧品品の宣傳に八年五月華々しい盛岡入りした

◇上映された主る映畫

七年

- ◇九月 川崎弘子 竹内良一「天國に結ぶ戀」(内)中野英治 高津慶子「不如歸」(藤)田中絹代「兄さんの馬鹿」(内)大河内傳次郎 片岡千恵藏「明治元年」(紀)澤村國太郎「寛永豪傑總進軍」(御)水谷八重子「上陸第一歩」城田二郎 田子明「肉弾相搏つ」フレデリックマーチ「ジキル博士とハイド」(内) 酒井米子 鳥羽陽之助「維新の刹那」(紀) 栗島すみ子「相思樹」(内) 若き女性の悲み(紀) 市川春代、八木宏
- ◇十月 市川米十郎 鈴木京子「二番手赤穂浪士」(紀) 竹内良一 田中絹代「銀座の柳」(内) 北條たま子 水原玲子「女給君代の巻」(藤) 城田二郎 江川宇禮雄「陸軍大行進」(内) 雲井龍之助「高野長英傳」(御) 大河内傳次郎「木曾路の鶴」(紀) メトロ作品「トレイダホーン」(内) 阪東妻三郎「春秋編笠ぶし」(藤) コーリン・グリフィス嬢「情炎の美姫」(御) ワイナー「キング・オブ・キングス」(公) 城田二郎 田子明「海の王者」ローレンス・チベット「悪漢の唄」水谷八重子 大日方傳「浪子」(内) 高津慶子「彼女の運命」

(藤)

- ◇十一月 岡譲二 伊達里子「陽気なお嬢さん」(内) 小杉勇 夏川静江「海燕」伏見直江發聲「女國定」(紀) ドイツ全發聲「モンブランの嵐」(内) 大河内傳次郎「上海」(紀) 水久保澄子「嵐の中の處女」ドイツ・ルイズ・トレンカー氏作「火の山」(内)
- ◇十二月 シュナイダー氏作品「白銀の亂舞」栗島すみ子「想出多き女」 林長二郎「怒濤の騎士」(内)
- 八年
- △一月 栗島すみ子「情人」(内) ワ社ルイズ・ストーン「トロイ情史」(御) ジャック・クーパー「チャンプ」(内) 片岡千恵藏伏見直江「旅は青空」(紀) 小杉勇「昭和新聞組」(内)
- △二月 メトロ社「レタガール」(間諜マタハリ) 武林文子「一九三二年の母」(紀) アルベール・ブレザン「ブレザンの船唄」(内) 大河内傳次郎、伏見直江「三萬兩五十三次」(紀) 松竹全發聲「忠臣蔵」(内) 入江タカ子、中野英治「滿蒙建國の黎明」(藤)
- △三月 林長二郎、川崎弘子「不如歸」(内) ベティアーマン嬢「二重結婚」(御) 大河内傳次郎、伏見直江「煩惱秘書」(紀) 及川

- 道子、岡田嘉子「女性の切札」(内)
- △四月 田中絹代全發聲「花嫁の寢言」(内) 羅門光三郎木下双葉「きさらぎ九平」(御) 阪東妻三郎「神變齋香猫」(藤) 阿部九州男「時雨の長脇差」(御)「ハロルドロイド」ロイドの活動狂」(内) ユ社「ダグラスの世界一周」(御) 澤蘭子「涙の渡り鳥」(内)
- △五月 入江タカ子「光罪と共に」(藤) 栗島すみ子「聖なる乳房」(内) 澤田清「隠密七生記」(紀) レオンテイヌザガン「制服の處女」(公) 川崎弘子岡譲二「又逢ふ日まで」(内) 桂珠子「ふらんす人形」(藤) 川崎弘子 江川宇禮雄「暴風帯」(内)
- △六月 澤田清花井蘭子「浪人しぐれ笠」(紀) シェパリエ「今晚愛して頂戴な」(内) 月形龍之助「曉の市街戦」(御) 片岡千恵藏「國定忠治」(紀) 山路ふみ子「己が罪」(紀) レニ・リーフェンスタール「青の光」(内) メトロ社「類猿人タイザン」(内) 夏川静江「彼女の道」(紀) 入江タカ子「白蓮」(藤)
- △七月 パ社全發聲「暴君ネロ」(内) 峰吟子「モダンダム行状記」(紀) ルネクレール作「自由を我等に」(内) 夏川静江「蒼穹の門」(紀) 阪東妻三郎「情熱地獄」(藤) 阿部九州男「風流上州風」(御) ヤニングス「神々の寵兒」(御) ラモン・ナワロー「若き血

に燃ゆる者」(内) 片岡千恵藏「白夜の饗宴」(紀) 歌川八重子「後の生きぬ仲」(藤)

ラヂオ

縣關係のラヂオ放送記録左の通り(八年七月まで)

七年

- △講演「新興日本の建設」内閣總理大臣子爵齋藤實(九・一、東京)
- △子供の時間「獨唱」花巻小學校兒童阿部ヨシノ外、伴奏及川直、花巻高女福岡テイ外伴奏、藤原嘉藤治(九・二三、仙臺)
- △趣味講座「書畫骨董を通じて見たる達磨」舟越靈戒(一〇・五、仙臺)
- △講演「國民更生運動」内閣總理大臣子爵齋藤實(一〇・一三、仙臺)
- △趣味講座「厨川柵落城の日」山本賢三(一〇・一七、仙臺)
- △趣味講座「奥羽地方の都市漫步街を語る」榎内吉胤(一〇・一九、仙臺)
- △對時局帝國在郷軍人全國大會「挨拶」内閣總理大臣子爵齋藤實(一〇・二九、東京)
- △「水澤町日高祭禮囃子」指揮石川龜章(一一・二、仙臺)
- 八年
- △特別講座「大雪山」北大教授農博枋内吉彦(一一・一三、札幌)
- △趣味講座「メインストリートの科學」石川

榮耀(一・三一、名古屋)

- △趣味講座「農村正月の行事」佐々木喜善(一一・一、仙臺)
- △講演「非常時局と建國の大精神を思ふ」内閣總理大臣子爵齋藤實(一一・一、東京)
- △農藝講座「養蠶の必要」東京高系教授岩淵平介(一一・一六、東京)
- △獨唱「椿姫」ほか二曲伊藤敦子(一二・一、東京)
- △講演「日米親善の促進について」新渡戸稻造(五・一一、東京)
- △海軍記念日の夕「挨拶」内閣總理大臣子爵齋藤實(五・二七、東京)
- △歌謡曲「平泉小唄、東稻小唄」千葉實、菊池幸(仙臺)
- △講演「世界はどう動く」法學博士杉村陽太郎(七・一一、名古屋)
- △婦人講座「新時代の求める新女性について」新渡戸稻造(七・一三、東京)
- レコード
- 釜石小唄 伊藤行人氏作の武田忠一郎氏作曲になる釜石小唄はボリドルレコード地方民謡二月新譜として八年一月十五日發賣された
伴奏は和樂杵屋定之丞、若柳吉増氏等、

三味線尺八は小林桂雲、法華太鼓は坂本米吉、洋樂はボリドル洋樂部員、指揮は前陸軍戸山學校軍學長辻順藏氏

「釜石小唄」

伊藤行人詩
武田忠一郎曲

見せて あげましょ
舵子衆の 意氣を
此處は 釜石 港街
船は 港に
鑛山には 黄金
黄金しぶきの 霧が立つ
大漁船かよ
櫓櫓の響き
風にフライキ はたはたと
鑛山の黄金を
港で積んで
泣いた あの子に 送られる
沖にや 宵星
街には 灯
胸に澤村 灯がともる
泣いてくれるな
鷗の鳥よ
初の出船に 氣がにぶる

戻り船かよ
音頭とる船は
君と逢瀬も 尾崎様

今宵 お月夜
鑛山には 煙
須賀で 二人は泣くばかり

山は 鑛山
何處まで續く
絶えぬ煙に 陽もかける

どうせ添ふなら
釜石娘
肌は白浪 氣は黄金

○唯○ハアドントコイ釜石 港街鑛山にヤ
ドント咲く 黄金花
○唯文句は各聯の終りに繰返へし唄ふ

◇著音器祭 七月一日から全國一齊に行は
れる著音器祭に盛岡著音器商組合でも八年
度始めて本格的催しを計畫しピクチャー演奏
會ポリドルのヂャズバンド演奏會などあ
つた

× コロムビアアマンドリンオーケストラの實
演が六月あつた

盛岡史蹟研究會作歌、吉田旭蘭女史作曲「噫

南部中尉」は八年四月發表された

新曲 南部中尉

琵琶歌 噫 南部中尉
作歌 盛岡史蹟研究會
作曲 吉田旭蘭

敷島の、大和心の若櫻、散りての後も芳
ばしき、南部中尉の忠烈は、聞くもの誰
か泣かざらむ。茲に南部四十二代の主、
利祥公は、祖先此の方承け繼ぎし、勤王
の誠表はさむ時こそ來れと名香を、身に
薫らせて乗る駒も、忠節武勇と名付けつ
ゝ、我が日の本に仇をなす、暴慢無禮の
露西亞勢、打ち懲さずば如何でまた、祖
國の地をば踏むべきと、決死の覺悟勇ま
しく、廣島灣を船出して、雞の林の奥深
く、鎮南浦へぞ着きにける。時しも明治
三十七年の、三月廿八日の朝まだき、加
瀬聯隊の前衛たる、黒川中隊の尖兵長と
なり、定州城外の春の雪、紅き血潮に染
めなして、群る敵を打ち撃け、初陣の功
を立てにけり。かくて八月末つ方、遼陽
總攻撃のその折に、敵の親と頼みてし、
橋大隊長を初めとし、戦友長岡少尉の戦
死をば、聞きし中尉は慨然と、長大息し
て言ひけらく、「共に華胄の家に生れ、同
じく東宮殿下の御學友として、朝な夕な
食を分ち、出征の其の後に、砲煙彈雨
の野路山路、勵まし合ひし長岡が、最後

の様の勇ましき、抜けば玉散る日本刀、
屍を戰場に曝すとも、一念こゝに留りて
敵を討たて止むべきかと、天を仰いで紅
涙を、そゝがれしこそゆかしけれ。至誠
は神に通せしか、あくる三十八年二月二
日、中尉は長岡少尉の後を受け、第三小
隊の長となり、大君の爲國の爲、また戦
友の靈を慰めむと、決戦の臍を打ち固め
時や遅しと待つ程に、三月三日の曉近く、
本溪湖の北に聳えつる、井口嶺の敵軍を、
驅逐せよとの命令に、勇み立つたる小尾
中隊は、同じく四日の朝がけに、馬より
おりて徒歩となり、險しき山路踏みしだ
き井口嶺へと押し寄する。險阻を恃む敵
兵は、岷々たる懸崖に砲を据ゑ、火蓋を
きつて散々に、亂射亂撃雨霰、或は岩石
を投げ下し、いと頑強に抵抗す、小尾中
隊長は目を苛ち、突貫せよと呼はれば、
登るに難き坂路も、命を的に突進す、心
は矢竹にはやれども、身は鐵石に非され
ば、中隊長を初めとし、敵弾あまた身に
受けて、まるび落つるもの數知れず、南
部中尉は猛然と、代りて中隊指揮しつゝ、
敵弾に右手の指を碎きしも、木の葉をむ
しり之を包み、敵壘近く攻め寄せて、最
後の突撃命せられ、頭をあぐる一刹那、
一彈さつと飛び來り、胸より背を貫けば、

豪氣の中尉も仰のけに、あはれ二十四歳
を一期として、敢なく露と消えたまふ、
士卒等之に感激し、友軍と力を合せ、痛
手に屈せず突貫して、血潮に染めし日章
旗、井口嶺の壘上に、輝きしこそ尊けれ。
遠く逐つて虜奴一井嶺嶺
渥注ノ龍種嘶ク春天ニ、
應ニ知ル鐵血公子ノ有ルヲ
憶フ昔甲辰征露ノ年。

横田伊久井 横澤登代 古平寛千代
尺八 八木甫山(都山流) 川村誠三(琴古
流)
義太夫 鶴澤勝三 豊澤仙勝
琵琶 田中洵水 諏訪櫻慶 吉田旭蘭
謡曲 佐々木實高(喜多流)
名 取
盛岡幡街本街藝妓中名取は左の如くである
△舞踊 (若柳壽童)才八(吉華女)梅奴(吉
奴)小照(吉照)、若柳吉藏、あづま(吉妻)
さわ子(吉取)、富香(吉佐女)、葛榮(吉葛)
△長唄 杵屋六四郎、小竹(六芳) 梅八
(六梅) 五郎(六田鶴) 巳代吉(六富)
△囃子 望月朴△清次(清次) 藤助(清
花) 永次(清永) 叶(清香) 次子(清時)
喜代丸(清丸) 駒龍(清龍) 等子(清等)
小園(清園) 友奴(清友)
△清元 清元喜久太夫△かや(喜久幸) 俠
次(喜久榮) きよ子(喜久清) 今勇(喜久
志) やま子(喜久照) みち子(喜久歌)
彩兒(喜久駒) 八千代(喜久千代菊丸)
△義太夫 鶴澤榮三 俠次(榮光) (豊澤
仙勝) 彩兒(仙彩)

各流師匠
舞踊 若柳力代 若柳吉初 藤間勘幸 藤
間勘恵 若柳吉鶴
長唄 杵屋勝壽勇 杵屋三代福 杵屋勝毛
壽 杵屋六歌 杵屋勝可壽
清元 清元喜久芳
常盤津 宮古路文字岡 宮古路文字久
歌澤 歌澤寅勇美
鳴物 望月久吉 望月仙太郎
箏曲 石田清宵 上關登美井 森田龜井

娛樂と趣味——各流師匠——名取——活花師匠——茶道——花活

盛岡市 佐藤米壽(瑞穂流) 船山秀惠(東
池の坊) 吉田清次郎(龍生派池の坊)

河村雲峰(梶井宮御流) 梅澤伯水(青山
御流) 千葉千壽軒(龍生派池の坊) 阿部
倉三(池の坊) 日戸秀之助(盛花投入)
星山徳治(花廻本流) 肥塚菊子(池の坊)
藤村かね子(同) 寺井とし子(龍生派池
の坊) 川村愛子(家元池の坊) 工藤み
ち子(同) 野邊可笑齋(微笑流)
花 卷 窪田ゆい子(龍生派池の坊) 小原
はや子(家元池の坊) 瀬川ます子(古流)
黒澤尻 上田まつ子(家元池の坊) 大和春
江(家元池の坊)
水 澤 鈴木武子(家元池の坊)
一の關 鳴海欽子(家元池の坊)
一戸 松本仲子(家元池の坊)
茶 道
△宗匠(表千家)
塵中庵 橋 不染
方柳庵 菊池 宗 爲

スポーツ

昭和七年九月以降、八年七月までの本縣運動界を振り返つて見るに中等學校及び實業野球の不振に逆行した軟式野球の躍進は、實に驚くべきもので、各地に開催の軟式野球大會は枚擧に遑がないといふ小普及の跡を残した。對外的には進出し得なかつたが進境目覚しく將來に期待し得るものに陸上競技がある。若手陸上競技聯盟及び盛岡學生競技聯盟の發會に伴ふ一般學生對抗試合の開催等漸く民間の團體が統制されつゝある事は若き競技者手のため慶賀すべきことである。卓球では元農大選手であつた中島正郎君が全日本卓球テニキングの第一位に發表されたことは縣卓球界の大きな誇りになければならない。全國學生氷上及び全國中等學校氷上兩大會は引續き高松池に開かれこれが本縣スケート界に及ぼした刺戟は非常なもので少年氷上ホッケー、北日本中等校氷上ホッケー兩大會の主催地となり、更に八戸市と都市對抗の第一回を行ふ等目覚しいものがあつた。籠排球は僅かに女子中等學校聯合大會に見るのみではあるが開拓の餘地が充分残されてゐるだけに、將來に

約束されるものが多い。庭球は最近數年全國的に硬球熱が擡頭して來たとはいへ本縣は依然として太田俱樂部、高農を除けば全部の大會は軟式でそれすら餘り振わない状態である。石黒知事主唱する所の岩手武道會は非常時岩手に處する縣民の精神的針路を示したものととして敬服し、進取の氣概に乏しい本縣人がスポーツを通じて發奮たる精神を涵養し萬般に亘つて、復興途上にある郷土岩手の確固たる建設に邁進したいものである。

陸上競技

本縣陸上競技界も近年隆昌に向ひつゝあるは誠に欣快の至りである。然し他府縣のそれと比較するならば尙幾多の遜色は免れない。かの長期間寒氣に惱まされる北海道、或は積雪に富む新潟等が神宮大會に目覺しい活躍振りを見せてゐるのは何を物語るか本縣陸上競技の不振は地理的還境に恵まれぬ事も一理あるが、競技に對する正確なる認識に缺けてゐると思ふ、故にその普及發達のためにスポーツに對する眞の理解を以

て官民一致協力してかゝらねばならぬ秋である。本縣には優秀なる選手及び素質にめぐまれてゐるアスリートもないわけではない。只惜むらくは自己の力と熱とを十二分に發揮すべき運動場と大會の少かつた爲である。されば民衆体育上、建康上幾多くの人にどれだけ幸福を得るかを考へて運動場の設立及び擴張を圖り、一面國民の体位と意氣の向上を期せねばならぬ、昨年若手陸上競技聯盟創立し本年初春は盛岡學生競技聯盟の誕生を見る等斯道のため強く正しく指導する羅針盤となつて欲しい。縣下實業校大會、縣下の中等校大會、東北中等校大會は何れも一段進歩の跡を見せた。本年初夏は一般對學生の活氣に満ちた興味ある試合は將來に力強き一步を印した。又三年來待機の状態にあつた小學校兒童の競技會は幾多の好記録を残した小戰士の涙ぐましき奮闘振により大いなる收獲を得たのである。殊に青年の學生をしのぎ擡頭して來た事、女子競技は舊來の殻を破り新裝をこらして進出した事、若手陸上競技聯盟の活潑なる事業はやがて本縣陸上競技のレベルの向上を一段と高きに導く事であらう、然して第二の南部、織田選手の輩出される様待望してやまぬのである。

本縣最高記録 (昭和八年七月未現在)

種目	記録	保持者	年度
一〇〇米	一一・二	館澤 德榮(水澤)	一九三〇
二〇〇米	二二・二	館澤 德榮(水澤)	一九三〇
四〇〇米	五三・〇	瀬川 善八(教員)	一九三三
八〇〇米	二一・〇	草野 十助(高農)	一九三〇
千五百米	四三・二	淺利 (青師)	一九三〇
五千米	一六・五八・七	奈良岡健藏(青師)	一九三〇
一萬米	三四・三七・〇	佐藤政次郎(紫波)	一九三一
高障礙	一七・〇	野間 正義(一關)	一九三〇
低障礙	二六・九	瀬川 善八(岩師)	一九三二

種目	記録	保持者	年度
八百繼走	一・三七・〇	鈴木、加賀(西磐)	一九三一
千六百繼	三・四四・〇	花井、早坂(學生)	一九三三
走高跳	一・八三	和賀 行男(和賀)	一九三二
走巾跳	六・七〇	田村 (福商)	一九三一
三段跳	一三・八七	寺澤 光一(岩中)	一九三三
棒高跳	三・四二	木島 信一(教員)	一九三一
砲丸投	一四・七一	木島 信一(教員)	一九三〇
槍 投	一一・二三	寺澤 光一(岩中)	一九三二
圓盤投	五一・八四	佐々木安喜(岩師)	一九三〇
圓盤投	三七・五三	菊池慶一郎(盛岡)	一九三二

種目	記録	保持者	年度
八百繼走	一・三七・〇	鈴木、加賀(西磐)	一九三一
千六百繼	三・四四・〇	花井、早坂(學生)	一九三三
走高跳	一・八三	和賀 行男(和賀)	一九三二
走巾跳	六・七〇	田村 (福商)	一九三一
三段跳	一三・八七	寺澤 光一(岩中)	一九三三
棒高跳	三・四二	木島 信一(教員)	一九三一
砲丸投	一四・七一	木島 信一(教員)	一九三〇
槍 投	一一・二三	寺澤 光一(岩中)	一九三二
圓盤投	五一・八四	佐々木安喜(岩師)	一九三〇
圓盤投	三七・五三	菊池慶一郎(盛岡)	一九三二

競技記録(昭和七年)

△九、四 第四回高農對醫專競技試合は午前九時より高農競技場で舉行、醫專始めて勝つ

△十、二 北岩手少年陸上競技聯盟主催の第八回大會は福中競技場で開催

七點 金田一七點 福岡五點 斗米四點
 ▲高等科福岡二〇點 劍吉一七點 山内
 七點 金田一七點 淨法寺七點 石切所
 四點 上斗米一七點
 △十、十三 紫波郡下小學校第三回大會は
 日詰小學校に開催、尋常科は徳田、高等
 科は不動の兩校が優勝した
 △十、十一 岩手郡小學校兒童大會は零石校
 に開催尋常科小岩井 高等科上野兩校が
 優勝旗を獲得した
 △十、十六 縣下女子中等學校大會は黒澤
 尻高女に開催、盛岡高女優勝
 百米吉田(女師)一四秒二：新記録▲五〇
 米市川(盛岡)七秒一：新記録▲走高跳坂
 本(女師)一米二五▲三段跳安原(黒澤尻)
 一〇米二▲二百米齋藤(黒澤尻)三一秒四
 新記録▲四百米繼走盛岡高女一分：新記
 録
 △十、二三 縣体育協會主催第二回縣選手
 權大會は師範競技場で舉行、選手權記録
 左の如し
 百米小森宗昌(青年)一二秒▲二百米瀨川
 善八(岩師)二四秒▲四百米早坂正三(岩
 師)五四秒三：新記録▲千五百米佐藤忠
 四(岩師)四分三三秒八：新記録▲一萬米
 佐藤政次郎(青年)三五分三六秒四：新記
 録

▲砲丸投寺澤(岩中)一四米二七：新記録
 ▲走高跳阿保(遠中)一米七三：新記録▲
 走中跳阿保(遠中)六米三一：新記録▲三
 段跳寺澤(岩中)一三米八七：大會及縣新
 記録
 △七、九 岩手陸上競技聯盟主催第七回縣
 下學童大會は高農に開催、尋常科は永井
 高等科は盛岡が優勝した
 尋女五十米内田(仁王)七秒五▲高女五十
 米村山(巻堀)七秒六▲尋男五十米板澤
 (永井)七秒四▲尋女百米内田(仁王)一五
 秒▲高女百米村山(巻堀)一五秒一▲尋男
 百米板澤(永井)一四秒三：新記録▲高男百
 米齋藤(徳田)一二秒五：新記録▲尋男二
 百米二家原(花城)三一秒▲高女二百米北
 田(長岡)▲高男二百米齋藤(徳田)二六秒
 二：新記録▲高男四百米藤原(不動)一分
 〇秒七：新記録▲尋女四百米繼走長岡校
 一分四秒五▲高女四百米繼走盛岡校一分
 ▲尋男四百米繼走永井校一分▲高男八百
 米繼走盛岡校一分五秒一▲尋男走中跳藤
 原(花城)四米四一▲高男走中跳米内(盛
 岡)五米一三▲尋男走高跳藤原(花城)一
 米二七▲高男走高跳佐々木(太田)一米五
 五七▲高男三段跳佐々木(太田)一米一
 〇

大會新記録▲砲丸投寺澤(岩中)一三米三
 四：大會新記録▲棒高跳佐藤(大館中)三
 米三〇：大會新記録▲走高跳丸谷(大館
 中)一米七三A：大會新記録 ▲槍投瀧澤
 (青師)四四米九八▲走中跳伊藤(秋師)六
 米三〇▲三段跳丸谷(大館)一二米八二
 八年の記録(七月まで)
 △四、三〇 盛岡學生陸上競技聯盟發會式
 を舉ぐ、役員規約を決定し今後の活躍に
 備へた
 △五、一三 紫波郡青年團聯合競技會は日
 詰校に開催、日詰青年團が優勝した
 △五、一五 東磐井郡青年團競技會は千厩
 町で舉行、千厩が優勝した
 △五、二八 花巻農學校主催第四回縣下實
 業校大會は花巻鳥谷ヶ崎競技場で舉行、
 岩手工業優勝す
 △六、一一 第九回東北高專校大會は福島
 市に開催盛岡高農成績左の如し
 百米三等星山▲高障碍二等戸谷▲走中跳
 四等戸谷五米六〇七▲走高跳二等戸谷一
 米六〇▲三段跳三等戸谷一米九九、四
 等星山
 △六、一八 岩手競技聯盟、盛岡學生競
 技聯盟主催の第一回一般對學生對抗戰は
 高農競技場で舉行五六・五對三九・五で一
 關軍勝つ

般軍勝つ
 百米館澤徳榮(一)一一秒二：縣タイ記録
 ▲二百米瀨川善八(一)二三秒七▲四百米
 瀨川善八(一)五三秒三：縣新記録▲八百米
 岩淵邦明(一)二分一〇秒五▲千五百米重
 石長藏(一)四分三三秒二：縣タイ記録▲五
 千米佐藤政二(一)一七分五一秒二▲低
 障碍館澤徳榮(一)二八秒▲高障碍阿保良
 三(學)一七秒六▲八百米繼走一般軍(瀨
 川、遠藤、稻垣、武田)一分三七秒▲千六百
 米繼走學生軍(花井、早坂、川瀨、八谷)三
 分四四秒：縣新記録一般軍(山内、武田、
 岩淵、瀨川)▲砲丸投寺澤光一(學)一四米
 三四：昭和七年度全國中等校記録を破る
 走高跳館澤徳榮(一)寺澤光一(學)一米六
 八▲槍投佐々木安喜(一)四七米二九▲走
 中跳中島榮(一)六米三一▲三段跳寺澤光
 一(學)一三米▲圓盤投菊池慶一郎(一)三
 六米一五原▲棒高跳平塚謙三(學)三米二
 五A
 △六、二五 第六回縣下中等校大會は高農
 競技場で舉行師範優勝す
 百米高橋(盛中)一一秒八 ▲四百米早坂
 (師範)五四秒▲千五百米山(花農)四分
 四三秒三▲二百米低障碍國分(福中)二八
 秒▲八百米繼走師範(花井、宮崎、早坂、田
 口)一分四〇秒：新記録▲千六百米繼走
 師範(工藤、早坂、佐々木、田口)四分七秒

▲砲丸投寺澤(岩中)一四米二七：新記録
 ▲走高跳阿保(遠中)一米七三：新記録▲
 走中跳阿保(遠中)六米三一：新記録▲三
 段跳寺澤(岩中)一三米八七：大會及縣新
 記録
 △七、九 岩手陸上競技聯盟主催第七回縣
 下學童大會は高農に開催、尋常科は永井
 高等科は盛岡が優勝した
 尋女五十米内田(仁王)七秒五▲高女五十
 米村山(巻堀)七秒六▲尋男五十米板澤
 (永井)七秒四▲尋女百米内田(仁王)一五
 秒▲高女百米村山(巻堀)一五秒一▲尋男
 百米板澤(永井)一四秒三：新記録▲高男百
 米齋藤(徳田)一二秒五：新記録▲尋男二
 百米二家原(花城)三一秒▲高女二百米北
 田(長岡)▲高男二百米齋藤(徳田)二六秒
 二：新記録▲高男四百米藤原(不動)一分
 〇秒七：新記録▲尋女四百米繼走長岡校
 一分四秒五▲高女四百米繼走盛岡校一分
 ▲尋男四百米繼走永井校一分▲高男八百
 米繼走盛岡校一分五秒一▲尋男走中跳藤
 原(花城)四米四一▲高男走中跳米内(盛
 岡)五米一三▲尋男走高跳藤原(花城)一
 米二七▲高男走高跳佐々木(太田)一米五
 五七▲高男三段跳佐々木(太田)一米一
 〇

泉競技場で舉行、花巻優勝す
 △七、九 一關對宮城縣若柳青年團對抗試
 合は關中競技場に開催、四三對四一で一
 關軍勝つ
 野 球
 全國中等學校野球大會東北豫選で過去七年
 雌伏の盛岡中學が優勝した、優勝候補であ
 った遠野中學、宮城縣工が第一回戰で敗退
 し良く傳統を誇る盛中野球部に凱歌を挙げ
 得たのは忘れられてゐた意氣に燃ゆる盛中
 魂が呼びもどされたからであつた、縣下の
 大會で涙をのんだ盛中が東北に覇を稱へた
 盛岡唯一の實業チームであつた、盛岡實業
 は銀行騒動の餘波をうけて遂に解散の止む
 なきに至つた、さなきだに振はない球界の
 ため悲しむや切なるものがある、東北に於
 ける野球都市として知られてゐる盛岡のた
 め代表チームの組織を希ふ
 試合記録昭和七年
 △九、一一 第二回全日本軟式野球大會縣
 豫選會は盛中球場で二戸郡のスピードが棄
 權した、め準決勝として一關代表アプレ
 ト對盛岡代表旭の對戦をもつて開始したが
 アプレストの的確な攻撃に三對一で旭破れ
 決勝戰は午後一時から花巻代表ハインシャル
 對アプレストによつて長澤(球)金田一、村

スポーツ—野球

松(壘)三君審判の下に舉行、ハリーシャルの力闘空しく南方の強豪アプレストが覇を制して岩手縣代表の榮冠を獲得した

八軍 000030000000
ア軍 000061000A 7A
△九、十一 市内山岸階會主催の第三回軟式大會は昭典堂優勝す

準決勝戦
大洋6A—1M K
昭典堂3—0 浅岸

決勝戦
大洋 000010110
昭典堂 201900000A 12A 3

△九、十一 遠野消防組各部對抗野球は午前十時から遠中球場で舉行の結果裏町石町組の第一部が優勝した
△九、十一 久慈町の官公衛對抗野球は参加五チームで郷友優勝した
△九、二四 盛岡貯蓄對鐵道野球戦は高農球場で舉行九對三で貯蓄勝つ
△九、二五 水澤胸形クラブ對盛岡鐵道戦は水澤公園球場で高幸(球)松本、佐藤(壘)三氏審判の下に舉行十三對十一で鐵道勝つ
△九、二五 二戸郡教育會主催第一回郡下少年野球大會は福中球場で参加五校八組で舉行、尋常科は石切所高等科は福岡が優勝した

二七八

八年の記録(東北豫選まで)

△五、七 岩手醫專對盛岡實業戦は三對一で醫專勝つ
△五、一四 盛岡實業對岩手醫專戦は十六對一で實業大勝
△五、一四 福岡中學對八戸中學戦は延長戦の後十對八で福中勝つ
八戸 210101210000 8
福岡 041000030002 10

△五、二六 遠中ク一二— 六岩手醫專
△五、二八 盛岡實業一八A—一七遠中ク
△五、二八 高農 四—一盛中
△六、五 早稻田大學野球部選手佐藤茂美君は盛岡中學野球部指導のため來盛した
△六、一〇 高農醫專定期野球戦は第一回十三對六で高農勝ち、第二回戦は四對三で醫專勝つて一勝一敗となつたが決勝戦は醫專田村選手の負傷で中止した
△六、一一 都市對抗岩手縣豫選の盛岡實業對鐵道俱樂部戦は盛中球場で舉行三對二で實業勝つ
鐵道 10000010000 2
實業 0001011000 3

△六、一七 盛中對盛商戦は三對二で盛商勝ち十八日の第二回戦では十一對六で盛中勝つ
△六、一八 遠野中學六A—〇黒澤尻中學 築館中學一四A—一六一關中學

八戸中學一六—一四福岡中學
水澤胸形一二—二盛岡鐵道

△六、二四 都市對抗東北豫選に出場した盛岡實業は第一回戦で石巻と對戦大勝した

石巻 1110000000 3
盛岡 2104010008 16

準決勝 盛岡實業對仙鐵戦は二十五日午後零時半から仙臺スポーツマン球場で舉行仙鐵勝つ
仙鐵 10001121A
盛岡 000100000 1 6A

△六、二五 福岡中學八—〇八戸中學
遠野中學五—四盛岡中學
遠野中學七A—六盛岡商業

△七、二 遠野中學は仙臺に遠征宮城工業を三對一で撃破した
遠野中學優勝 △七、二三 縣中等學校聯合体育會主催第五回中等校大會は三日間盛中球場で舉行遠野中學が優勝した

第一回戦
黒澤尻中學對盛岡商業戦は渡邊(球)長澤佐藤、圓子(壘)四氏審判、黒中先攻で開始

盛商 03001100A
黒中 000000000 0 5A

スポーツ—野球

△九、二六 宮古町官公衛野球大會は決勝戦は小學校庭で行ひ、小學校職員チームが優勝した

△十、一 岩手醫專對盛岡實業戦は高農球場で中村(球)大内(壘)兩君審判の下に舉行十四對十で實業勝つ

△十、二 前澤体育協會主催第四回軟式野球大會は御物見球場に開催七福俱樂部優勝

△十、二 八戸野球協會對久慈銀杏戦は久慈町グラウンドで舉行十三對十で久慈惜敗

△十、九 時事新報主催全國軟式野球大會東北豫選會は福島市に開催、本縣代表一關アプレスト軍は福島縣代表郡山軍と第一回戦で對戦し十八對七で破れた

△十、十七 東磐井郡摺澤体育協會主催第一回東磐少年野球大會では黃海小學校が優勝した

△十、二三 遠中クラブ對釜石協會戦は釜石町昭和球場で舉行遠中クラブ勝つ

釜石 1000000000 1
遠中 1014000001 7

△十、二三 高農對醫專定期戦は二二對四で醫專勝つ
△十一、三 盛岡實業對岩手醫專は七對四で實業勝つ
△十一、十二 盛中對盛商戦は五對三で六回にしてコールドゲームとなり盛中勝つ

(盛商) 野木藤池田下橋藤田
平佐谷菊小坂高澤福
653182947
81

(黒中) 葉藤(信)邊池(貢)原川
千齋阿波菊阿菅石瀨
586312497

(遠中) 山木津谷村木川
杉佐材熊中鈴木淺藤
861325974

(關中) 多原川田寺木(信)川葉
本菅及熊小佐千舞千
6895617342
18

二七九

八年の記録(東北豫選まで)

△五、七 岩手醫專對盛岡實業戦は三對一で醫專勝つ
△五、一四 盛岡實業對岩手醫專戦は十六對一で實業大勝
△五、一四 福岡中學對八戸中學戦は延長戦の後十對八で福中勝つ
八戸 210101210000 8
福岡 041000030002 10

△五、二六 遠中ク一二— 六岩手醫專
△五、二八 盛岡實業一八A—一七遠中ク
△五、二八 高農 四—一盛中
△六、五 早稻田大學野球部選手佐藤茂美君は盛岡中學野球部指導のため來盛した
△六、一〇 高農醫專定期野球戦は第一回十三對六で高農勝ち、第二回戦は四對三で醫專勝つて一勝一敗となつたが決勝戦は醫專田村選手の負傷で中止した
△六、一一 都市對抗岩手縣豫選の盛岡實業對鐵道俱樂部戦は盛中球場で舉行三對二で實業勝つ
鐵道 10000010000 2
實業 0001011000 3

△六、一七 盛中對盛商戦は三對二で盛商勝ち十八日の第二回戦では十一對六で盛中勝つ
△六、一八 遠野中學六A—〇黒澤尻中學 築館中學一四A—一六一關中學

△殘壘 關中三 遠中一三
準決勝

遠中對福中戦は長澤(球)圓子、渡邊、佐藤(壘)四氏審判、遠中先攻で開始

福中 0010000000 7 1
遠中 000104011 1

(福中) 部中野山木分原井村
阿田小遠白國藤平辻
648125379

(遠中) 山木津谷村木澤川石
杉佐材熊中鈴木淺藤
861325497

(盛商) 盛商對盛中戦は佐藤(球)渡邊、松島、圓子(壘)四氏審判盛商の先攻で開始
盛中 0100100000 2
盛商 4000020000 6

二七九

- 2 二〇七・三 (盛岡青年)
- 3 二〇八・〇 (盛岡中學)
- 4 二〇九・〇 (岩手師範)
- 5 二一五・〇 (江南商業)

七年の記録

△九、四 岩手水泳協會主催第八回東北々海道中等學校水上競技大會は前年度の優勝校秋田中學を始め梅檀中、鶴岡工、酒田商東北學、盛岡中、岩手中、江南商、角館中、青森商、八戸中の十一校を集めて市内杉土手プールで舉行、左記戦跡で鶴岡工業が優勝した

三百米混合種泳鶴岡工業(菅原、武田、富樫)四分一四秒 ▲八百米自由型堀(鶴工)二分四二秒六 ▲百米自由型富樫(鶴工)一分〇五秒四：新記録 ▲二百米平泳御法川(秋中)三分一〇秒四：新記録 ▲二百米自由型富樫(鶴工)二分三六秒一 ▲百米背泳石澤(青商)一分二二秒二 ▲四百米自由型堀(鶴工)五分三九秒七 ▲二百米繼泳鶴工チーム(菅原、成澤、堀、富樫)二分〇五秒三：各校得点 1 鶴工四分八點 2 秋中二六點 3 盛中二五點 4 角中二一點五八中一四點 6 青商六點 7 東學四點 8 梅中三點

△九、十一 縣體育協會主催第一回縣下水上選手權大會は午前八時より舉行

一般男子 四百米自由型栗谷川武志(盛中)六分 ▲百米背泳内館洋(盛中)一分三〇秒八 ▲二百米繼泳盛岡青年團(高橋、内館、岡田、大森) ▲千五百米自由型名久井五郎(江南)二分四分八秒八 ▲百米自由型栗谷川武志(盛中)一分〇八一秒 ▲二百米平泳佐藤金之助(青年)三分二六秒六

一般女子 二五米自由型高橋とし子(岩手高女)一九秒二 ▲五〇米自由型高橋とし子(岩手高女)四五秒 ▲二五米背泳市田ひな子(岩手高女)二四秒 ▲五〇米平泳鈴木(岩手高女)一分〇三秒五 ▲百米繼泳白百合チーム(川邊、高橋、高橋、小笠原)一分二七秒八

少年一部(高等科) 二百米自由型中谷地清勝(盛岡)三分一五秒 ▲百米背泳蛇澤昌治(岩谷堂)一分四五秒一 ▲百米自由型中谷地(盛岡)一分二四秒二 ▲二百米平泳矢中文太郎(盛岡)四分三一秒八 ▲四百米自由型蛇澤(岩谷堂)七分〇六秒八 ▲二百米繼泳盛岡校チーム(加藤、高橋、矢中、中谷地)二分三四秒九

少年二部(尋常科) 五〇米背泳小林(城南)五二秒 ▲五〇米自由型中田(仙北)三六秒七 ▲百米平泳菅原(仙北)一分五一秒九 ▲百米自由型中田(仙北)一分二七秒 ▲二百米繼泳杜陵校チーム(岩淵、富山、佐

々木、佐藤) 少女部 二五米背泳阿部愛子(岩谷堂)二八秒二 ▲二五米平泳菊池(岩谷堂)二二秒 ▲五〇米自由型阿部(岩谷堂)四九秒九 ▲百米繼泳城南校チーム一分四二秒九

△九、十一 縣體育協會並に宮古體育協會主催の三陸沿岸水上競技大會は宮古灣浄土ヶ濱で舉行

一般競泳 四百米自由型花坂(宮青)六分六秒 ▲百米平泳三浦(宮青)一分二四秒五 ▲二百米自由型工藤(魚商)三分一五秒六 ▲五〇米背泳松田(宮青)四三秒 ▲百米自由型松田(宮青)一分一一秒五 ▲二千米遠泳花坂(宮青) ▲二百米繼泳宮古青年二分一〇秒

中等學校 四百米自由型中澤(水産)六分 ▲二百米平泳南館(水産)三分一六秒 ▲百米背泳田中(水産)一分四二秒三 ▲百米自由型木村(水産)一分九秒七 ▲二百米自由型木村(水産)中澤(水産)二分四五秒二 ▲二百米繼泳水産校A二分五秒七

女子競泳 五〇米平泳石川(宮女)五九秒 ▲二五米自由型伊藤(銀青) ▲五〇米自由型伊藤(銀青) ▲百米繼泳宮古高女一分四一秒

小學兒童競泳 五〇米背泳小田(銀小)五一秒四 ▲五〇米自由型小本(宮小)三秒七

八 ▲百米平泳中村(宮小)一分三五秒 ▲百米自由型岩船(宮小)三一秒 ▲二五米背泳村上(宮小)三五秒 ▲二百米繼泳宮古小學校A組二分三七秒

△十、二 市内中等學校水上競技會は盛中プールに開催、盛中七十四點で優勝した

五〇米自由型林(盛中)三二秒 ▲二百米自由型名久井(江南)二分五〇秒九 ▲百米背泳内館(盛中)一分二六秒八 ▲四百米自由型名久井(江南)六分一二秒二 ▲二百米平泳菅原(盛中)三分三五秒 ▲百米自由型大立目(江南)一分一六秒 ▲百五十米繼泳盛中(内館、菅原、林)一分五一秒二 ▲二百米繼泳盛中(熊谷、小笠原、林、菅原)二分一三秒五

スキー、スケート

全國學生及び全國中等學校氷上大會が引續いて高松池に開催された、これに刺戟された本縣スケート界は俄かに色めき立ち各種大會の開催を見るに至つた。高松池は絶好の條件を具備したスケート場として認められ、今後とも各種大會の開催地となるであらうが現在の所は單に大會の開催地としての盛岡だけしか認められてゐないから今後は優れた選手を持つ盛岡としても斯界に存在を判然させる様努力すべきである

スキー界では高橋源三君と高農住吉君の活躍を特記したい

△九、十一 オリムピックススキー選手監督として渡米した麻生武治氏は福岡中學に開催の體育講習會に出席スキー選手の夏期トレーニングの講演及びウォーキングレッスの實演を行つた

△十、十 岩手スケート協合理事長佐々木休次郎氏は多年本縣スケート界發展に努力して來たが農村窮迫の折柄産業組合事業に専念するため最近健康を害してゐるため一切の公職を辭すると共にスケート協合理事長辭任を聲明した

全國中等學校氷上競技大會

全國學生氷上競技聯盟主催の第三回全國中等學校大會は十二月二十九、三十の兩日高松池リンクで舉行、スピードは傳統を誇つた諏訪蠶糸を破つて苦小牧工業、フイギユア慶應普通部、ホツケイ京城師範が夫々優勝した

- ◇スピード 五百米競走1 中村(苦小牧)五三秒二 2 高林(諏訪)五三秒八 3 安保(苦小牧)五五秒二 4 濱(諏訪)五五秒八 5 泉山(八戸商)五六秒四 6 山田(諏訪) ▲一萬米競走1 中村(苦小牧)二三分五三秒四 2 山田正彦(諏訪)二四分四秒四 3 濱(諏訪)二四分四秒四 4 山田藤男(諏訪)5 安保

秋田中學 1 (010) 0 八戸商業

北海中學 3 (111) 2 慶應普通部

苦小牧工業 1 (001) 0 秋田中學

京城師範 3 (111) 0 岩手師範

岩手中學 2 (011) 1 盛岡中學

苦小牧工業 5 (032) 1 北海中學

京城師範 9 (612) 0 岩手中學

京城師範 4 (103) 0 苦小牧工業

フイギユア 1 山中(慶普)七二、二

2 星野(今市中學)六一、〇 五三 東郷(學習院)五五、九五 4 黒澤(東北中學)五三、一

仁王校B組1 (10000) 0勝陽クラブ

決勝戦

仁王高等科15 (366) 000 0仁王B組

△二、一二 全日本スキー選手権大会に出場した高橋源三選手はジャムブ壮年組で一等又複合競技で二等を得た。

卓球

△九、二〇 昭和六年度の全日本卓球テニキングは日本卓球協会より発表されたが本縣の中島正郎選手(元農大選手)が第一位である。

△十、十二 岩手卓球協会では役員を左の如く決定した

會長森田清次郎 主事駒形俊夫 水原友次郎 阿部鯛助 幹事金田一丈夫 村井三男 小泉三郎 七戸卓 岩野金太郎 高橋幸藏 太田藤三郎 中島正郎 澁谷義郎 吉田義夫 八幡正

△十一、十三 岩手卓球協会主催市内學生軍對實業軍戰は盛中ホールに開催學生七實業六で學生勝つ
△十一、二十 盛岡學生卓球聯盟主催市内中等學校リーグ戰は盛農ホールに開催、江南商業優勝す

1 江南五勝一九點 2 盛農四勝一敗一九點 3 岩師二勝二敗棄權一六點 4 盛中二勝三敗一二點 5 工業一勝四敗七點 6 盛商五敗〇點

全勝者 多田(農)新里(盛中)酒井(師範)高橋(同)和田(江南)

△十一、二三 卓球協会主催第九回縣下中等校大會は盛中ホールに開催、江南商業優勝す

勝 負

盛農4 1水農 江南4 1盛中
黒中4 2岩師 花農4 1盛商
江南4 2花農 盛農4 1黒中
決勝戦 江南商業4 1盛岡農業
△十一、二七 山形市に開催の東北中等校大會に出場した江南商業は群がる精銳を撃破して優勝した

△十二、四 縣下中等校選手権大會は盛中ホールに開催、師範高橋君選手権を獲得した
△十二、十八 縣下實業選手権大會は江南商業に開催、駒形君優勝

昭和八年

△一、四 日本卓球協会主催第二回全國中等校大會に出場した岩手師範は府立第一商業と第一回戰で四對一で惜敗した。
△一、五 東京神田YWCAに開催の全國

中等校大會に出場の本縣代表江南商業は準決勝戦で青森商業と對戦四對零で惜敗した
△一、二九 縣南女子中等校大會は黒澤尻高女に開催、チーム個人共に花巻勝つ
△一、二九 第十回中等校大會は江南商業に開催、盛岡農業A組が優勝した
△二、一二 一關卓球俱樂部主催縣南宮城縣北大會は町役場ホールに開催、花巻農校優勝す

△二、一二 花巻温泉主催日報支局後援の第五回北日本大會ではチーム盛岡北斗、個人は中島選手優勝した

個人準決勝戦

中島(矢澤)3 1澤田(林友)
阿部(北斗)3 1吉田(盛岡)

決勝戦

中島(矢澤)3 0阿部(北斗)

チーム決勝戦

盛岡北斗3 0師門クラブ
△二、一九 盛岡市聯合青年團第一回大會は城南校に開催。

個人戦決勝

阿部(城南)3 0西郷(城南)

チーム戦決勝

城南A組4 0仁王A組

△四、九 岩手卓球協会主催縣下選手権大會は盛中ホールに開催城南の阿部君が優勝

した。

△四、九 花巻卓球協会主催本社後援の第二回大會は花巻高女に開催、チーム戰では江南、個人戰では江南佐々木君が優勝した

籠球

昭和七年

△十、九 黒澤尻高女對水澤高女籠、排球戰は何れも黒女の勝利に歸した。

△十、九 花巻高女校友會主催第一回郡下小學校籠、排球大會は花巻高女コートに開催、決勝成績左の如し

籠球(尋常科)

花巻8 (26) 02 2花巻

同(高等科)

花巻8 (26) 22 4花巻

排球(尋常科)

花巻2 (2121) 916 0上中

同(高等科)

花巻2 (2121) 158 0宮野目

△十、十六 縣下女子中等學校籠、排球大會は黒澤尻高女に開催排球岩谷堂、籠球女師が夫々優勝した

岩手師範43 (2716) 112 3師範二部

蹴球

昭和七年

△十、二三 秋田鐵專對岩手醫專ラグビー戰は盛中球場で舉行

岩手醫專9 (310) 3秋田鐵專

△十、三〇 盛岡蹴球聯盟主催第五回リーグ戰は盛中球場に開催、醫專優勝す

岩手醫專2 (110) 0岩手師範

盛岡中學4 (210) 0盛岡高農

盛岡中學2 (110) 0岩手師範

岩手醫專9 (510) 0盛岡高農

岩手師範9 (510) 0盛岡高農

岩手醫專2 (110) 0盛岡中學

昭和八年

△六、三 盛岡學生蹴球聯盟主催春期リーグ戰では試合中高農の脱退あり興味を半減して、師範始めて優勝す

岩手師範5 0盛岡高農
岩手醫專2 1盛岡中學

岩手警専2 1盛岡高農
岩手師範2 1盛岡中學
岩手師範2 1岩手警専
△六、二四 岩手中學對盛岡中學ラグビー
戦は盛中で舉行
岩手中學24—6盛岡中學

拳闘

△十一、十一 大日拳支部主催岩手日報社
後援第三回大會は公會堂に開催、盛中出身
の専修大學選手田村慶三郎、太田代強兩君
の特別出場あり盛會であつた(審判長谷部、
田村兩氏)
フライ級
赤澤(大日拳)TKO 黄(醫専)
パンナム級
太田(大日拳)引分 三瓶(醫専)
寺崎(醫専)KO 中野(大日拳)
フェザー級
千葉(大日拳)TKO 川井(大日拳)
菊池(大日拳)KO 笹川(醫専)
秋山(大日拳)引分 小原(醫専)
ライト級
木村(大日拳)KO 丹野(醫専)
フェザー級
千葉(大日拳)TKO 川井(大日拳)
スペシャルイベント

武道

高館(大日拳) 判定 雪浦(大日拳)
メンエメント
太田代(専大)引分 荏原(醫専)
△五、二三 第一拳闘クラブ所屬職業選手
として立つことになつた秋山、齋藤、上原
の三君は午後六時盛岡驛發列車で上京し
た。
昭和七年
△九、四 盛岡少年刑務所主催第一區第七
回刑務所武道大會は公園下武徳殿で舉行。
剣道 一等二一點盛岡 二等一七點北海
道 三等一七點網走 四等一六點札幌
五等一一點宮城 六等一一點函館 七等
六點青森 八等五點秋田 九等四點釧路
個人 一等原啓造(盛岡) 二等齋藤喜代
治(盛岡) 三等葉本清丸(網走)
柔道 一等八點網走 二等五點札幌 三
等三點宮城 四等三點釧路 五等一點秋
田
個人 一等小林金一(網走) 二等堀清八
三等佐々木秀夫(宮城)
△九、十 宮古町出身講道館五段中島新一
郎氏は六段に昇段し郷里に歸つたが途中挨
拶のため來社した。
△九、二三 明治大學剣道部主催全國中等

學校剣道大會に出場した福岡中學は左記の
如く第四回戦で惜敗した。
第一回戦 福岡中學—大成中學
第二回戦 福岡中學—錦城商業
第三回戦 福岡中學—茨城師範
第四回戦 烏山中學—福岡中學
△九、二五 黒澤尻中學對花卷農學校の第
一回對抗剣道試合は花卷武徳殿で舉行十三
對五で黒中大勝した。
△九、二六 武徳會岩手支部では柔剣道審
査を施行し有段者に對しては本部に昇段方
推薦したが左の如く昇段認可された。カッ
コ内は舊段級
剣道 二段(初段)並岡武男△二段(東京
東武館) 田卷一壽△二段(初段) 大津重三
郎△二段(修道學院初段) 伊藤四郎△初段
(農學校初段) 菊井清人△初段(一級) 大久
保孝二郎△初段(一級) 藤原平四郎△初段
(なし) 漆戸朗△初段(一級) 山本武
柔道 二段(初段) 須藤孝一△二段(初段)
田中正己△初段(警察初段) 松村萬吉△初
段(一級) 川村徳四郎△初段(なし) 中居善
助△初段(一級) 小澤清四郎△二段(初段)
岩泉安民△初段(一級) 渡邊勢三郎△二段
(初段) 佐藤春生
△十、九 第五回縣下中等學校振武大會は
市内公園下武徳殿に開催 剣道福中、柔道

師範、弓道遠中が夫々優勝した。

柔道

盛岡中學 一關中學 岩手師範 花卷農
黒澤尻中 岩手中學 福岡中學 盛岡農
盛岡商業 岩手工業 遠野中學 水産
不戦勝 江南商業 水澤商業 水産
盛岡中學 盛岡商業 岩手師範 江南商
遠野中學 黒澤尻中 福岡中學 水澤商
盛岡中學 遠野中學 岩手師範 福岡中
決勝戦 岩手師範 2—1 盛岡中學
剣道
水産 岩手工業 水澤商業 花卷中
盛岡商業 盛岡農校 黒澤尻中 岩手
遠野中學 花卷農校 水澤農校 一關中
黒澤尻中 水産 盛岡商業 水澤商
水澤農校 遠野中學 福岡中學 盛岡中
水澤農校 黒澤尻中 福岡中學 盛岡商
決勝戦 福岡中學 7—1 水澤農校
弓道
一等遠野中學十七點 二等黒澤尻中學十
七點 三等一關中學十六點 四等岩手工
業十五點 五等岩手師範十五點 六等福
岡中學十一點 七等盛岡中學十點 八等
岩手中學六點
△十、十六 第五回北日本弓道大會は花卷
温泉射場に開催。
スポーツ—武道

◇団体の部 優勝岩手縣一ノ組二九中
(八重樫。藤井、富谷、鈴木、川村、阿部)
次位二七中秋田縣代表一ノ組、二六中宮
城縣代表一ノ組、二一岩手中縣代表二ノ
組、一七中秋田縣代表二ノ組。
◇個人の部 優勝菅原民次郎(宮城) 二
等八重樫又造(岩手) 三等梅原久衛(同)
四等後藤清文(宮城) 五等今野新藏(岩
手)

△十、三〇 盛岡高農主催第五回東北中等
校柔道大會は横手中學が優勝した。
勝 敗
盛岡中 盛岡商 福岡中 秋田師
横手中 岩手師 遠野中 大館中
盛岡農 岩手工 黒澤尻 岩手中
梅壇中 江南商 横手中 遠野中
黒澤尻 梅壇中 不戦勝盛岡中學
福岡中 盛岡農 盛岡中 黒澤尻
横手中 福岡中 盛岡中 黒澤尻
決勝戦 横手中學 1—0 盛岡中學

△十、三〇 盛岡高農主催岩手日報社後援
の東北中等校弓道大會は盛岡中學優勝。
△十一、六 千厩尚武會主催岩手日報社支
局後援の第二回大船渡沿線武道大會は千厩
小學校に開催、柔道は氣仙沼中學、剣道は
一關中學優勝した。
△十一、十三 第五回警察官武道大會は武

徳殿に開催。

剣道團體

勝 負
二戸署 遠野署 千厩署 釜石署
盛岡署 花卷署 久慈署 沼宮内
黒澤尻 教習所
不戦勝 警察部、盛、日詰、宮古、水澤
一關、岩谷堂
警察部 二戸署 千厩署 宮古署
盛岡署 盛署 水澤署 久慈署
黒澤尻 日詰署 一關署 岩谷堂
盛岡署 警察部 一關署 水澤署
千厩署 黒澤尻
盛岡、千厩、一關決勝リーグ戦の結果、
盛岡二勝して優勝した
個人戦 一等伊藤友治(警察部) 二等小
野兵紀(盛岡) 三等千葉庄助(久慈)
柔道個人 はリーグ戦の結果 一等門馬光
雄(盛岡) 二等伊藤寅吉(二戸) 三等松
村萬吉(盛) 四等中村政治(盛岡)
昭和八年
△四、九 花卷温泉主催岩手日報社後援の
第四回縣下演武大會は温泉道場に開催
弓道 團體優勝花卷支部、個人一等鳥欣
也 剣道 團體優勝盛岡少年刑務所、個
人一等三島斐臣(高農) 柔道 團體優勝
師門俱樂部、個人一等堀野忠六(船越道
二九一

場

△五、一七 縣下郷軍大會は水澤町に開催
盛岡市が優勝した
△六、一二 早大柔道部選手一行十四名は部長氏家教授、師範徳三室氏に引率されて來盛十三日船越道場で練習會を開いた
△六、一一 高農對醫專對抗柔道試合は武徳殿で舉行、醫專三名を破して勝つ
△七、二 盛岡高農主催第六回東北中等校柔道大會並に第三回全國大會東北豫選は高農道場で舉行、仙臺一中勝つ
準決勝 梅壇中學(棄權)岩手師範
仙臺一中(抽籤)東北中學
決勝戦 仙臺一中 2-1 梅壇中學
△七、二 盛岡高農主催第六回東北中等校劍道大會は武徳殿に開催、小牛田農林勝つ
準決勝 盛岡中學 4-1 東北中學
小牛田農林 3-1 横手中學
決勝戦 小牛田農林 3-1 盛岡中學

角力

昭和七年

△九、二七 仙北相撲協會主催東北四縣宮城、秋田、青森、岩手對抗相撲大會は午前八時から南町協會土俵で舉行、試合は一縣五人選出對抗リーグ戦とした結果左の経過で岩手斷然強く十一點を獲得して優勝青森

- 秋田八點、宮城二點となり終つて各縣對抗五番を行つて青森天間川優勝し午後四時半打出しとなつた。
- ◇秋田3
 - 藤の島 (より倒し) 小櫻
 - 花の里 (かはず掛) 御岳山
 - 一力 (突き出し) 伊達里
 - 忍花 (つり出し) 中の里
 - 西の浪 (ひき落し) 天間川
 - 岩手5
 - 黄石川 (つき出し) 海瀧
 - 雷嵐 (ひき投げ) 正宗
 - 手柄石 (つり出し) 石の浦
 - 岩手山 (突き出し) 黒瀧
 - 梅昇 (寄り切り) 若宮城
 - 岩手3
 - 黄石川 (より倒し) 小櫻
 - 雷嵐 (腰投げ) 御岳山
 - 手柄石 (腰くだけ) 伊達里
 - 岩手山 (寄り切り) 中の里
 - 梅昇 (ひき投げ) 天間川

- ◇岩手3
 - 黄石川 (内かけ) 1秋田
 - 雷嵐 (腰なげ) 藤の島
 - 手柄石 (分け) 花の里
 - 岩手山 (ひき落し) 一力
 - 梅昇 (浴せ倒し) 忍花
 - 青森4
 - 御岳山 (上手投げ) 1宮城
 - 伊達里 (振り出し) 黒瀧
 - 中の里 (押し出し) 石の浦
 - 天間川 (寄り出し) 正宗
 - 小櫻 (かけ倒し) 海龍
- △十、八 前澤体育協會相撲部主催熊野神社奉納町内各區對抗リーグ戦は三日町組優勝得點左の如し
1 三日町一九點 2 七日町一八點 3 二十人町一七點 4 目呂木一四點 5 五十人町一四點 6 白鳥一四點 7 新町一〇點
△十一、三 岩手日報社主催第三回縣下中等校大會は高農相撲場に開催、盛岡農學校が榮ある日報優勝旗を獲得した

川原木2-0 阿部 渡邊2-1 須藤
○盛中三 二江南 ○遠中三 二盛農
金田1-2 0 及川 八木2-1 1 米倉
千葉0-1 2 阿部 佐々木2-1 1 武田
川村2-1 0 川原 及川0-1 2 伊藤
晴山1-1 2 和原 櫻桃0-1 2 高橋
阿部2-1 1 飯富 川原木2-1 0 渡邊
○江南五 ○盲啞 ○盛農四 一盛中
及川2-1 0 佐々木 米倉2-1 0 金田一
阿部2-1 0 澤田 武田2-1 1 千葉
川原2-1 0 澁谷 伊藤2-1 0 川村
和原2-1 0 千葉 高橋0-1 2 晴山
飯富2-1 1 須藤 渡邊2-1 1 阿部
○遠中四 一盲啞 ○江南三 二盛農
八木2-1 0 佐々木 及川0-1 2 米倉
佐々木2-1 0 澤田 阿部0-1 2 武田
及川2-1 0 澁谷 川原2-1 1 伊藤
櫻桃1-1 2 千葉 和原4-1 0 高橋
川原木2-1 0 須藤 飯富2-1 1 渡邊
○盛中五 ○盲啞 ○江南三 二遠中
金田1-2 0 佐々木 及川2-1 0 八木
千葉2-1 0 澤田 阿部1-1 2 佐々木
川村2-1 0 澁谷 川原2-1 0 及川
晴山2-1 0 千葉 和原1-1 0 櫻桃
阿部2-1 0 須藤 飯富1-1 2 川原木
斯して遠中、盛農、江南同點となり決勝リーグを行ふ

江南商業 3-1-2 遠野中學
盛岡農校 3-1-2 遠野中學
盛岡農校 3-1-2 江南商業
昭和八年
△六、二五 縣下中等學校相撲大會は高農に開催、盛岡農校勝つ
遠中 4 1 盛農 岩 師 4 1 久慈農
盛岡農 5 0 江南 盛 中 4 1 盲啞
岩工 4 1 福中 遠 中 4 1 岩 師
遠中 3 2 岩工 盛岡農 3 2 盛 中
決勝戦 盛岡農校 3 2 遠野中學

岩手縣小誌

(四)

四月 △五日 縣經濟更生課新設△六日 縣廳課長異動、中村前岩銀頭取收容△八日 臨時縣會開く、△十日 國民同盟岩手支部結盟準備會發會式(安達總裁出席)△十一日 赤澤盛岡市會議長盛銀事件で收容△十五日 銀行事件飛火し代議士、縣議、市議連續々検事局に出頭△十六日 盛岡市會議員選舉、岩銀事件で熊谷平助、平井範助兩氏收容△十七日 皇后陛下震災地御下賜金傳達式△二十日 三陸震嘯遭難物故者大追悼會△廿二日 志賀代議士檢事局に出頭△廿四日 田子代議士出頭△廿六日 龜島重治氏盛岡市會議長に當選△二日 藤田前岩銀常務收容△六日

李健公殿下御來盛△七日 盛岡市長選舉中村市長再選さる△十二日 米國聖公會主事監督ゼームスベルリ氏來盛△十三日 九戸郡侍濱の落選村議發狂して全部落を焼き拂ふ△二十日 瀨川貴族院議員盛銀事件で收容さる△二十二日 古屋代議士檢事局に出頭命ぜらる△廿四日 折壁村大火五十戸焼く△廿一日 無産消費組合思想事件一齊檢舉、岩銀九十兩銀行整理案發表
六月 △一日 支那事變陣歿九十二勇士慰靈祭、江刺郡米里村人首十八戸焼く△三日 九十銀行取調開始山邊前常務收容、△五日 盛岡銀行營業取消さる△六日 熊谷代議士岩銀事件で收容△十四日 盛岡三田銃砲店花火倉庫爆發△十九日 強震△二十四日 熱河戰の犠牲となつた郷土兵六十二勇士死の凱旋△三十日 東伏見大妃周子殿下花卷温泉にお成り
七月 △一日 東京世田ヶ谷の老妾(堀籠エサ)絞殺犯人は一關町千葉格也と判明 △八日 盛岡市助役伊東與一郎氏決定、滿洲出征中の西部隊滿期除隊兵弘前、青森、盛岡の各原隊に夫々凱旋、盛銀清算人事務引繼終る△十七日 盛岡、弘前部隊殘留初年兵渡滿△廿二日 稗貫郡石鳥谷町大瀨川校全焼
八月 △一日 中等學校東北豫選大會盛岡に開かる△七日 盛銀事件の赤澤、太田、藤原氏等保釋出所△八日 金田一、矢幅兩氏の保釋出所許さる

養蠶家製絲家ノ共同管理
 勞資ノ協調共存同榮主義

盛岡市

岩手縣是製絲株式會社

盛岡工場

電話

二二八番
 八六二番

高田工場

電話

五七番

千厩工場

電話

三九番

福岡工場

電話

六九番

明るく正しく……非常時の大衆金融

盛岡市内丸



岩手無盡株式會社

久慈支店	千厩支店	福岡支店	宮古支店	釜石支店	一關支店	花卷支店	水澤支店
前澤出張所	雫石出張所	日詰支店	黒澤尻支店	岩谷堂支店	沼宮内支店	高田支店	

校長 内村 兵藏 創立明治廿三年

▲本科第一學年 高小學卒、中學二年修了
滿蒙科支那語特設 九月十日〆切



補缺 募集

麻布獸醫畜産學校

東京市麻布區新堀町二番地

▲特典 無試験獸醫師開業

毎年三月新學期募集ス

學則要郵券

製造品目

金、銀 御 盃
各會員 徽章
競技用メダル
優勝カッブ
御卒業記念品
大賞牌
各種帽章
大、小 卸 杯
御木 七 寶
美術 七 寶
帶留、ネクタイピン
貴金 屬
團、校 優勝 旗
セルロイド製名札
食券 徽章



合資 會社

高山徽章商會

軍需品部

電話下谷(83)六八五七番
振替口座東京七四二八八番
電信略號(タ)又ハ(タカヤマ)

「ゼンマンシルバー製カッブ
製作發賣元
金、銀ブロンズ製メダル
東京市神田區榮町
岩手日報社御用達
陸海軍御用達

世界の動きは「聯合」から全日本へ

新聞聯合は全國新聞の共同組合



略稱「聯合」新聞聯合社

新聞聯合は内外廣告の代理機關

日本の聲は「聯合」から全世界へ

本社 東京市橋區銀座八丁目九番地
電話代表番號(57)二一一番
大阪支社 大阪市北區中之島二丁目江商ルビ
電話代表番號 九五七五番

支局所在地

奉天	天津	上海	北平	臺北	京大	桐生	廣島	福函	青島	仙臺	新長	福岡	下關	神戶	京都	名古屋	橫濱
長春	哈爾濱	漢口	南京	青島	濟南	廣東	香港	倫敦	巴里	柏林	紐約	桑坡	晚香	吉隆	泗水	暹羅	仰光
倫敦	巴黎	柏林	紐約	倫敦	香港	吉隆	泗水	暹羅	仰光	倫敦	巴黎	柏林	紐約	倫敦	香港	吉隆	泗水

津宇 救命丸

坊やのお薬

救命丸の小兒哺育藥としての優秀さは皆様御自身の幼少時代の御経験でお承知のことと存じます。
小兒の五疳驚風、虫氣、ヒキツケ、智惠熱、諸種の發熱、胃腸疾患、胎毒、麻疹等小兒の疾患には是非救命丸をお與へ下さい。赤ちやんにも呑みよい様に小粒に出来て居ります。



【定價】
五圓十圓
二圓三圓
五十錢 一圓
二十錢 三十錢

發賣元
玉置合名會社
東京日本橋區瀬戶物町
振替仙臺七二番

花卷温泉

自然の景勝靈泉の卓効

東北本線花卷驛連絡電線十二分
(海岸線急行停車)

四季紹介

- ▲櫻・四月下旬より五月中旬
 - ▲新緑・藤・つじ・五、六月
 - ▲避暑・七、八、九月
 - ▲萩・友禪菊・九、十月
 - ▲紅葉・十月中旬より十一月上旬
 - ▲スキー・十二月下旬翌年三月下旬
- ▲大宴會場・ゴルフ場・動物園・植物園
遊戯場・スキー場

茶代全廢各館値下斷行

内湯	旅館	松雲閣
内湯	旅館	千秋閣
内湯	旅館	花盛館
内湯	旅館	蓬萊館
内湯	旅館	別荘

營業品目

- 和洋鋼鐵器具
- 亞鉛板、丸釘、銅板
- 針金、コイルター、特製鋸
- 大工道具一式
- 萬打及物
- 淺野セメント
- 高級秩父セメント
- 建築材料度量衡器

合資會社 **傘平出金物店**

電話一〇四九番

盛岡市肴町

帝國生命保險代理店

皮膚・梅毒
泌尿器科

八木醫院

盛岡市下の橋際
電話六六番

入院隨時

岩手縣花卷町

三 大津屋吳服店

(電話)卸部四八番
小賣部四番

釜石町只越

大津屋釜石支店

(電話)二七二番



福兒保險

第二の國民 常磐の小供



親として小供の成長を願ひ成功を祈らぬ者はありますまい、斯うした見地から小供の将来に大なる希望と安心率を與へるためにこの度福兒保險と云ふ無診査の復利拂戻しの(利益配當附)新種保險を始めました

加入年齢は生れた時から十歳六ヶ月迄男女の別なくとも御加入が出来ます掛金は僅少で一日八錢の節約を二十ヶ年心懸けて貯けば三十歳に御成人の時、樂々と壹千圓になります。

詳細は福兒保險案内を御一覽下さい 申込次第御送り申します

本社 東京・日比谷 常磐生命保險株式會社

洋紙商

株式會社 **三井** 商店

東京市日本橋區室町三丁目四

電話 (24) 自代表番號 一二〇三番 (七)
日本橋 (24) 至 園 一二〇九番 (七)

振替貯金口座 東京三六四九番
支店所在地 大阪 名古屋 京都 門司

赤毛・赤毛染
君の代

價定
 液粉新
 製製小
 五十四十
 錢錢

如何なる白毛赤毛も...髪洗ひせんとす
 毛質を傷めず...クセ毛チアレ毛を直す
 標枕を汚さず...價が一番安い
 全國藥店にあります

本品の大特長

髪化粧は君が代から

眉毛に眉墨.....

顔に白粉.....
 口に紅.....

婦人は先づ白毛染



東京浅草藏前
 本 山吉商店
 電話浅草 二八八二番
 六八五〇番
 振替東京 一九三七二番

店理代 { 社會式株險保命生本日
 社會式株險保災火上海京東
 社會式株險保災火上海正大

銘酒
七福神

株式會社

箱崎庄吉商店

岩手縣花卷町

菓子種部 花卷 電話一二番
 酒造部 石鳥谷 電話二番
 醬油部 花卷 電話一一番
 東京支店 京橋 電話四二四番
 中村支店 中村 電話一五九番

森永チョコレート



しづかに
 偲ぶ
 力の糧！
 わが歡びの
 甘き味ひ！



十錢・三十錢

森永製菓株式會社

許 特 賣 專 米 英 日

高 速 度

機 造 鑄 動 自 年 萬

專 特

許 賣 萬 年 字 母

製

造 能 率 普 通 字 母 の 五 倍

世 界 で 最 も 構 造 簡 單 然 も 機 能 同 確 で 能 率 偉 大

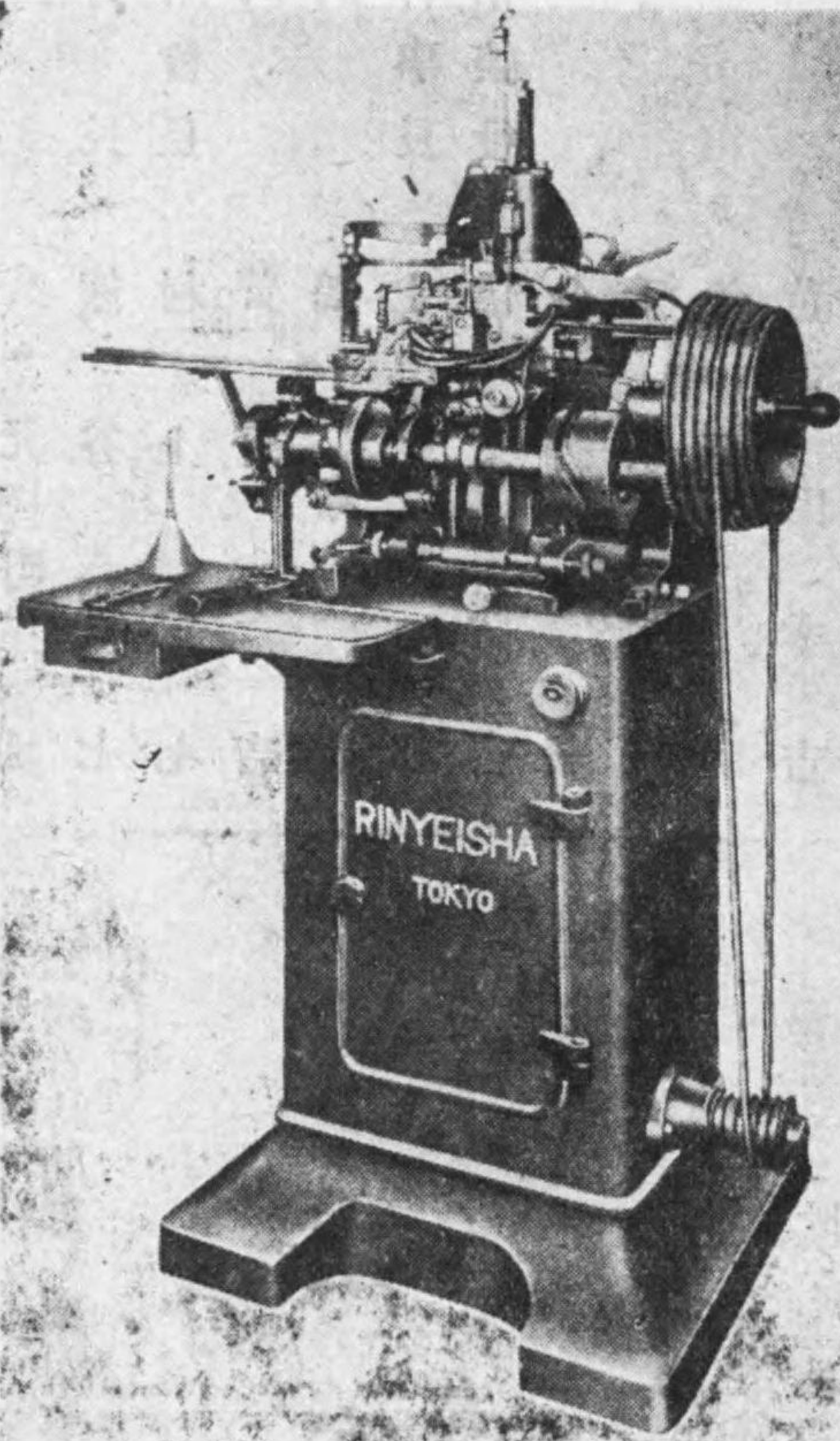
一 日 最 高 能 率 十 二 萬 本 七 活 字 本 仕 上 賃 一 毛 に 該 當

質 硬

萬 年 活 字

硬 度 眞 鍮 よ り 固 く

耐 久 力 絶 大



EVER LASTING TYPE CASTER

專 賣 特 許 { 硬 質 萬 年 活 字 } 製 造 元
 { 萬 年 字 母 }

林 榮 社

東 京 市 澁 谷 區 仲 通 一 丁 目 十 五
 電 話 青 山 二 八 六 三 番

○岩手縣高等官及判任官俸給表

級	俸	職名
一級	五、三〇〇	知事
二級	四、九一〇	書記官
三級	四、六〇〇	地方視學官
四級	三、四〇〇	地方小作官
五級	三、〇〇〇	地方警視
六級	二、七〇〇	地方事務官
七級	二、四〇〇	地方學官
八級	二、一〇〇	地方學校長
九級	一、八〇〇	判任官
十級	一、五〇〇	
十一級	一、三〇〇	
十二級	一、一〇〇	

○岩手縣地方待遇職員俸給表

級	俸	待遇別
一級	四、〇〇〇	奏任官待遇
二級	三、六〇〇	判任官待遇
三級	三、四〇〇	
四級	三、〇〇〇	
五級	二、七〇〇	
六級	二、四〇〇	
七級	二、一〇〇	
八級	一、八〇〇	
九級	一、六〇〇	
十級	一、四〇〇	
十一級	一、三〇〇	
十二級	一、一〇〇	

高等官俸給は縣の地方技師、鐵道、營林局其他の地方技師はこの例に依る。
判任官俸給は縣廳、司法關係、營林署、稅務署、鐵道關係、郵便局、教育關係の判任官は全部この例に依る。

○岩手縣有給吏員俸給表

年俸又は月俸の區別	職名	年俸	月俸
四、五〇〇	土木工師	四、五〇〇	一八〇
三、八〇〇	營繕技師	三、八〇〇	一四〇
三、四〇〇	診療所々長	三、四〇〇	一三〇
三、一〇〇	診療所醫師	三、一〇〇	一二〇
二、七〇〇	營繕技師	二、七〇〇	一〇〇
二、四〇〇	營繕技師	二、四〇〇	九〇
二、〇〇〇	營繕技師	二、〇〇〇	八〇
一、八〇〇	營繕技師	一、八〇〇	七〇
一、六〇〇	營繕技師	一、六〇〇	六〇
一、四〇〇	營繕技師	一、四〇〇	五〇
一、二〇〇	營繕技師	一、二〇〇	四〇
一、〇〇〇	營繕技師	一、〇〇〇	三〇
八〇〇	營繕技師	八〇〇	二〇
六〇〇	營繕技師	六〇〇	一〇
四〇〇	營繕技師	四〇〇	以下

○盛岡市吏員俸給表 (一號表)

市長助役	役收入	主事	技師	病院長	書記	病院長	醫師	技師	藥劑師	掃除	掃除	看護	雇員
五、〇〇〇	二、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇

(二號表)

職名	一級	二級	三級	四級	五級	六級	七級	八級	九級	十級
技師	一、六〇〇	一、二〇〇	一、〇〇〇	八〇〇	七〇〇	六〇〇	五〇〇	四〇〇	三〇〇	二〇〇
藥劑師	一、四〇〇	一、二〇〇	一、〇〇〇	八〇〇	七〇〇	六〇〇	五〇〇	四〇〇	三〇〇	二〇〇

岩手縣廳

五級 大原朝三
月五九 中山朝丸
月五四 照井守三
無給 營繕技師 川村清次郎
土木工師 上野節夫
年三〇〇 地方技師
無給 都市計畫地方委員 渡部幸三郎
營繕技師 川村清次郎
年一六 技師 川村清次郎
營繕技師 川村清次郎
五級 大沼浩
六級 菊地健祐
五月七 正八 鈴木一郎
月一〇 地方警 今初男
月一〇 察技師 今初男
月一〇 建築技師 川村大助
無給 道路技師 川村茂
土木技師補 川村茂

月七二 動七 佐々木惠太郎
月六〇 星重雄
月五七 千原フミヨ
五級 動八 藤原茂八
六級 長澤繁治
六級 下林一雄
六級 及川儀七
月四八 佐川孝次郎
月四七 渡邊正治
七級 種市愛友
月四二 村田康雄
八級 及川舜一
營繕技師補 白田長吉
八級 白田長吉
土木屋 白田長吉
(日一、四〇〇)坂本良平(日一、七〇〇)吉田タヨ
臨時土木屋
(日一、八〇〇)鈴木總光(日一、七〇〇)杉原傳(日一、五〇〇)會計課兼務吉田德四郎(日一、四〇〇)小林誠一(日一、四〇〇)藤澤德藏(日一、三〇〇)小原芳夫(日一、三〇〇)田沼匡(日一、三〇〇)菊池七郎(日一、三〇〇)杉山春男(日一、三〇〇)知事官房文書課兼務 佐藤

勝雄(日一、二〇〇)中澤謙次(日一、二〇〇)阿部琢治(日一、二〇〇)工藤傳(日一、二〇〇)古館政義(日一、二〇〇)宮村昇(日一、二〇〇)川村廣邦(日一、二〇〇)曾根正二(日一、二〇〇)荒川善治(日一、二〇〇)佐々木喜代治(日一、二〇〇)熊谷順三(日一、一〇〇)田鎖高悦(日一、一〇〇)五日市美奈(日一、一〇〇)岩野昇二(日一、一〇〇)關三三郎(日一、一〇〇)菊池三代(日一、一〇〇)菊池章(日一、一〇〇)澤田俊吉(日一、一〇〇)欠畑盛男(日一、一〇〇)小野寺ハツセ(日一、七〇〇)坂本千代(日一、六〇〇)昆武自動車運轉手
(日一、二〇〇)鎌田禎二(日一、二〇〇)中村正一
盛岡土木管區(盛岡市内丸)
技師 主幹 雜賀 大三
道路書記兼土木書記 長澤 健吉
道路技師兼土木技師 雜賀 大三
△月九七 技師 雜賀 大三

五級 出井渡
七級 三芳秀男
月四九 川村次郎
月四七 高橋久志
月四七 小森和夫
月四四 鈴木秀一
土木技師補 鈴木秀一
月五二 工藤傳次郎
七級 佐藤榮
月四二 藤澤一郎
月四二 昆野勇行
月四二 晴山德三
八級 馬場宗一
臨時土木屋
(日一、四〇〇)佐々木正男(日一、四〇〇)福田武志(日一、四〇〇)櫻庭綱次(日一、三〇〇)高橋幸一(日一、二〇〇)山本正夫(日一、二〇〇)山口一正(日一、二〇〇)菊池謙之助(日一、一〇〇)鶴田林藏(日一、一〇〇)橋本正一郎
花巻土木管區(神貫郡花巻町)
技師 主幹 大坊 富衛
道路技師

岩手縣廳

四級 技師 大坊 富衛
△月九七 兼土木 油 仁之助
七級 兼土木 根田萬之丞
月六〇 兼土木 根田萬之丞
道路書記兼土木書記 松岡耕三
土木技師 松岡耕三
月六二 動八 及川幸之助
土木技師補 (旭) 及川幸之助
月六〇 室民二
月四二 高橋儀逸
八級 竹澤與惣吉
臨時土木屋
(日一、〇〇〇)大卷憲造(日一、三〇〇)竹鼻正二(日一、二〇〇)藤原良次郎
一關土木管區(西磐井郡一關町)
技師 主幹 小泉 敬吾
月一 菅原 武美
道路書記兼土木書記 菅原 武美
月五九 動八 佐藤 己三郎
道路技師兼土木技師 遠藤 貞吉
月六九 遠藤 貞吉

月六九 阿部兵太郎
七級 技師 菅原 武美
月六四 山崎枝 豐
月六一 長澤專次郎
月五四 新山榮次郎
十級 橋本好次郎
土木技師 橋本好次郎
△月九七 技師 小泉 敬吾
七級 小座間英藏
月四三 三浦秀夫
八級 島山信次郎
月三九 片方鐵雄
九級 島山瑞穂
臨時土木屋
(日一、〇〇〇)松野莊三郎(日一、五〇〇)伊藤次郎(日一、四〇〇)加美山軍司(日一、二〇〇)佐々木健一(日一、一〇〇)菅原篠木尙爾(日一、一〇〇)菅原美紀雄(日一、一〇〇)瀧澤力(日一、一〇〇)高橋勝三郎(日一、一〇〇)長澤正
遠野土木管區(上閉伊郡遠野町)
技師

月一 主幹 鈴木 眞
道路書記 正一 喜平
月七三 道路技師兼土木技師 鈴木 眞
四級 技師 鈴木 眞
月四七 高坂邦勝
土木技師 高坂邦勝
月六二 菊池軍三郎
土木技師補 菊池軍三郎
六級 小野市太郎
七級 宮本俊以
七級 鈴木正治
臨時土木屋
(日一、四〇〇)深倉幸吉(日一、二〇〇)大里實(日一、二〇〇)藤澤市彌
宮古土木管區(下閉伊支廳内)
技師 主幹 太田 米藏
月一 後藤 新藏
月六〇 道路書記兼土木書記 田澤助太郎
月六二 道路技師兼土木技師 田澤助太郎
四級 技師 太田 米藏
△月九七 留目己之松
六級 羽川忠右衛門

月六三 佐々木 備
月五四 鈴木三郎
十級 瀨戸助
月四二 瀧澤良之助
土木技師兼道路技師 瀧澤良之助
月二〇 技師 後藤 新藏
土木技師補 後藤 新藏
月六〇 平澤 德也
六級 高橋 謙藏
六級 及川 雄三
七級 宮川 芳輔
七級 小山 秀雄
月四二 清藤 壬一
八級 和賀 壬一
八級 藤村 與惣吉
月三七 三浦 松雄
臨時土木屋
(日一、三〇〇)大川四郎(日一、三〇〇)小原興之(日一、二〇〇)小山八郎(日一、一〇〇)小野 那二
久慈土木管區(九戸郡久慈町)
技師 主幹 武 内 晃
道路書記兼土木書記

九級 宮澤 豐太
 道路技手兼土木技手
 五級 技手 武内 晃
 月七〇 神崎 利公
 月七〇 森 政藏
 月五八 勳八 岩城 三郎
 月四二 星野 新一郎
 土木技手兼道路技手
 十級 高橋 義雄
 土木技手補
 步兵中尉
 月六二 從七 原子 彌男藏
 月六〇 勳六 工藤 太一
 六級 關口 實
 六級 伊勢 清太郎
 七級 佐藤 時惠
 八級 柏田 四郎
 臨時土木履
 (日一、六〇〇)佐野毅一(日一
 五〇〇)中村功(日一、四〇〇)
 吉田忠祐(日一、三〇〇)飯塚
 一郎(日一、二〇〇)阿部正一
 (日一、二〇〇)船越文武
 ○二戸土木管區(二戸郡福岡町)
 技手 主幹 齋藤 芳須慶
 月一

道路書記兼土木書記
 八級 勳八 菅原 定雄
 道路技手兼土木技手
 五級 技手 齋藤 芳須慶
 九級 柴田 喜市郎
 九級 小澤 一三郎
 十級 細田 勝男
 土木技手兼道路技手
 月六一 加美山 三郎
 土木技手補
 月五二 鈴木 與七
 六級 瀧澤 正美
 七級 金澤 丙
 七級 上田 秀一
 七級 猪股 道太郎
 臨時土木履
 (日一、五〇〇)桐明萬藏(日一、
 五〇〇)村瀬節三(日一、〇〇)
 高橋勝悅
 ○臨時黒澤尻土木管區
 (和賀郡黒澤尻町)
 技手 主幹 遠藤 靖
 月一
 道路書記兼土木書記 石川 多利男
 十級 道路技手兼土木技手

四級 技手 遠藤 靖
 △月九七
 六級 菊地 正男
 月七二 大久保 喜雄
 月六二 曾我 吉郎
 月四九 佐藤 義雄
 土木技手兼道路技手
 月五七 荻原 喜三郎
 土木技手補
 月四八 小田島 源八
 月四二 安原 健吉
 月三三 市川 貞治
 臨時土木履
 (日一、五〇〇)田島三郎(日
 一、五〇〇)富澤勝藏(日一、
 〇四〇)加藤恒夫
 ○臨時水澤土木管區
 (膽澤郡水澤町)
 技手 主幹 池田 保二
 月一
 道路書記兼土木書記 大澤 六郎
 月六〇
 道路技手兼土木技手 池田 保二
 四級 技手 及川 雄一郎
 月七〇 程田 將一
 月六九 鈴木 寅之助
 月六七

三〇八
 月六〇 町田 佐千代
 月六〇 淺山 隆
 九級 青野 孝次郎
 土木技手補
 月六〇 鈴木 千里
 月五三 岡本 十郎
 七級 佐藤 岩太郎
 八級 渡邊 力次
 月四二 井上 義政
 臨時土木履
 (日一、四〇〇)梅原兵衛(日一
 三〇〇)八角四郎(日一、三〇
 〇)小泉武一(日一、二〇〇)菅
 原太太郎(日一、二〇〇)零石
 正男
 ○臨時盛土木管區(氣仙郡盛町)
 技手 主幹 加藤 文治
 月一
 道路書記兼土木書記 無給 土木技手 佐々木 松助
 補(四級)
 道路技手兼土木技手
 六級 技手 加藤 文治
 七級 居石 駒一
 月六一 石塚 留吉郎
 九級 菊池 孝吉
 月四七 坂下 平二

十級 大石 泰樹
 土木技手補
 月六〇 及川 富治
 四級 佐々木 松助
 六級 小泉 一郎
 六級 蒲生 新治郎
 六級 清水 則久
 八級 伊藤 彌善治
 八級 千田 新市
 八級 熊谷 佐市
 八級 三條 平
 臨時土木履
 (日一、四〇〇)菊池重夫(日一
 四〇〇)釜津田健次(日一、三
 〇〇)高橋國衛(日一、二〇〇)
 似内孝(日一、二〇〇)室野長
 太郎(日一、二〇〇)齋藤金一
 ○臨時釜石土木管區
 (上閉伊郡釜石町)
 技手 主幹 勳七(旭)
 功七
 月一
 道路書記兼土木書記 新田 留吉
 無給 今野 民彌
 月四二 三浦 清淨
 道路技手

五級 川村 秀三
 六級 技手 新田 留吉
 月六七 森 運次
 七級 山口 利一郎
 月四九 佐藤 美雄
 月四一 丸岡 勝治
 土木技手兼道路技手
 月六〇 竹川 孝一
 土木技手補
 月六〇 今野 民彌
 月六〇 菅田 俊悦
 月六〇 川島 一男
 臨時土木履
 (日一、六〇〇)飯岡信善(日一
 二〇〇)澤多陸男(日一、二〇
 〇)濱田剛(日一、〇〇〇)工藤
 正夫
 ○臨時岩泉土木管區
 (下閉伊郡岩泉町)
 技手 主幹 八角 斌
 月一
 道路書記兼土木書記 田口 岩太郎
 無給 八角 斌
 月六八 小野 勝雄
 月六七 及川 二良
 七級

月六四 田原 賢隆
 月四九 萱 猛
 土木技手補
 月五四 田口 岩太郎
 六級 兵頭 仁
 六級 根本巳之次郎
 七級 向井田 仁志
 八級 菊池 德治
 月三八 池田 三男
 臨時土木履
 (日一、五〇〇)下川原恒吉(日
 一、三〇〇)藤澤太郎(日一、二
 〇〇)佐藤國男(日一、〇〇〇)
 袴田孝造
 ○零石川工管所(岩手郡厨川村)
 技師 本正 信藏
 道路書記兼土木書記
 六級 吉田 政一郎
 月四二 佐々木 市郎
 道路技手兼土木技手
 四級 笠岡 英男
 △月九七 中山 前三
 月四八 土木技手兼道路技手
 月七四 比佐 直永
 土木技手補

三〇九
 六級 中村 嘉門
 七級 加藤 鎮平
 八級 萱野 勝三
 臨時土木履
 (日一、〇〇〇)小原直太郎(日
 一、五〇〇)田口隆五郎(日一、
 四〇〇)松島靜雄(日一、二〇
 〇)出井文雄(日一、〇〇〇)大
 澤正
 ○和賀川工管所
 (和賀郡黒澤尻町)
 土木工師
 九級 從五 渡邊 英隆
 道路技手兼土木技手
 五級 勳八 小野 究
 土木書記兼道路書記 渡邊 秀楠
 六級 土木技手兼道路技手 山路 謙一
 月六〇 君ヶ袋 友成
 九級 土木技手補 阿部 勝治
 六級 臨時土木履
 (日一、三〇〇)安原源次郎(月
 一、二〇〇)三田新平
 ○氣仙川工管所(氣仙郡氣仙町)

月五六 小野寺 康夫
 月四二 川戸 興四郎
 十一級 古館 正三
 十二級 近江 清藏
 月三〇 外館 三次郎
 月一八 福田 武志

○杜陵學園
 (盛岡市三ツ割字田畑)
 教諭 西村 芳雄
 月八〇 務取扱 西村 芳雄
 月三〇 勤八 櫻田 智辨
 書記 名久井 駿三
 十三級 保姆心得 西村 ハル
 月一五 園醫 西村 ハル
 手當年六〇 秋葉 隆

○盛岡測候所 (岩手郡淺岸村)
 測候技師 福井 規矩三
 所長 川村 善太郎
 測候書記 川村 善太郎
 月四一 測候技師 關 正二
 月六四 測候技師 關 正二
 月五九 測候技師 關 正二

八級 二宮 三郎
 九級 古館 金藏
 月三八 久保田 謙
 測候所技師心得 藤澤 利一
 月二四 藤澤 利一

(月二二)中谷地美彌(月八)吉田政吉
 ○宮古測候所(下閉伊郡宮古町)
 測候技師 福井 規矩三
 所長 盛岡測候所長 福井 規矩三
 (兼) 候所長 福井 規矩三
 測候書記 富野 五郎
 月五八 富野 五郎
 月四二 金澤 孫次郎
 測候技師 佐々木 理助
 六級 佐々木 理助

○縣商品陳列所(盛岡市内丸)
 所長 地方商 稻村 要八
 工主事 稻村 要八
 農工主事補 中村 浩次
 月五六 中村 浩次
 無給 屬 川村 吉五郎

○縣物産販賣試驗所
 (東京神田區橋本町二ノ二)
 所長 地方商 稻村 要八
 (兼) 工主事 稻村 要八
 農工主事補 中村 浩次

月七〇 吉岡 誠
 十級 吉田 重夫
 月二五 齋藤 直五郎
 ○縣工業試驗場(盛岡市内丸)
 場長 地方商 貫名 基
 同 小川 文四郎
 農工主事補 步兵少尉 小川 文四郎
 月四九 步兵少尉 小川 文四郎
 (兼) 屬 內堀 末次郎
 農工技師 吉川 保正
 四級 △月九七 吉川 保正
 六級 北田 德太郎
 七級 安倍 信雄
 月五四 松尾 善市
 九級 藤田 清一
 農工技師補 塙 公宜
 月三 砂子澤 平三郎

○縣立農事試驗場 (岩手郡本宮村)
 地方農林技師 猪狩 源三
 技師 稻塚 權次郎
 川上 幸治郎

縣技師 工藤 藤一
 農林主事補 金澤 良雄
 月六二 農林技師 三浦 正治
 四級 堀 千代松
 月七三 氣田 恭平
 月六三 吉田 高平
 月五二 柴内 勇藏
 月五二 大矢 勇
 月四八 阿部 芳夫
 月四三 淺沼 清太郎
 農林技師補 松本 莊一郎
 八級 佐々木 政雄
 月三八 岩本 武雄
 月三三 菅原 彦右衛門
 十級 菅原 彦右衛門

○職工分場(江刺郡愛宕村)
 地方農林技師 吉田 伊兵衛
 場長 山口 大五郎
 農林主事補 山口 大五郎
 月五九 農林技師 佐藤 丈藏
 四級 岡崎 義雄
 月七二 兼舍監 岡崎 義雄
 月五七 朴澤 次郎

月四三 渡邊 文雄
 農林技師補 佐藤 武雄
 月三八 佐藤 武雄
 月三三 兼舍監 吉田 美佐雄
 ○輕米農場(九戸郡輕米町)
 農林技師 步兵中尉 藤作
 五級 從七 小澤 藤作

○縣水産試驗場 (上閉伊郡釜石町)
 地方農林技師 小安 正三
 場長 小安 正三
 農林主事補 山内 留次
 月六七 山内 留次
 無給 木下 末松
 無給 稻川 治平
 農林技師 步兵少尉 正幸
 五級 正八 長岡 正幸
 月七三 鈴木 權次郎
 月七二 花檀 盛一
 月七〇 上田 正喜
 月六〇 津輕石 原田 龜太郎
 在勤 山内 留治
 (兼) 大槌野 山内 留治
 勤 化場在 大向 忠次郎
 月四七 勤 化場在 大向 忠次郎

所屬船船長 木下 末松
 月一〇(岩手丸) 木下 末松
 五級 早池峰 稻川 治平
 所屬船機關長 早池峰 稻川 治平
 月九〇(岩手丸機關長) 早池峰 稻川 治平
 勤七(旭) 瀨賀 啓太郎
 七級 早池峰 大澤 富太郎
 無線電信手 步兵少尉 菅原 俊雄
 四級 正八 字佐美 敏男
 五級 菅原 俊雄
 月七〇(早池峰) 黒澤 虎太郎
 農林技師補 虎岩 透
 月四七 虎岩 透
 月四二 館洞 正一郎
 月三九 盛合 鳳一
 月三四 盛合 市平

○縣種畜場(岩手郡藪川村)
 地方農林技師 足澤 勉
 場長 足澤 勉
 重田 恒輔
 農林主事補 重田 恒輔
 月六八(兼)技師 德田 和一

農林技師 小松 可久
 五級 千葉 蓮一
 五級 千葉 蓮一
 內務部 千葉 金吾
 農務課 千葉 金吾
 陸軍三等獸醫 遠山 慶郎
 月六七 正八 長岡 健
 月五九 遠山 慶郎
 十級 小林 正
 農林技師補 四戸 萬吉
 月五九 四戸 萬吉
 囑託醫 加藤 平助
 手當年五〇〇 加藤 平助

○縣種鶏場(岩手郡卷堀村)
 地方農林技師 磯田 秀雄
 場長(兼) 磯田 秀雄
 (兼) 城島 郁夫
 農林主事補 屬 小原 正二
 (兼) 屬 小原 正二
 農林技師 谷井 宗忠
 月七〇 谷井 宗忠
 農林技師補 南部 丈治
 月三四 南部 丈治

○縣蠶業取締所(縣廳內)
 地方農林技師 菊池 貫一
 所長 縣技師 菊池 貫一

農林主事補 響庭 孝三
 (兼) 屬 坂本 清男
 農林技師 千田 清作
 (兼) 倉田 侃一
 (兼) 菊池 信一
 (兼) 菊池 信一

○盛岡支所(盛岡市内丸)
 農林技師 支所長 △月名 田中 館武
 四級 △月名 田中 館武
 農林主事補 秋篠 章見
 月一 秋篠 章見
 步兵少尉 正八 下林 信夫
 月二七 正八 下林 信夫
 蠶業取締吏員 秋篠 章見
 月五七 秋篠 章見
 農林主事補 下林 信夫
 月一 下林 信夫
 蠶種検査吏員 下林 信夫
 日一〇〇〇 下林 信夫

○花巻支所(稗貫郡花巻町)
 農林技師 支所長 高橋 正彦
 月七二 支所長 高橋 正彦
 月一 柳原 孝郎

月一 蠶業取締吏員 菊池千代治
 月六〇 柳原孝郎
 月五〇 菊池千代治
 ○一關支所(西磐井郡一關町)
 農林技手 萩原幸胤
 支所長 千葉東一
 月一 農林主事補 菅原眞實
 八級 蠶業取締吏員 千葉東一
 月四五 千葉東一
 ○一關支所水澤出張所(膽澤郡水澤町)
 蠶業取締吏員 瀧澤 拔刀
 月七五 ○盛支所(氣仙郡盛町)
 農林技手 櫻庭榮一郎
 支所長 櫻庭榮一郎
 ○宮古支所(下閉伊郡宮古町)
 農林技手 伊藤正孝
 支所長 伊藤正孝
 ○久慈支所(九戸郡久慈町)
 農林技手 清見剛雄
 支所長 武田秋衛
 月七二 農林技手 武田秋衛
 ○縣蠶業試驗場(膽澤郡水澤町)
 地方農林技師 高橋辰治
 場長 菊池貫一
 農林主事補 相澤龍之丞
 月六九 農林技手 相澤龍之丞
 六級 (兼) 舍監 小野寺源吉
 六級 (兼) 舍監 小野寺源吉
 月七〇 舍監 龜井英男
 (兼) 舍監 龜井英男
 月二六 菊池恭三郎
 (兼) 菊池恭三郎
 月二二 菊池恭三郎
 十級 園在勤 伊藤健次郎
 月二三 園在勤 後藤象二郎
 講師囑託 後藤象二郎
 緯度觀測所 池田徹郎
 技師 田代壯
 場囑託 田代壯
 ○縣蠶檢定所(岩手郡本宮村)
 農林主事補 櫻庭孝三
 (兼) 下林信夫
 (兼) 下林信夫
 農林技手 若井弘
 九級 羽田野加奈枝
 ○縣蠶物検査所(縣廳内)
 地方農林技師 所長 藤原善二
 農林主事補 小原綱紀
 月五四 小原綱紀
 月四七 菊池齊
 七級 桐山留三郎
 農林技手 高橋金重郎
 五級 高橋金重郎
 步兵少尉 正八及川辰一
 月六二 正八及川辰一
 月六〇 榊原權治
 月四七 相原藤治郎
 月四二 佐藤克巳
 月四二 鎌田幸一
 月三九 佐藤清一郎
 月三九 大更派玉山清
 ○盛岡出張所(盛岡市大澤川原)
 農林技手 勤七及川 麟治

五月市和介
 月四四 農林技手 岩手縣廳
 月四七 厨川 田沼孝一郎
 月四四 仙北町 吉田吉太郎
 月四二 大田 及川榮作
 月三七 平石 小野寺政太郎
 九級 仙北町 内藤英男
 月三二 見前 宇部 孝
 月三二 派出所 千葉 德雄
 月二五 山田 光
 ○矢幅出張所(紫波郡煙山村)
 農林技手 小原喜市
 月四七 八級 山本忠次郎
 月三九 不働 吉田興助
 月三九 德田 佐藤 浩
 ○日詰出張所(紫波郡赤石村)
 農林技手 鈴木万藏
 月四九 岩手縣廳
 月四二 志和 藤原仁右衛門
 月四二 派出所 淺沼勝郎
 月三九 彦部 川村寅藏
 九級 古館派 高橋善三郎
 月三二 水分子 石母田清司
 月二七 兼平 兼平 定一
 ○石鳥谷出張所
 農林技手 松本正己
 九級 稻森芳造
 月四二 八重畑 坂本俊雄
 月三七 新堀 金子克己
 月三七 八幡 高橋清一
 九級 大迫兼 小原健一郎
 月三二 龜ヶ森 工藤忠雄
 ○花巻出張所
 農林技手 工藤忠雄
 月六二 齋藤政左衛門
 月四九 八重畑 清策
 月四四 松田正造
 月四四 宮野目 佐藤靜香
 月四二 湯本 箱崎勇藏
 月三九 湯口 佐々木金之輔
 九級 湯口 熊谷欣治
 月三二 矢澤 照井新三
 月二九 氏家與志夫
 ○土澤出張所(和賀郡十二箇村)
 農林技手 小綿甚悦
 月五二 小綿甚悦
 月三二 小山田 佐藤 孝
 ○遠野出張所
 農林技手 萱場初男
 月四七 萱場初男
 ○黒澤尻出張所
 農林技手 櫻井善三郎
 月五六 櫻井善三郎
 月四四 武藤武夫
 月四四 武藤武夫
 月二七 日向吉男
 ○輕米出張所
 農林技手 佐藤秀助
 (兼) 佐藤秀助
 ○福岡出張所
 農林技手 佐藤秀助
 月四七 佐藤秀助
 九級 千葉 恭
 ○一戸出張所
 農林技手 佐藤秀助
 (兼) 佐藤秀助
 ○沼宮内出張所
 農林技手 吉田傳次郎
 月五九 吉田傳次郎
 月三二 八木 勇
 ○好摩出張所
 農林技手 熊谷西三
 月五二 熊谷西三
 月三九 平館兼 玉山清
 月三九 大更派玉山清
 ○盛岡出張所(盛岡市大澤川原)
 農林技手 勤七及川 麟治

月四九 若柳兼 片ヶ瀬興吉
 月四四 眞城兼 小原新平
 月三七 小出所 高橋正一郎
 月三七 佐倉河 中島隆三
 月三四 和賀 隆一
 月二八 稻垣 榮吉
 ○岩谷堂出張所
 農林技手 菊池 達郎
 月五四 佐々木利藏
 月四二 玉里兼 佐々木長榮
 月三八 米里兼 佐々木長榮
 九級 稻瀬兼 大沼 繁喜
 出所 愛宕派 大沼 繁喜
 月三四 田原兼 菊池 久徳
 月三四 黒石派 菊池 久徳
 藤里兼 伊手派 清原 繁雄
 月三四 伊手派 清原 繁雄
 月三二 梁川兼 柳村佐太郎
 出所 福岡派 柳村佐太郎
 ○前澤出張所
 農林技手 菅野 恒雄
 月四七 菅野 恒雄
 月三四 衣川 佐藤 岩雄
 月三四 派所 淺倉 長郎
 月三二 古城兼 齋藤 谷五郎
 出所 白山派 齋藤 谷五郎
 十級 松本 十藏
 ○一ノ關出張所
 農林技手 高橋 貢
 月四七 高橋 貢
 月四二 萩莊 八木 數枝
 月三六 派所 小野寺武治郎
 九級 眞瀧 高橋 順治
 月三二 平泉 栗原 惣四郎
 月三二 派所 栗原 惣四郎
 月三二 中里 川村 喜兵衛
 ○花泉出張所
 農林技手 川村 喜兵衛
 月六二 上野 佳雄
 月四四 金澤 平賀 源四郎
 月四二 油島 及川 嘉三郎
 月三三 浦津兼 高橋 市雄
 出所 老松派 高橋 市雄
 月三三 永井 田畑 良三
 派所 永井 田畑 良三
 ○岩手縣木炭検査所(縣廳内)
 所長 地方 技師 山本 清治
 地方農林技師 河原崎忠五郎
 農林主事補 月六三 月八 千葉 喜造
 月一 三 履 月七 鈴木 秀也
 農林技手 月六三 月八 千葉 喜造
 四級(月九七)齋藤 銀次
 月六三 月八 千葉 喜造
 月六二 正八 小田島 清吉
 農林 月八 主事補 千葉 喜藏
 月六三 主事補 千葉 喜藏
 臨時検査員 日、九〇〇 中目 十藏
 日、八〇〇 熊谷 久吉
 検査事務囑託
 稗貫郡石鳥 高橋 久
 谷町駐在 高橋 久
 稗貫郡花巻 戸崎 由藏
 町駐在 戸崎 由藏
 膽澤郡水澤 佐々木 由男
 町駐在 佐々木 由男
 氣仙郡大船渡町駐在
 木川田與治右衛門
 下閉伊郡山 柏崎 壹郎
 田町駐在 柏崎 壹郎
 二戸郡小島 熊谷 利助
 谷村駐在 熊谷 利助
 二戸郡福岡 坂本 嘉助
 町駐在 坂本 嘉助
 九戸郡輕米 野月 平留助
 町駐在 野月 平留助
 岩手郡沼宮 柴田 佐太郎
 内町駐在 柴田 佐太郎
 下閉伊郡普 小堀 喜一郎
 代村駐在 小堀 喜一郎
 下閉伊郡宮 三浦 善之進
 古町駐在 三浦 善之進
 上閉伊郡遠 菊池 今助
 野町駐在 菊池 今助
 九戸郡種市 高橋 末治
 村駐在 高橋 末治

和賀郡湯田 早坂 信一郎
 村駐在 早坂 信一郎
 東磐井郡摺 金子 淺吉
 澤村駐在 金子 淺吉
 月二一 畑中 カツ
 ○盛岡出張所(盛岡市仁王
 新築地)
 検査員 從七 三田 萬助
 月四七 動七 三田 萬助
 月四四 村岡 永之助
 臨時検査員 藤澤 正三郎
 日、七五〇 藤澤 正三郎
 日、七五〇 藤澤 正三郎
 ○石鳥谷出張所
 農林技手 田鎖 光
 月七〇 田鎖 光
 臨時検査員 岡山 實夫
 日、七五〇 岡山 實夫
 ○花巻出張所
 検査員 佐藤 甚作
 月五一 佐藤 甚作
 臨時検査員 粒針 實
 日、七五〇 粒針 實
 ○横川目出張所
 検査員 伊藤 喜一郎
 十級 伊藤 喜一郎
 岩手縣廳
 水澤出張所
 農林技手 佐々木 卓爾
 月五九 佐々木 卓爾
 ○一關出張所
 農林技手 佐藤 力次郎
 月四七 佐藤 力次郎
 ○荒澤出張所
 農林技手 騎兵少尉
 月六〇 正八 長岡 鐵彌
 月四六 山田 留太郎
 臨時検査員 梅内 三
 日、七五〇 梅内 三
 ○沼宮内出張所
 検査員 高杉 賀一
 月四一 高杉 賀一
 ○小島谷出張所
 検査員 柳 長治郎
 月五一 動八 柳 長治郎
 十一級 大阪 龜雄
 ○福岡出張所
 検査員 佐藤 市郎
 月四一 佐藤 市郎
 臨時検査員 日、七五〇 字部 弘
 ○金田一出張所
 字部 弘
 月六二 上野 佳雄
 月四四 金澤 平賀 源四郎
 月四二 油島 及川 嘉三郎
 月三三 浦津兼 高橋 市雄
 出所 老松派 高橋 市雄
 月三三 永井 田畑 良三
 派所 永井 田畑 良三
 ○岩手縣木炭検査所(縣廳内)
 所長 地方 技師 山本 清治
 地方農林技師 河原崎忠五郎
 農林主事補 月六三 月八 千葉 喜造
 月一 三 履 月七 鈴木 秀也
 農林技手 月六三 月八 千葉 喜造
 四級(月九七)齋藤 銀次
 月六三 月八 千葉 喜造
 月六二 正八 小田島 清吉
 農林 月八 主事補 千葉 喜藏
 月六三 主事補 千葉 喜藏
 検査員 村井 小一郎
 月四〇 村井 小一郎
 ○種市出張所
 検査員 青名 端喜七郎
 月五二 青名 端喜七郎
 ○久慈出張所
 検査員 片桐 信一
 月四七 動八 片桐 信一
 ○野田出張所
 検査員 片桐 信一
 (兼)
 ○普代出張所
 検査員 菊池 勇
 月五二 菊池 勇
 ○平井賀出張所(下閉伊郡
 田野畑村)
 検査員 那須 新三郎
 月三七 那須 新三郎
 ○小本出張所
 検査員 金野 源治郎
 (兼)
 ○田老出張所
 検査員 田村 福松
 月三七 田村 福松
 ○宮古出張所
 農林技手 萬 善次郎
 月五二 萬 善次郎
 検査員 佐藤 庄衛
 十一級 佐藤 庄衛
 ○山田出張所
 検査員 上野 善次郎
 九級 上野 善次郎
 ○大槌出張所
 検査員 坂本 辰次郎
 月三九 坂本 辰次郎
 ○遠野出張所
 検査員 藤尾 新五郎
 月三九 藤尾 新五郎
 十一級 晴山 正太郎
 ○吉濱出張所
 検査員 菊池 龜吉
 月四二 菊池 龜吉
 ○大船渡出張所
 検査員 千葉 寧
 月四八 千葉 寧
 ○今泉出張所(氣仙郡氣仙町)
 検査員 村田 治一
 月三七 村田 治一
 ○大籠出張所(東磐井郡
 大津保村)
 検査員 安柄 市議
 月三七 安柄 市議
 ○黄海出張所
 農林技手

岩手縣警察部

巡查部長(兼務)佐々木源次郎

特別高等警察課

課長 七等九級 地方警視 從七後藤 吉五郎

七級 調停 千田 武三郎

屬兼警部 澤田 勝治

警部補 兼務 梅津 長吉

加三 正八小館 德司

巡查部長 動七 皆川 已三郎

巡查部長 精 山崎 久太郎

巡查部長 高橋 秀雄

巡查部長 伊藤 德太郎

巡查部長 師岡 保

巡查部長 千葉 正雄

兼務 門馬 光雄

警務課

七等九級

陸軍三等主計

地方警視 正八羽根 盛一

衛生技手 三浦 直道

警部 兼務 動八阿部 眞多七

屬兼警部 動八山陸 新作

兼務 鈴木 菊男

兼務 小野 定

警部補 主計專務

加八特八 飯塚 庄作

加二 須知 政直

月共加三 佐々木 健吉

警察講習所入所中

兼務 伊藤 駒治

兼務 小野 定治

兼務 小野 兵紀

巡查部長 西尾 又八

主計專務特七

巡查部長 動七 阿子島 末吉

月共加五(精) 石澤 幸之進

巡查部長 及川 敬一

巡查部長 主計專務

月共加三 久慈 恒雄

巡查部長 欠畑 俊一

兼務 蒲生 貞喜

兼務 原 正

技手 地方警察技手月七五警備技

手月一〇 今 初男

電話履 笹森 敬一

月六〇 北田 千五郎

月二八 堀 合 壽

月二六 堀中 三之助

月一六 五日市 善太郎

月一六 小森 秀孝

自動車運轉手 八重樫 清吉

日二、六七〇

電話交換手 宮崎 ハル

日、四〇〇

三二四

日、三五〇 阿部 千ヤ

課長 警部五級 齋藤 喜直

屬兼警部 山陸 新作

五級 工務官 柴田 政治

兼務 玉柳 實

技手 建築 川村 大助

技手 警部 石丸 傳

陸軍三等獸醫

技手 警部 外岡 吳郎

技手 警部 遠藤 能雄

地方警 兼務 小澤 正年

地方警 兼務 齋藤 勇

地方警 兼務 齋藤 勇

屬

救療藥劑員

越戸 初太郎

鈴木 哲哉

救療事務員 小川 金太郎

救療產婆 稻葉 シクメ

救療看護婦 長山 キエ

鳴川 末男

大橋 珍太郎

齋藤 勘次郎

菊池 トヲ

新屋 清一

安部 庸三

水落 政一

菅原 磯吉

小野寺 德一

千葉 正夫

(兼務)西村 德次郎(月三五)美

高チエ(月三六)川島 精一(月

三二五

衛生課

巡查部長(兼務)菅野 佐助

課長 地方技師 陸軍三等軍醫

三等從五 動五 年五 四 東海林 豊治

衛生技師 地方技師(年五四)縣立八幡病

院主事 警察教習所教官 三 待

遇從五 動五 五 級 東海林 豊治

技手(月四七)工場監督官補

四 等 待 遇 正 六 年 一 四 五 六

警察教習所教官 五 等 待 遇 從 六

十一 級 佐々木 孝 乙

家畜防疫委員 六 等 待 遇 正 七

十二 級 砂子澤 龜次郎

警部六級 福地 賢喜壽

衛生技手(月八)五級 小澤 正年

衛生技手 技手(月一)七級 越戸 初太郎

技手(月二五)月三五 鈴木 哲哉

陸軍三等獸醫 正八 月五八

技手(七級俸)陸軍三等獸醫

月八 正八 外岡 吳郎

衛生主事補 尾形 久之

防疫醫三級 藤田 二郎

防疫監吏五級

正八 動八 貴志 新兵衛

警部補(兼務) 須知 政直

巡查 主計專務 巡查部長 月六二加六

特五(精) 佐々木 倉松

巡查部長 月五二 四戸 勝人

加三(精) 加三(精) 四戸 勝人

巡查部長 月五〇 鎌田 兵藏

加二(精) 防疫事務 囑託 月手當四五

動八 小笠原 巳之松

月手當三八 梁 川 博

月手當三五 廣田 久次郎

月手當三二(電話履一) 小森 秀孝

正八 動八 大橋 珍太郎

防疫醫務囑託 大橋 珍太郎

衛生技手補 伊藤 清江

月二三 (月二〇)伊藤 榮子(月一九)長

山キエ

恩賜救療醫務囑託

恩賜財團濟生會救療醫務囑託

救療醫員 大橋 珍太郎

三浦 直道

藤田 二郎

保安課

課長 警部五級 齋藤 喜直

屬兼警部 山陸 新作

五級 工務官 柴田 政治

兼務 玉柳 實

技手 建築 川村 大助

技手 警部 石丸 傳

陸軍三等獸醫

技手 警部 外岡 吳郎

技手 警部 遠藤 能雄

地方警 兼務 小澤 正年

地方警 兼務 齋藤 勇

地方警 兼務 齋藤 勇

屬

岩手縣警察部

三四) 村井三男(月三三)諏訪
チヨ(兼務)鎌田正雄(月三二)
堀合誠(月二七)小田益雄(月
二五)村上治平(月二〇)長岡
忠次郎(月一七)齋藤正一
健康保険視察員囑託
月三三 稻津 忠太郎
警察教習所
所長 警部警務課兼務
六級 勳八 阿部 眞多七
教官警務課兼務 松野 久
警部補月四(精) 野 久
巡查
巡查部長助教勳七
月六五 佐々木 福藏
武道教師巡查部長
月四五 西尾 又八
警務課兼務巡查部長
舍監月四一 欠畑 俊一
講師
醫學博士 黒川 伍郎
憲兵中尉 福富 禎一
醫學士 鳥畑 鴻一
地方警視 後藤 吉五郎
衛生技師 三浦 直道
衛生技師 佐々木 孝乙
警部 板橋長右衛門
屬兼警部 柴田 政治

技手 石丸 傳

盛岡警察署(盛岡市内丸)
署長地方警視七等九級
從七勳七 鈴木 要吉
警部司法主任 千葉昌右衛門
月六二
警部補
召集發事務衛生主任
月四八加二(精) 大川 德治
高等主任月三 東 武雄
消防工場、建築物、武道主任
月四三 小野 兵紀
特高外事警察事務主任
月四一 小館 徳司
巡查
外勤巡查監督風紀主任巡查部
長月五三加二(精) 高橋 貫一
巡查部長月五二加三(精)
巡查部長月四四加二(精)
巡查部長月四三加二(精)
交通銃砲火藥類取扱主任
巡查部長月四三加二(精) 高橋 藤吉
庶務巡查部長月四一 八重樫 忠助
刑事事務巡查部長月五六
加五特五(精) 佐々木源治郎
刑事事務巡查部長月五四
加三特六(精) 菅野 佐介

三二六

內勤(主計)月五四加三特四
(精) 藤岡 邦三
(主計)月三七特二、五
刑事月四四特四(精) 武田 基弘
池 正
月四四特三 佐藤 喜四郎
月四三特四 佐藤 侃
月四一特三 那須 彈治郎
特務月四三 小坂 恭太郎
月三九 本堂 勝之助
月三九 山崎 安藏
月三九 福盛田 鼎
月三七 村上 精一郎
月三七 佐藤 辰三
月三七 門馬 光雄
署在地第一區受持 及川 美典
署在地第二區受持 鎌瀧 定敬
署在地第三區受持 藤谷 直太郎
署在地第四區受持 山本 武
署在地第四區受持 山本 武
木伏派出所
第一區受持 西村 金三郎
第二區受持 月四八
加二(精) 佐々木 作治
第三區受持 千葉 重吉
第四區受持 小原 九三
新田町派出所
第一區受持 高間館 八十八
月四九 高間館 八十八
第二區受持 月五〇加三
(精) 早坂 龜治
第三區受持(兼務) 早坂 龜治
第四區受持 早坂 龜治
月三七 大沼 正一
材木町派出所
第一區受持 水原 武
月三九 水原 武
第二區受持(兼務) 水原 武
第三區受持 佐藤 源馬
月三九 佐藤 源馬
第四區受持 千田 庄次郎
月三七 千田 庄次郎
四ツ家派出所
第一區受持(兼務) 中村 政治
第二區受持 阿部 芳武
月三五 阿部 芳武
第三區受持 阿部 芳武
第四區受持(精) 中村 政治
月四八加三(精) 朴澤 謙次郎

紙町派出所

第一區受持 眞鳥 至誠
月四八加二
第二區受持(兼務) 眞鳥 至誠
第三區受持 山蔭 一之
月三五
第四區受持(兼務) 山蔭 一之
看町派出所
第一區受持 村上 長太郎
月三七
第二區受持(兼務) 佐々木 太利藏
第三區受持 佐々木 太利藏
月四四
第四區受持 阿部 好壽男
月三七
第五區受持 蜂谷 太門
月三七
新穀町派出所
第一區受持 佐々木 純雄
(兼務)
第二區受持 佐々木 純雄
月三七
第三區受持 中島 忠雄
月三七
第四區受持 佐藤 廣治
月三五
仙北町派出所
岩手縣警察部

第一區受持

大湯 慶藏
第二區受持 大湯 慶藏
持月四四
第三區受持 佐々木 富太郎
月三九
駐在所
上米内 月四六加二(精) 吉田 盛榮
北山月四二 加藤 保治
海岸月五四 加三(精) 青山 東藏
中野月四一 木村 元吉
築川月三七 清川 清
本宮月四四 菊池 好見
太田月四〇 加藤 勘助
厨川月四八加三 大竹 亥子造
大釜月三七 岩松 長次郎
瀧澤月五二加二 高橋 直人
玉山月三七 齋藤 貢
藪川月四二 柏木 正順
配置未定 佐々木 精治
警石巡查部長派出所
巡查部長月四二加二(精) 小野寺慶一郎
駐在所
零石月四一 鈴木 康兒
御所月三九 長田 利三郎
御明神月三九 傳野 武雄

沼宮内警察署

西山月四四加三 川村 重次郎
小岩井農場請願派出所
月四四加二 藤原 仁一郎
(刑事專攻科入所) 佐藤 豊
月三九
(刑事專攻科入所) 高橋 三治
月三七
防疫事務囑託 三浦 五郎
月四五
沼宮内警察署
(岩手郡沼宮内町)
署長 警部 岩淵 雄一郎
月五七
巡查
高等武道衛生主任
巡查部長月四八加二特四
銃砲火藥類事務取扱汽罐汽
機交通特高主任巡查部長
月四三加二(精) 菅生 一雄
司法消防主任巡查部長
月四一(精) 渡邊 仲
內勤(主計)月四六加二特四
刑事月四三特三 須藤 國男
特務月三七 菊池 郁夫
署在地受持大町派出所
月三七 菊池 丸治
署隣接地第一區受持

月三五

佐々木 敬三
署隣接地第二區受持 員
駐在所
一方井月四(精) 菅原 賢吾
(刑事專攻科入所)
川口月三七 山田 勝郎
卷堀月五二加四
漁民月三七 辻市 安五郎
配置未定月三 伊藤 哲郎
月三五 菊池 長夫
平館巡查部長派出所
巡查部長 月五二加三(精) 寺牛 仁兵衛
駐在所
大更月四四加二 欠員
動八(精) 佐藤 嘉太郎
田頭月四〇 門馬 武三郎
松尾月四四加二 門馬 武三郎
動八(精) 蛭名 正清
寺田月五二加三 築田 恒久
松尾嶺山請願派出所
月四四 宇部 繁藏
葛卷巡查部長派出所
藥品監視員検査委員
巡查部長月五〇加二(精) 岩淵 留之進

岩手縣警察部

駐在所

葛卷月四〇 佐々木秀充
小屋瀬 欠 千葉 六郎
江刈月三七

〇日詰警察署(紫波郡日詰町)

署長 警部 及川 常作
月六二

召集發事務衛生高等主任
巡查部長月四二加二

司法消防主任 巡查部長
月四六加二(精)小原 留吉

交通風紀汽機汽機工場
事務銃砲火藥類取扱主任
巡查部長月四二加二特二、五

内勤(庶務) 新里 庫吉
月三九

内勤(主計) 關 一二
月四三特三

刑事月四四特四 菊池 太利治
動八

特務(刑事專攻科入所) 大井川 永治
月三九

署在地第一區受持 吉岡 義夫
月三九

署在地第二區接續村落古
館村受持月四一特二、五
武道主任 谷藤 石五郎

駐在所

德田月三九 高橋又右衛門
見前月四六加二
飯岡月四四 島田 源三
煙山月四二 佐藤 三教
不動月三九 高橋 伍介
水分月四二 菊池 純一
上平澤月四一 阿部 重泰
片寄月三九 赤石月三七動七 坂本 平太郎
赤石月四三動七 佐比内月四二 栗谷川 與八
赤澤月三七 藤原 万作
長岡月四二 齋藤吉郎左衛門
乙部月五四加四 (精) 武田 勇太郎
娼妓診療醫 木村 政太郎
月手當五

〇花巻警察署(稗貫郡花巻町)

署長 警部 伊藤 儀一郎
四級從七勳八

司法消防特高非常警備主任
月四加二(精)佐々木卯右衛門
巡查 高等特高主任巡查部長
月五六加三(精)千葉 正助

刑事專務武道主任

巡查部長月五〇加三特五
兵事交通主任巡查部長
月四七(精)齋藤 儀
衛生工場銃砲火藥類取締
汽機汽機主任巡查部長
月四八加三特三 (精) 村山 末之進

内勤(庶務) 鈴木 康太郎
月四〇(精) 月五四
内勤(主計) 月五四
加三特四(精) 千葉 哲郎

刑事 欠 員

特務(司法) 嶺岸 西之助
月四四

特務(庶務) 高橋 祐逸
月三七

署在地第一區受持 千葉 岳夫
月四四

署在地第二區受持 小岩 淺吉
月三九

署在地第三區受持 照井 武男
月三五

署在地第四區受持 高橋 文雄
月三五

署在地第五區受持 菊池 貞治
月四四

署在地派所月五〇
加三勳七(精) 小原 源
萬丁目派出所
月五二加四(精)

三二八

駐在所

太田月四四 武川 盛
湯口月四二 林 熊太郎
宮野月四四 高橋 清之進
臺月四六加三 (精) 鈴木 時二郎
湯本 欠 員

矢澤月四六加二勳七
(精) 遠藤 泰輔

石鳥谷月四四 塚崎 眞澄
動八

八幡月三九 多田 文治
島月四二 菅野 佐兵衛

配置未定 菊池 幸藏
配置未定 福田 權次郎

大迫巡查部長派出所
巡查部長月五二加二
(精) 佐藤 由太郎

駐在所 小野寺 彦一
大迫第一區受持
月三七

同第二區受持 三浦 重太郎
月三九

(刑事專攻科入所) 石川 貞
新堀月四三 欠 員

八重畑 欠 員
内川月三九 菅野 富治

十二箇巡查部長派出所
巡查部長月五〇加二
(精) 古山 秀助

駐在所

十二箇第一區受持 及川 繁雄
月三七

十二箇第二區受持 佐々木 信一
月三五

中内月三七 山影 常男
谷内月四四 欠 員

娼妓診療醫 大橋 珍太郎
月二一

〇黒澤尻警察署 (和賀郡黒澤尻町)

署長 警部 目黒 強一郎
月六三

技手 伊藤 裕
衛生技手月天

警部補 銃砲火藥類事務取扱司
銃砲火藥類事務取扱司
法交通風紀高等主任
月四四加二(精)菅原 四郎

巡查 主計專務巡查部長月六〇
加六特五勳七 佐藤 信精

保安課勤務黒澤尻署兼務
火藥類取締專務巡查部長
月六〇加五(精)佐藤 欣吾

召集發事務衛生主任 阿部 公平
巡查部長月三 駒 治

消防工場汽機汽機主任
巡查部長月元 山中 駒 治

岩手縣警察部

岩手縣警察部

岩手縣警察部

岩手縣警察部

岩手縣警察部

岩手縣警察部

岩手縣警察部

岩手縣警察部

岩手縣警察部

岩手縣警察部

岩手縣警察部

岩手縣警察部

岩手縣警察部

岩手縣警察部

岩手縣警察部

岩手縣警察部

内勤(庶務)

月三九 高橋 岩治
刑事月三九特三 日下 健治
特務月四一 菅原 康太郎
特務月三七特二、五 關本 忠太郎
武道主任 關本 忠太郎
署在地第一區受持 佐々木 與四郎
月三五

署在地第二區受持 岩淵 益雄
月三五

署在地第三區若宮派出所受持
月五四加三 (精) 高橋 民治

駐在所 關本 忠太郎
鬼柳(兼務) 關本 忠太郎
江釣子月五六加三 石田 泰助
動七功七(精) 藤根 月四六加二
岩崎月三七 佐藤 助四郎
横川月三九 菊池 八郎
笹間月四六 高橋 義雄
飯豊月四四加二 (精) 下坂 信夫
二子月四二 千葉 岩雄
更木月四二 齋藤 庄五郎
立花月四二 佐々木 鯉一
川尻警部補派出所

〇水澤警察署(膽澤郡水澤町)

署長 警部 鈴木 卯佐治
五級

警部補 司法武道人事相談事務非常
警備事務主任月四六加二
特二、五(精) 長岡 德之進
巡查 刑事專務巡查部長月五〇
加二特五(精) 大貫 高之助

召集發事務消防高等特高
銃砲火藥類取扱主任 小山 德之藏
巡查部長月四 小原 源

交通衛生工場汽
機汽機主任 高橋 梅次郎
巡查部長月元 高橋 梅次郎

内勤(主計) 上川 年
月四七特三

内勤(庶務) 千田 賢治郎
月五六加三(精)

駐在所 川尻月三九 及川 秀克
湯本月三七 欠端 一三
大石月三九 武田 武雄
新町月五二加三 (精) 齋藤 仁右衛門
川舟月四五 白鳥 良平
娼妓診療醫 齊藤 丈太郎
月手當一〇 梶川 菊次郎
電話月二七 梶川 菊次郎

〇水澤警察署(膽澤郡水澤町)

署長 警部 鈴木 卯佐治
五級

警部補 司法武道人事相談事務非常
警備事務主任月四六加二
特二、五(精) 長岡 德之進
巡查 刑事專務巡查部長月五〇
加二特五(精) 大貫 高之助

召集發事務消防高等特高
銃砲火藥類取扱主任 小山 德之藏
巡查部長月四 小原 源

交通衛生工場汽
機汽機主任 高橋 梅次郎
巡查部長月元 高橋 梅次郎

内勤(主計) 上川 年
月四七特三

内勤(庶務) 千田 賢治郎
月五六加三(精)

駐在所 川尻月三九 及川 秀克
湯本月三七 欠端 一三
大石月三九 武田 武雄
新町月五二加三 (精) 齋藤 仁右衛門
川舟月四五 白鳥 良平
娼妓診療醫 齊藤 丈太郎
月手當一〇 梶川 菊次郎
電話月二七 梶川 菊次郎

〇水澤警察署(膽澤郡水澤町)

署長 警部 鈴木 卯佐治
五級

警部補 司法武道人事相談事務非常
警備事務主任月四六加二
特二、五(精) 長岡 德之進
巡查 刑事專務巡查部長月五〇
加二特五(精) 大貫 高之助

召集發事務消防高等特高
銃砲火藥類取扱主任 小山 德之藏
巡查部長月四 小原 源

交通衛生工場汽
機汽機主任 高橋 梅次郎
巡查部長月元 高橋 梅次郎

内勤(主計) 上川 年
月四七特三

内勤(庶務) 千田 賢治郎
月五六加三(精)

駐在所 川尻月三九 及川 秀克
湯本月三七 欠端 一三
大石月三九 武田 武雄
新町月五二加三 (精) 齋藤 仁右衛門
川舟月四五 白鳥 良平
娼妓診療醫 齊藤 丈太郎
月手當一〇 梶川 菊次郎
電話月二七 梶川 菊次郎

三二九

駐在所

太田月四四 武川 盛
湯口月四二 林 熊太郎
宮野月四四 高橋 清之進
臺月四六加三 (精) 鈴木 時二郎
湯本 欠 員

矢澤月四六加二勳七
(精) 遠藤 泰輔

石鳥谷月四四 塚崎 眞澄
動八

八幡月三九 多田 文治
島月四二 菅野 佐兵衛

配置未定 菊池 幸藏
配置未定 福田 權次郎

大迫巡查部長派出所
巡查部長月五二加二
(精) 佐藤 由太郎

駐在所 小野寺 彦一
大迫第一區受持
月三七

同第二區受持 三浦 重太郎
月三九

(刑事專攻科入所) 石川 貞
新堀月四三 欠 員

八重畑 欠 員
内川月三九 菅野 富治

十二箇巡查部長派出所
巡查部長月五〇加二
(精) 古山 秀助

岩手縣警察部

岩手縣警察部

岩手縣警察部

岩手縣警察部

岩手縣警察部

岩手縣警察部

岩手縣警察部

岩手縣警察部

岩手縣警察部

岩手縣警察部

岩手縣警察部

岩手縣警察部

岩手縣警察部

岩手縣警察部

岩手縣警察部

岩手縣警察部

岩手縣警察部

岩手縣警察部

岩手縣警察部

岩手縣警察部

岩手縣警察部

岩手縣警察部

岩手縣警察部

岩手縣警察部

岩手縣警察部

岩手縣警察部

岩手縣警察部

岩手縣警察部

岩手縣警察部

岩手縣警察部

岩手縣警察部

岩手縣警察部

岩手縣警察部

岩手縣警察部

岩手縣警察部

岩手縣警察部

岩手縣警察部

岩手縣警察部

岩手縣警察部

岩手縣警察部

岩手縣警察部

巡査 前澤第一區受持 高橋清之助 月四一 同第二區受持 鈴木福太郎 月四二 同第三區受持 小田島玉次郎 月三七 白山 月三九 姉帶甚吉 古城 月三七 首藤榮政 衣川 月四〇 工藤倉治 生母 月三七 佐藤直志 金ヶ崎巡査部長派出所 巡査部長 山村 政策 月四五 駐在所 金ヶ崎第一區受持 但野正雄 月四六 同第二區受持 齊藤勝太郎 月三七 永岡月四一 千田正左衛門 相去 月四一 我妻澤雄 月三五(刑事專攻科入所) 佐々木 娼妓診療醫 月手當九 阿部 信

署長 警部 松本 清吉 六級 巡査 司法高等衛生主任 巡査部長 月五二加三(精) 深谷壽平 巡査部長 召集發事務武道 工場交通汽機主任 月六一加六(精) 北館伊助 巡査部長 銃砲火藥類取扱消 防風紀主任 高橋興吉 月三九(內勤庶務) 佐々木 忠 月四九加二(特二) 五 內勤(主計) 菊池巳三郎 月五四加二(特四) 刑事(精) 勳七 木村政吉 月三九 特務 菅原久夫 署在地第一區受持 佐々木 要藏 署在地第二區受持 安部英喜 署在地第二區受持 月三七(刑事專攻科入所) 佐藤 豐 駐在所 愛宕月五八加五 小野寺義一 羽田月四八加三 石川 壯藏

藤里月四四加二 田村 元助 福岡月四四加二 相原 市郎 稻瀬月五六加三 橋本 登米 配置未定 桑原榮太郎 米里巡査部長派出所 巡査部長 月四六加二 小野寺 春吉 駐在所 米里月三七 佐藤 貞夫 玉里月四二 菊地 改助 伊手月四四加二 高橋 新太夫 梁川月四八加二 佐藤 定夫 娼妓診療醫 年手當七二 及川 久一郎 居吉検査員 月手當八 正八勳六 菅原忠左衛門 一關警察署(西磐井郡一關町) 署長 警部 月六八 勳八 及川 吉四郎 技手 陸軍三等獸醫 衛生技手 正八 細目 福壽 警部補 月六〇

月四六加二 司法主任 高橋 守雄 巡査 召集發事務高等主任 巡査部長 月五七 葛西清太郎 正八勳八 衛生交通風紀主任 巡査部長 月四四加二(精) 新田 繁見 消防主任 巡査部長 月四四 佐々木 止 庶務工場汽機銃砲火藥類 取扱主任 巡査部長 月四五 桑島 勇吉 刑事專務巡査部長 月五六加四 特四(精) 白鳥 民治 刑事月四七加二 特四 內勤(主計) 月四四 特三 植村 角次郎 特務月三九 菊地 幸次郎 特務月三七 紺野 與三郎 署在地第一區受持 阿部 長一郎 署在地第二區受持 佐藤 叶明 署在地第三區受持 大町 巡査派 出所 月四六加二 特四 武道主任 須藤 虎三郎 署在地第四區受持 大町 巡査派 出所 月三九 米澤 軍平

岩手縣警察部

署在地第五區受持 月三九 特二 武道主任 伊藤 寅吉 署在地第六區受持 阿部 壯 署在地第六區受持 山目 巡査派 出所 (兼務) 高橋 壽 駐在所 赤萩月四四加二 高橋 壽 中里月三九 大槻 勳 殿美月四四 小原 喜惣治 萩月四四 勳八 菊地 勇 眞瀧月四四加二 小原 淳平 平泉月三九 柴田 邦治 中尊寺月三九 中畑 金八 彌榮月三五 谷地中 重安 舞川月四六加二 菅原 廣 長島月四四加二 高橋 德藏 涌津巡査部長派出所 巡査部長 月五六加四 伊藤 東兵衛 駐在所 涌津月三五 一條 敬司 花泉月三九 高橋 完之助 老松 (兼務) 高橋 完之助

金澤 欠員 油島 欠員 日形月五六加五 千葉 堅作 永井月四一 菊地 軍治 月三七(刑事專攻科入所) 後藤 眞 電話履月二九 佐々木 喜久雄 娼妓診療醫 年手當二五二 千原 壽治 千厩警察署(東磐井郡千厩町) 署長 警部 奧寺 德太郎 五級 警部 人事相談事務司法主任 月四六加二 伊藤 松造 巡査 消防交通工場外勤監督 巡査部長 月四四加二 即決銃砲火藥類取扱主任 召集發事務高等衛生主任 巡査部長 月四三 臺 直吉 庶務主任 巡査部長 月五六加三 內勤(主計) 月四六加二 特四 刑事月五〇加三 特三 阿部 重之助

特務月五二加三 特二 五 武道主任(精) 佐久間 愛雄 特務月三九 菊池 齊 署在地第一區受持 高橋 一男 署在地第二區受持 佐藤 富治 駐在所 薄衣月四六加二 佐々木 諱馬 摺澤月四八加二 山崎 文藏 奧五月四二 佐々木 眞 小梨月四四加二 戸板 洪郎 矢越月三九 千葉 金郎 折壁月四二 藤田 英吉 大原巡査部長派出所 巡査部長 月四八加二 高橋 英一 駐在所 大原月四二 長岡 文平 同月三七 小野寺 安右衛門 瀧民月四四加二 菅原 金三郎 猿澤月四四 及川 宗治 興田月四一 後藤 幸右衛門 落合(兼務) 後藤 幸右衛門 藤澤巡査部長派出所

巡査部長 月四八加二 佐藤 誠 駐在所 藤澤月三七 鈴木 敬吾 八澤月五二加三 鳥貫 留治 黃海月四八加二 大内 菊次郎 大津保月四四 三浦 茂一 津谷川月四六加二 戸澤 大助 長坂巡査部長派出所 巡査部長 月五六加四 及川 忠吉 駐在所 長坂月三五 佐藤 貞治郎 門崎月五〇加三 高橋 千代松 勳七(精) 秋山 義男 田河津月四二 石川 壽雄 居吉検査員 囑託獸醫 月手當八 菅原 時亮 盛警察署(氣仙郡盛町) 署長 警部 小野寺 勉 六級 警部補

岩手縣警察部

司法交通主任月四三加二 (精) 範岳 宏磨
巡查 召集警務衛生主任 巡查部長月四六加二 (精) 日下 正雄
武道工場汽機消防風紀銃砲火藥類取扱主任 巡查部長月四三 (精) 田村 寅松
內勤(主計)月五〇特二、五 (精) 工藤 政藏
內勤(庶務)月三九 菊地 弘志
刑事月五四加三特五 (精) 熊谷 永治
特務月三五 藤井 勝
署在地第一區受持 後藤 龜治
署在地第二區接續村落猪川立根受持月三五 佐藤 東藏
署在地第三區接續村落赤崎受持月三七 高橋 善二
駐在所 日頃市月三七 (兼務) 千葉 權五郎
大船渡月四〇 鈴木 康夫
末崎月四六 大場 麒麟造
綾里月五〇加二 柏槽 今朝治
勳七(精) 佐々木謙之助

吉濱月四四加二 伊藤 吉治
越喜來月四二 菅原 清兵衛
上有住月三七 千葉 克己
世田米月五二 小澤 郡平
川口月四〇 高橋 善二
配置未定月三 後藤 龜治
同 月三五 小野寺 二三
同 月三五 小野寺 二三
高田警部補派出所 高田警部補派出所
警部補 月五六加四 (精) 三浦 穩治
駐在所 高田月三五 小野寺 二三
高田月四一 阿部 太善
小友月三五 (精) 島川 千次郎
廣田月三九 菊地 安雄
米崎月五二加二 (精) 金野 義一
氣仙月五二加三 (精) 及川 鎔治
矢作月四一 藤野 太一郎
橫田月四〇特二 松村 万吉
武道主任(兼) 盛娼妓診療醫月手當八
佐々木謙之助

高田娼妓診療醫月手當五 須知 六郎
屠畜検査員月手當一五 佐藤 善九郎
救療醫月三二 平塚 軍平
救療看護婦月三〇 工藤 文江
防疫事務囑託月三七 佐藤 勝雄
同月三七 村上 鶴吉
遠野警察署(上閉伊郡遠野町) 署長 警部 小野 董
月五八 衛生技手 陸軍三等獸醫 月二八 正八 佐々木 一郎
警部補 特高等司法主任 月四六加二(精) 小原 留吉
巡查 刑事專務巡查部長月五四加四 特七(精) 佐藤 德治
銃砲火藥類取扱消防工場汽機主任巡查部長月四六加二 (精) 加藤 政美
召集及徵發事務衛生風紀交通主任巡查部長月四三 三浦 勝見
內勤(主計)月五四加四特四 (精) 藤原 藤四郎

內勤(庶務)月三七 千葉 民臣
特務(司法)月三七特二、五 武道主任 橫山 正志
特務(庶務)(兼務) 伊藤 勝美
署在地第一區受持 熊谷 丹藏
署在地第二區受持 村山 松次郎
署在地第三區接續村落松崎受持月三七 伊藤 勝美
駐在所 上郷月四二加二 (精) 晴山 榮造
土淵月三七 藤澤 仁次郎
附馬牛月四一 高橋 松吉
綾織月五四加三 大坂 長助
齋澤月三九 加茂 運次
小友月三九 菅川 久三
宮守月四一 富人
達會部月四一 千葉 慶司
配置未定月三 佐藤 晋一
同 月三五 菊地 利男
月三七 藤野 政喜
電話月二二 四戸 清治

娼妓診療醫年手當一二〇 川上秀一郎

○釜石警察署(上閉伊郡釜石町) 署長 警部 齋藤 光雄
七級 齋藤 光雄
稅關監視專賣局書記 齋藤 光雄
警部補 齋藤 光雄
司法特高等主任 月四三加二(精) 氏家 昌雄
巡查 (保安課勤務釜石署兼務) 銃砲火藥類取扱專務特高等副主任(兼)巡查部長 月五〇加三(精) 佐藤 三郎
刑事專務巡查部長月四八加二 特四(精) 櫻井 吉次郎
消防召集警務水難救濟事務銃砲火藥類取扱主任 巡查部長月五〇加二 (精) 高橋 典之助
衛生交通工場汽機汽機主任 巡查部長月四三加二 (精) 小野寺 勝雄
內勤(主計)月四四特三 小野寺 正次郎
刑事月四四特四 武道主任(兼) 小田島 貞三郎
特務月三七 佐々木 巳太郎
岩手縣警察部

特務月三五 瀧田 喜八郎
署在地第一區受持月三七特三 武道主任(兼) 發地 義雄
署在地第二區受持 月三五 佐々木 陽一
署在地第三區接續村落受持 月三九 高橋 善四郎
水上派出所第一區受持 月三七 高橋 富彌
水上派出所第二區受持月四四 加二勳八(精) 福山 幸久
駐在所 甲子月四一 押切 勳
唐丹月四四加二 (精) 三浦 正雄
鈴子請願派出所月五六加三 (精) 木戸 篤治
同月三九 小野 源之進
同月四一 阿部 重四郎
大橋請願派出所 山本 庄太郎
月四一 奧村 經夫
大橋巡查部長派出所 巡查部長月五二加二 (精) 及川 靜夫
駐在所 大槌月五〇加二 (精) 佐藤 泰藏

同月三七 多田 光郎
鶴住居月四四加二 (精) 佐藤 宇一
栗橋月三九 小野寺 貢
金澤月三七 小田 守二
配置未定月三 高橋 龍太郎
釜石娼妓診療醫月手當二八 佐野 久米藏
大槌娼妓診療醫月手當六 大宮新右衛門
宮古警察署(下閉伊郡宮古町) 署長 警部 星 壽七
月六八 警部補 星 壽七
司法消防主任月四七加二 (精) 平賀 金吾
巡查 巡查部長(精) 欠 員
召集徵發事務高等特高主任 巡查部長月四一加二 (精) 佐々木 三郎
交通工場汽機汽機銃砲火藥類取扱水難救濟會事務衛生主任 巡查部長月三九 佐々木 敬止
內勤(主計)月四四特四 勳七 渡邊 勘兵衛
刑事月四七特四 佐々木 四郎

特務月三七 佐々木 作太郎
特務月三五 江釣子 雄一
署在地第一區受持 欠 員
署在地第二區受持 黒田町派出所 月四四 菊池 喜一
署在地第三區受持 黒田町派出所 月三七 菊池 喜一
署在地第四區受持 鉾ヶ崎派出所 月四四 菊池 文治郎
署在地第五區受持 鉾ヶ崎派出所 月三七 打矢 精聚
署在地外第一區接續村落受持 月三五特二 古里 政雄
署在地外第二區接續村落受持 月四一 長谷川 憲順
駐在所 花輪月五三加三 (精) 鈴木 武三郎
茂市月三九 龜山 兼雄
刈屋巽加三(精) 阿部 文伍
山口月四六 高橋 金太郎
田老月四四加二 (精) 照井 宇一郎
重茂月四四 木川 直吉
津輕石月四四加二 (精) 加賀谷 繁治
川井巡查部長派出所 巡查部長月四八加二 (精) 和田 喜之助

岩手縣警察部

駐在所 川井月三七 福田 哲夫
川内月四六加二 (精) 村上 廣治
門馬月四二 佐藤 勝應
小國月三九 尾形 梅治
山田警部補派出所
警部補 月六二 (精) 細川 茂兵衛
駐在所 山田月三七 菊池 謙一
同月四三 高橋 健次郎
同月四一 照井 彌太郎
豐間根月五四加三 (精) 山家 兵四郎
船越月四二〇 土橋 長次郎
月四一 (刑事專攻科入所) 三好 米藏
月三七 (刑事專攻科入所) 佐藤 鉄五郎
宮古娼妓診療醫 道又 元吾
月三二 山田娼妓診療醫 松浦 敏也
月八 屠畜検査囑託獸醫 三上 久次郎
月八 宮古診療所看護婦 川村 キサ
救療醫月三二〇 小野崎 佛介

看護婦月三〇 金谷 シマ
岩泉警察署(下閉伊郡岩泉町)
署長 警部補 月五〇 (精) 千田 甲午
巡查 司法消防衛生工場風紀汽罐汽
機主任巡查部長 月六一
加六 (精) 帷子 六郎
銃砲火藥取扱交通武道人事務
生非常警備主任巡查部長 養平
月四三特二、五 稲田 養平
內勤(主計)月四六加二特三
(精) 佐藤 孝之
特務月四四 千葉 今朝治
月四四 佐々木 久一
署在地第一區受持 福山 助五郎
署在地第二區受持 佐藤 健治
月三五 鈴木 星六
同月三七 佐藤 健治
駐在所 小川月四四 佐藤 武男
小川月三八 千葉 龜吉
有藝月三七 橋本 正
小本月三五 小野寺喜代治
同月四四 佐々木 久一
田野月三九 佐々木 初太郎
普代月三七 柴田 儀平

安家月三七 高橋 義守
配置未定月三七 橋本 正
同月三五 佐藤 健治
救療醫月三〇〇 石田 吉治
救療看護婦月三〇 菊池 シマ
屠畜検査員囑託月手當七 前角地初次郎
久慈警察署(九戸郡久慈町)
署長 警部 月六三 八重樫國次郎
警部補 非常警備事務司法主任
月四三加二(精) 千葉 進
巡查 交通消防風紀工場銃砲火藥類
取扱主任巡查部長 小野寺 顯壽
月五〇加三(精) 小野寺 顯壽
召集發事務衛生高等主任
巡查部長月四六加二 (精) 昆野 留治
內勤(主計)月五二加三特四
(動七) 岩崎 太次郎
內勤(庶務)月三七 渡邊 清吉
刑事月四四加二特三 (精) 木下 英雄
特務月三五 佐藤 千秋

署在地第一區受持 上斗米 四郎
署在地第二區受持 出堀 武明
署在地第三區受持 内藤 壽治
駐在所 久慈湊 (兼) 佐藤 千秋
大川目月四六加三 (精) 本間 圓助
大野第一區受持 菊池 久助
同第二區受持 菅原 勇
月四一 (兼務) 菅原 勇
中野 (兼務) 高橋 留廣
字部月四一 野田月四六加三
野田月四六加三 (精) 鈴木 喜三郎
山根月四一 千葉 幸藏
霜月三五 吉田 專藏
川井月三七 高橋 勘二
鹿糠月三九 米田 茂治
城内 (兼務) 米田 茂治
侍濱月四四 齋藤 幸吉
配置未定 小野寺 定雄
月三七 (刑事專攻科入所) 白畑 仁三郎
娼妓診療醫月手當九 市川 市郎

〇輕米警察署(九戸郡輕米町)

署長 警部補 小向 定雄
月五六加四 巡查 司法衛生武道具場風紀汽罐汽
機主任巡查部長月四二加二特
二、五 (精) 及川 民治
召集發事務消防交通銃砲火
藥類取扱非常警備事務人事相
談事務主任巡查部長 小竹 良吉
月四二 內勤(主計)月四二特二、五
(精) 嶽 米吉
特務月三七 加藤 幸之助
署在地第一區受持 木許 潔
月三七 署在地第二區受持 袖林 武夫
月三五 駐在所 晴山月四四 千葉 葵已造
江刺家月三九 齋藤 義男
伊保内月四八加二 (精) 川村 三次郎
戶田月四一 八重島 音治
小輕米月三九 中館 廣
笹渡月三五 龜卦川 六郎
娼妓診療醫年手當七二 向井田 貞吉
屠畜検査員囑託月手當五 中村 一雄

〇二戸警察署(二戸郡福岡町)

署長 警部 齋藤 賢三郎
七級 警部補 司法消防主任
月四四加二(精) 菊池 浩
技手 衛生技手月四八 佐々木 英晃
巡查 召集發事務衛生高等主任
巡查部長月五六加四 (精) 遠藤 泰實
銃砲火藥取扱交通工場汽罐汽
機主任巡查部長 佐藤 次男
月四一 內勤(主計)月四八加三特三
(精) 伊藤 養八
內勤(庶務)月三七 前川 善吾
刑事月四四特三 高橋 清太郎
特務月三九 門岡 諭吉
特務月三五 高橋 榮三郎
配置未定月三五 主藤 祐喜
署在地第一區受持 小田原 永喜男
署在地第二區受持

(兼務) 高橋 榮三郎

署在地第三區接續村落爾薩體
村受持月四一 及川 克志
駐在所 石切所月三七 太田 義雄
金田一月四四 菅野 繁光
斗米月四一動八 小管 善作
御返地月四二 小岩 貢
配置未定 菅原 秀雄
一戸巡查部長派出所 巡查部長月四六加二
(精) 菅原 保己
駐在所 一月月三五 泉澤 馨
浪打月四二 工藤 榮光
鳥海月三九 二階堂己之助
小島谷月四四 鳥 壽太郎
中山月三五 中村 富一
田部月三九 佐藤 勝司
荒澤巡查部長派出所 巡查部長月五二加三
(精) 淺田 安太郎
駐在所 荒澤月三七 澤田 長作
淨法寺月四六加二 (精) 千葉 盛
同 員

專賣局

田山月四三 勳八 今野 清之進
月四二(刑事專攻科入所) 及川 克志
(武道主任) 福岡娼妓診療醫年手當一〇八
一戸娼妓診療醫年手當七二 山崎 喜久藏
仙臺地方專賣局 (仙臺市清水小路)
參事局長 (仙臺市清水小路)
三等一級 正五 鈴木 徹雄
加俸六百圓 勳五
盛岡出張所(盛岡市上田組町)
所長 副參事 七等 從七 香田 金一
書記 六級 勳六
四級(庶務會計)兼技手 藤澤 司郎
正七勳七 六(事業販賣) 遠山 憲
七(庶務調度) 村井 彦太郎
月六(製造共濟) 武田 平三
十(製造調查) 藤村 欣也
十(庶務倉庫) 小野 重雄
十(製造現業) 工藤 孝一
十二(事業監視) 中村 忠夫

岩手縣警察部—專賣局

三三五

三三四

技手

四(製造現業)兼書記
正七勳八 石川 清吾
六(製造現業)
兼書記 黑澤 齋治
月六〇(製造現業)
兼書記 長谷川 正一
九(製造現業)
兼書記 對馬 良次郎
雇 月三六村上政治 月三六福
勢盛耕 月三五田村新次郎
月三二村田廣太郎 月三〇谷
藤鐵次郎 月三〇竹林清 月
三〇小枝美佐雄 月二八小笠
原貞雄 月二八酒井忠 月二
八佐々木光雄 月二七鎌田義
衛 月二七若山榮一 月二七
藤倉洋二 月二七田所徳良
配給員 月三六小笠原留之助
月三二高橋仁藏 月三二谷村
權太郎 月三二高橋要藏
嘱託 嘱託員月九〇醫務中村幸
一郎 月二二同西郷孫十郎
月二二同三田俊次郎 月一二
教育小川ミキ 月一二同小野
龜五郎
看護手 月三二吉田ツル
保母 月三一福士トヨ

巡視

月四〇笹森末吉 月三七
松本惣十郎 月三四小川口次
郎 月三四新藤徳太郎 月三
四菊月孫太郎
電話交換手 日七〇〇小野寺ナ
カエ
◇大迫出張所
所長書記 二級兼技手
正七勳七 伊藤 丑次郎
書記
五(事業耕作) 一井 昌三
六(庶務全般) 鎌田 善五郎
月七(事業全般) 澤田 直二郎
技手
月六〇(煙草鑑定)
兼書記 川村 富太郎
七(煙草鑑定) 安部 拓植夫
雇 月三一大沼操三郎 月二八
櫻井稻造 月二八菊池謙樹
月二六高畑喜一郎 月一九守
山正二
嘱託員 月一五照井龜一 月三
二小泉清 月五二生田目靜
巡視 月三六佐藤泰之助 月三
五清水惣吉
看守人 月四〇菊池徳治
◇千厩出張所

所長

書記四級倉持 實
書記
六(事業耕作) 加藤 一男
七(事業監視) 橋本 正四郎
八(事業耕作) 藤原 一
九(庶務會計文書)
十(事業監視) 村上 長助
十(事業販賣) 川村 哲郎
十(庶務倉庫) 金野 昇
技手
四(煙草鑑定)兼書記
從七勳八 工藤 新次郎
六(煙草鑑定)
兼書記 阿部 政次郎
九(同) 兼書記 佐藤 重雄
雇 月三一佐藤信之助 月二九
熊谷秀三 月二九佐々木孝三
月二八貝沼良一 月二八三浦
百郎 月二八小野寺久男 月
二八小野文彌 月二八白鳥正
男 月二八遠藤正人 月二八
佐藤惠治 月二八佐藤清治
月四〇金野清吾 月四〇千葉
覺
嘱託 月三五三杉元治郎 月一
七小清水字之助 月一七篠田
久一郎 月一五佐藤辰次郎

巡視

月五及川八郎 月五宮崎長吉
月五佐藤豊平 月五村上重一
月五佐藤義實 月五大津新次
郎 月五金野巳之助 月五後
藤良平 月五村上男 月五
小野寺八重藏 月五及川三平
月五太田孫助 無給星義一
高橋孝雄
巡視 月三八小野寺榮一 月三
七昆野倉吉 月二二(摺澤取
扱所)鈴木美樹 月二〇(長坂
取扱所)佐藤剛男 月二〇(藤
澤取扱所)小山好雄
◇沼宮内煙草販賣所
所長書記 十 小野 正
配給員 月三五柴田十助 月
三三横田市太郎
◇日詰煙草販賣所
所長書記十一、和泉 三平
配給員 月三三藤原與五郎 月
三〇鈴木由太郎
◇花巻煙草販賣所
所長書記 七 紛 川 昇
雇 月四一高橋覺太郎 月二八
本宮弘次
配給員 月三〇照井健次郎 月
三〇清水鐵五郎

稅務關係

局長
二級 正五 元尾 光輝
一級 勳四
書記官總務部長兼經理部長
三等一級 從五勳六 長谷川 孝治
書記官直稅部長三等二級
從五 川又 公平
事務官間稅部長四等二級
正六 大塚 喜一
技師鑑定部長四等八級
正六勳六 鈴木 豐太郎
◇盛岡稅務署(盛岡市上田)
署長司稅官 七等九級
預金部出張所長
從七 中出 芳雄
直稅課
課長屬預金部屬
四級九七圓 佐藤 忠治
屬 五級 山本 喜作
預金部屬兼
屬 七級 梅木 仁太郎
屬 七級 根田 保太郎
屬 八級 佐々木倉五郎
屬 十級 渡邊 計三
間稅課

稅務關係

課長屬四級月九七圓步兵少尉
從七勳八 秋元 良次
屬 五級 田澤仁右衛門
屬 七〇圓 河東田 美苗
屬 八級 中澤 重吉
庶務課
課長屬預金部屬
四級月九七圓 飯塚 忠一郎
屬 六〇圓 千葉 久雄
屬 六〇圓 高橋 省三
屬 九級 嶺岸 進
◇花巻稅務署(種實郡花巻町)
署長司稅官四等四級
正六勳五 松本 勇吉
直稅課長屬級 木村 憲之助
直稅課同五級 菅原 義夫
同 六級 菊地 四郎
同 月六〇 佐藤 鐵夫
雇 三二 池田 直實
同 二七 平賀 保
同 二六 瀧田 良造
間稅課長屬級 早川 俊明
間稅課屬六級 佐藤 庄治
屬 七〇 太田 孝之
同 七級 宮田 正之助
同 六〇 大澤 金太郎
同 九級 樫村 重之

〇黑澤尻煙草販賣所
所長書記 七 大盛 厚次郎
雇 月三〇八重樫新三
配給員 月三〇佐藤喜作 月二
九藤原辰見
〇水澤煙草販賣所
所長書記 十 菊池 夏藏
雇 月三二高橋信輔
配給員 月三〇朴澤丑治 月三
〇小野四郎 月三〇柳房吉
月二一藤原嘉男
〇一ノ關煙草販賣所
所長書記 四
從七勳八 松本 正次
雇 月二八和泉幸藏 月二七佐
藤輝雄
配給員 月三〇千葉繁 月三〇
佐木々茂 月二七阿部精
〇盛煙草販賣所
所長書記月七 昆野 重四郎
配給員 月三二金野彥藏
〇陸前高田煙草販賣所
所長書記 十 高橋 辰彦
配給員 月二五松本卯平治
〇遠野煙草販賣所
所長書記十一 勝又 清一
配給員 月二七澤村永八 月二

五菊池雄三
〇釜石煙草販賣所
所長書記月七 宮澤 磯吉
雇 月三〇小山幹雄
配給員 月三三七菊池亮三郎一月
三〇里館修平 日一、〇〇〇
里館直昌
〇陸中宮古煙草販賣所
所長書記 六
雇 月三〇佐々木理左衛門
配給員 月三〇山崎伊作 月二
八湊四郎 月二七佐々木福太
郎
〇岩泉煙草販賣所
所長書記 九 高橋 恭男
配給員 月三三箱石金太郎
〇久慈煙草販賣所
所長書記月六 小川 政孝
配給員 月二七高木文次郎 月
二七柴田賢次郎
〇二戸煙草販賣所
所長 書記十 門脇 孝三
雇 月三七南館石太郎
配給員 月三〇黑澤由松 月二
五相馬徳太郎 日一、〇〇〇
山田末次郎

